

名張市における
平成30年度全国学力・学習状況調査の
結果・分析と今後の取組について

平成30年9月
名張市教育委員会

開始後 1 1 回目（1 2 年目）をむかえ、本年 4 月 1 7 日に、市内の小学校第 6 学年及び中学校第 3 学年の全児童生徒を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果について、本市の児童生徒の学力の定着状況、学習状況、生活習慣等調査の分析結果や今後の取組を、以下のとおりまとめました。

本調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる目的で実施するものです。しかしながら、調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面です。これらのことを十分考慮し、今後の名張市の学校教育の一層の充実を図ってまいります。

なお、数値のみで対象児童生徒の学力が評価される、また、数値のみによりランク付けがなされる傾向にも、一定歯止めがかかる現状に鑑み、一昨年度より、本市全体の正答率等の状況を数値により公表しています。

○調査実施年月日 平成 3 0 年 4 月 1 7 日（火）

○調査実施児童生徒数 ※当日実施数

小学校（全 6 年生 1 4 小学校）：国語 A・B、算数 A・B 645 名、理科 646 名

中学校（全 3 年生 5 中学校）：国語 A・B 630 名、数学 A・B 631 名、理科 632 名

1 各調査項目の平均正答率等の状況

平成30年度	小学校					中学校				
調査項目 ※1	国語		算数		理科	国語		数学		理科
	A	B	A	B		A	B	A	B	
名張市 ※2	68.0	50.0	58.0	46.0	57.0	77.0	61.0	68.0	48.0	68.0
全国比(%) ※3	96.2	91.4	91.3	89.3	94.5	101.2	99.7	102.9	102.3	102.9
H 2 9 との比較	-1.4	-7.7	-5.4	-4.4	—	+3.0	0.0	+2.3	+2.6	—
三重県	70.1	53.6	62.8	50.1	58.8	75.3	59.7	66.6	45.7	66.0
全 国	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1

名張市 ≥ 全国

全国 > 名張市 ≥ 三重県

全国・三重県 > 名張市

※ 1 調査項目・・・A：主として「知識」に関する問題、B：主として「活用」に関する問題

※ 2 名張市平均・・・昨年度より整数値（小数第一位を四捨五入）により文科省より結果提供

※ 3 全国比(%)・・・全国平均を100としたときの名張市平均の割合（得点率）

<小学校>

本年度は、すべての教科で全国平均・三重県平均を下回りました。
また、前年度全国比との比較でも、すべての教科においてマイナスとなりました。

<中学校>

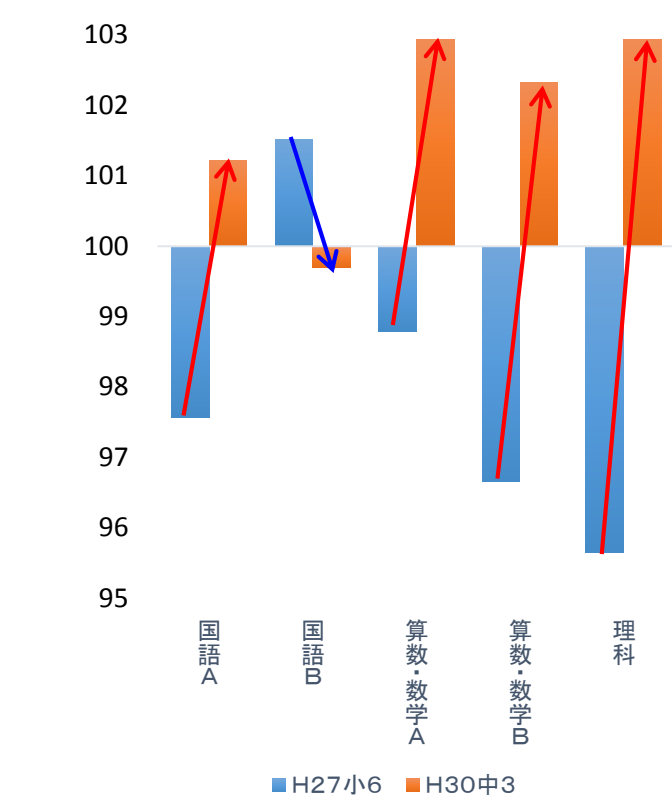
ここ数年は全国平均・三重県平均を上回るか、下回っても差が縮まる傾向でしたが、本年度は、国語 B 以外は全国平均を上回り、三重県平均はすべての教科で上回りました。特に理科は、過去 2 回、小中学校とも全国平均を下回っていましたが、今回、中学校において全国平均を上回りました。

また、前年度全国比との比較では、国語 B が横ばい、国語 A、数学 A・B においてプラスとなりました。

＜中学校3年生生徒の小学校6年生時との比較＞

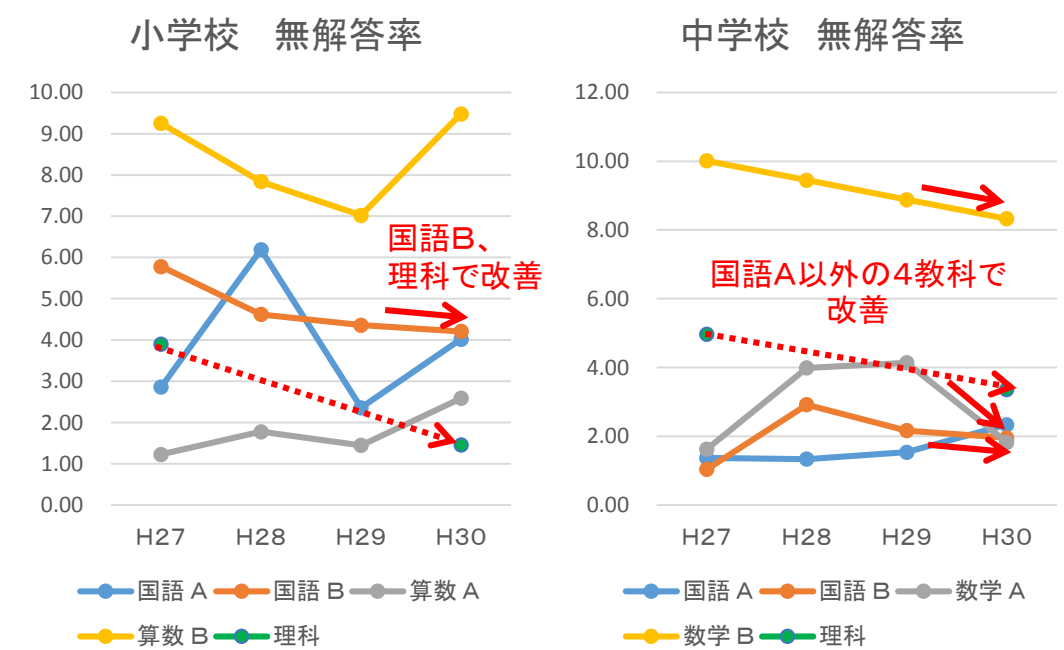
中学校3年生の調査対象生徒の3年前（小学校6年生時）の全国比を比較すると、やや下回った国語B以外の調査項目で3ポイント以上の伸びが見られ、そのすべての調査項目において全国比が100%を上回りました。

調査項目		国語		算数・数学		理科
		A	B	A	B	
本年度 (平成30年度) 中学3年生	名張市 平均	77.0	61.0	68.0	48.0	68.0
	全国比 (%)	101.2	99.7	102.9	102.3	102.9
3年前 (平成27年度) 小学6年生時	全国比 (%)	97.6	101.5	98.8	96.7	95.7
経年変化	全国比(%)の 比較	+3.6	-1.8	+4.1	+5.7	+7.2



＜無解答率の状況＞（経年変化）

無解答率と平均正答率には強い相関関係があります。本年度、小学校では、国語B、理科で昨年度（前回調査）より無解答率が低くなりましたが、すべての調査項目において全国平均より高くなっています。中学校では、毎年全ての調査項目で無解答率が全国より低い、よい傾向が続いています。



	年度	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	調査項目	名張市	全国	名張市	全国	名張市	全国	名張市	全国
小学校	国語A	2.86	3.56	6.19	5.29	2.36	2.77	4.02	3.51
	国語B	5.78	6.09	4.62	4.62	4.36	4.31	4.21	3.76
	算数A	1.23	1.79	1.78	1.79	1.45	1.59	2.59	2.48
	算数B	9.25	9.12	7.84	7.37	7.02	6.42	9.48	7.93
	理科	3.90	3.21	—	—	—	—	1.46	1.21
中学校	国語A	1.37	2.57	1.34	2.05	1.54	2.43	2.34	3.15
	国語B	1.04	2.23	2.92	4.39	2.17	3.80	1.96	3.01
	数学A	1.63	3.72	3.99	6.30	4.14	6.25	1.83	3.28
	数学B	10.01	15.34	9.45	14.69	8.88	11.71	8.33	12.61
	理科	4.97	6.98	—	—	—	—	3.36	5.04

無解答率が全国と同じか低い

無解答率が全国より高い

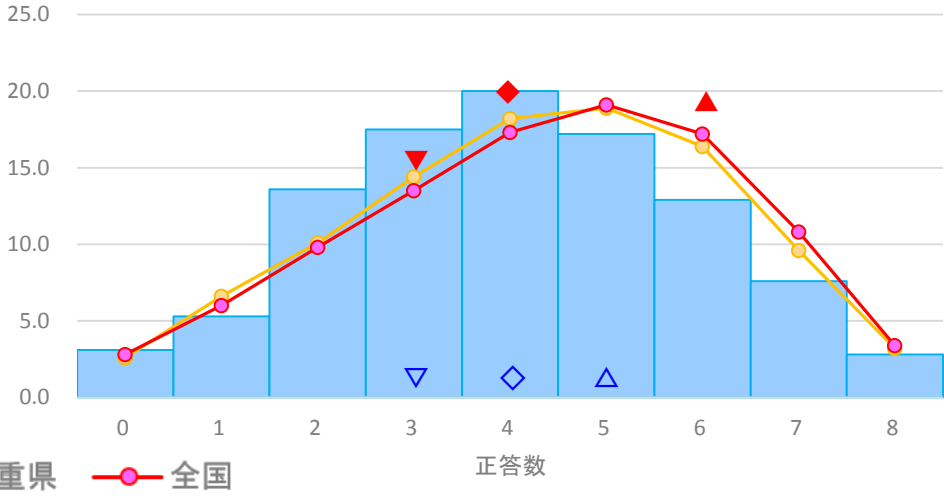
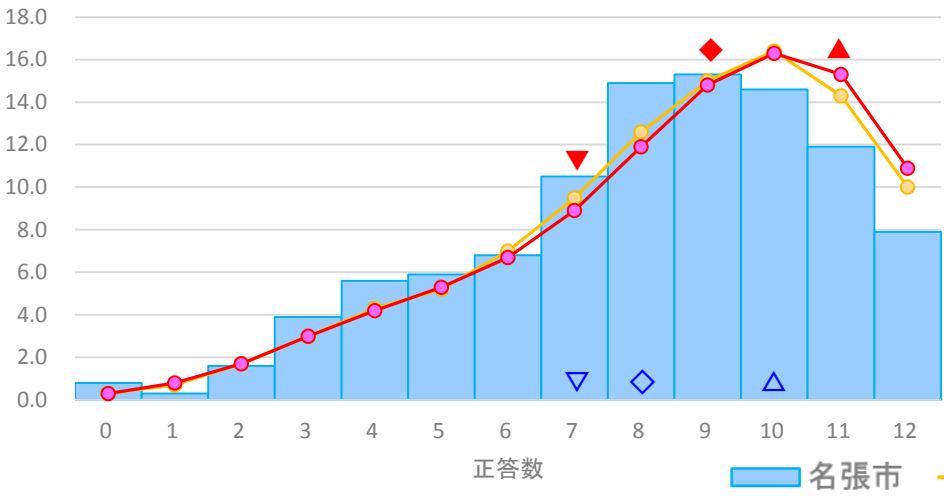
2 各調査項目の結果概要

平均正答率・・・全国より良い傾向を(+)、そうでない傾向を(-)
無解答率・・・全国より良い傾向を(-)、そうでない傾向を(+)で表しています

小学校	国語A		
	名張市	全国	差
平均正答率	68.0	70.7	-2.7
無解答率	4.02	3.51	+0.51

小学校	国語B		
	名張市	全国	差
平均正答率	50.0	54.7	-4.7
無解答率	4.21	3.76	+0.45

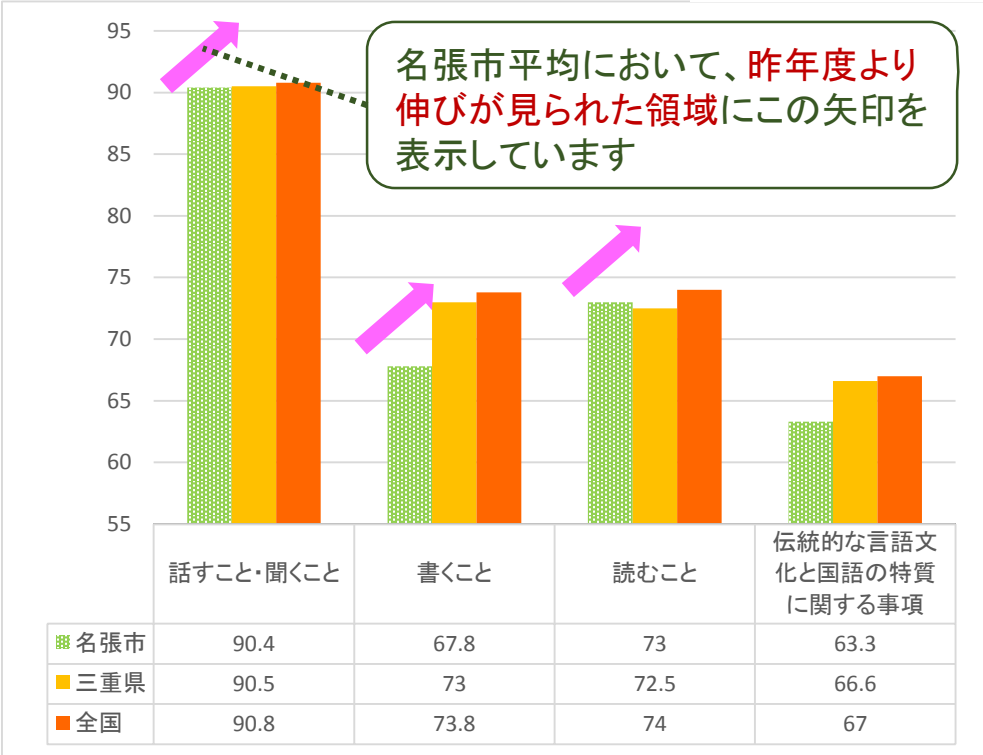
＜平均正答数＞



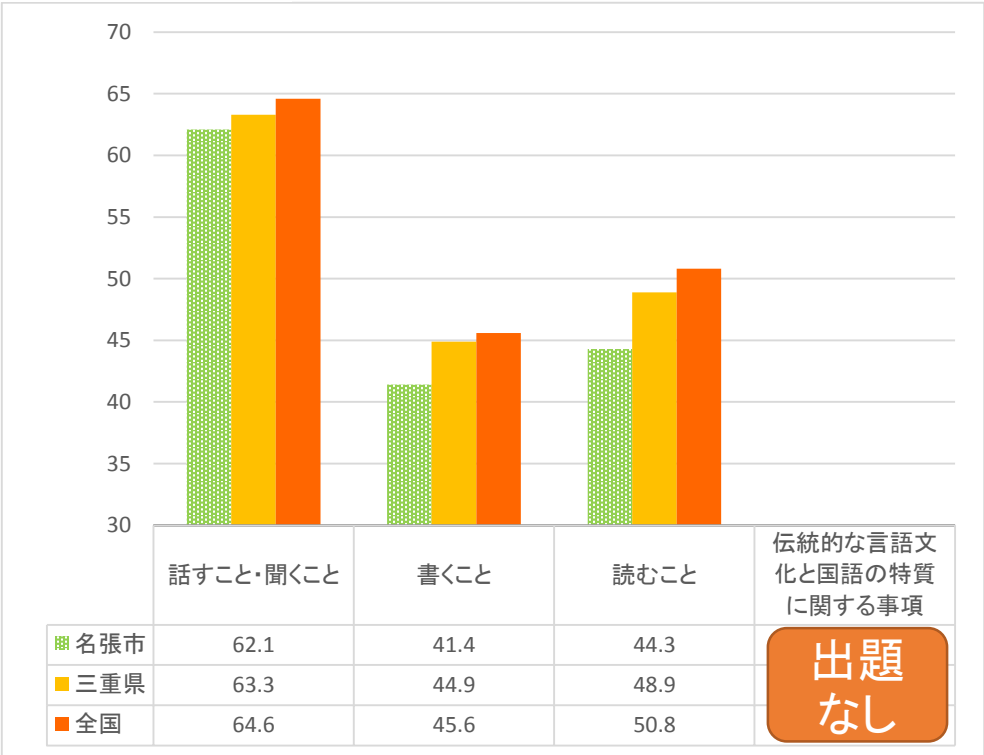
	名張市	三重県	全国
第3四分位	△10.0問	10.0問	▲11.0問
第2四分位	◇ 8.0問	9.0問	◆ 9.0問
第1四分位	▽ 7.0問	7.0問	▼ 7.0問

	名張市	三重県	全国
第3四分位	△5.0問	6.0問	▲6.0問
第2四分位	◇4.0問	4.0問	◆5.0問
第1四分位	▽3.0問	3.0問	▼3.0問

＜領域別／平均正答率＞

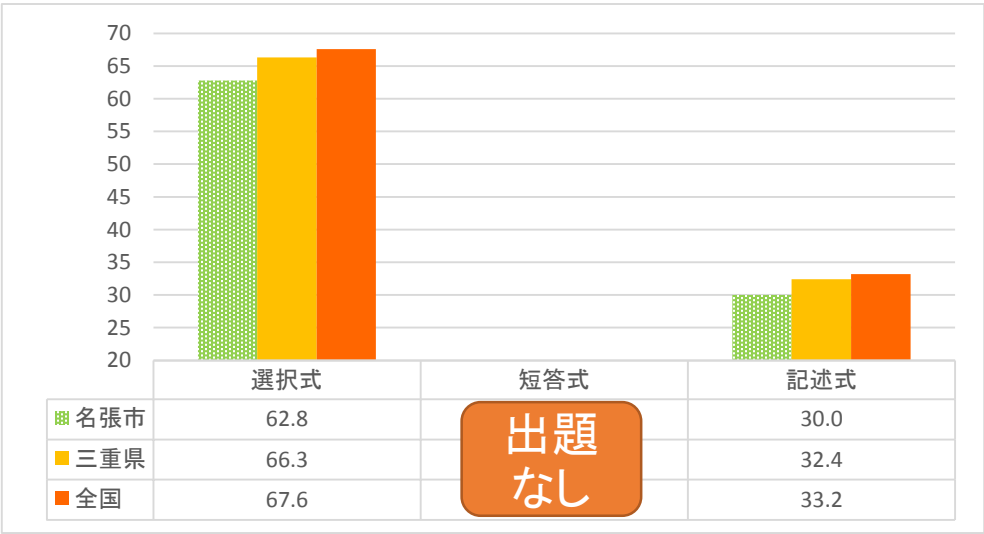
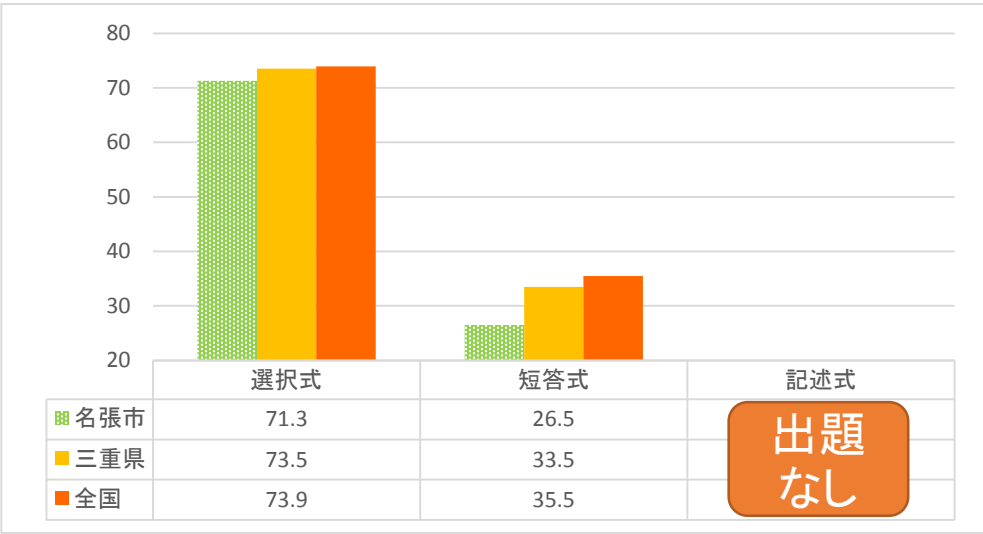


★すべての領域で、全国平均を下回りました。「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は、ここ5年間、全国平均を下回っています。



★すべての領域で、全国平均を下回りました。「読むこと」の全国比が一番低くなっています。

＜問題形式別／平均正答率＞



<正答率が低かった問題の概要>

A問題

- 5 文の中における主語と述語の関係などに注意して、文を正しく書く 26.5% [短答式]
- 8才★ 文の中で漢字を使う（せつ極的） 49.0% [選択式]

B問題

- 2二 目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く 11.6% [記述式]
- 1三 話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる 32.1% [記述式]
- 3一 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読む 42.5% [選択式]
- 3二★ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読む 46.2% [記述式]

<無解答率が高かった問題の概要>

A問題

★は最終問題

- 8才★ 文の中で漢字を使う（せつ極的） 9.1% [選択式]

B問題

- 3二★ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読む 13.6% [記述式]
- 1三 話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる 8.8% [記述式]

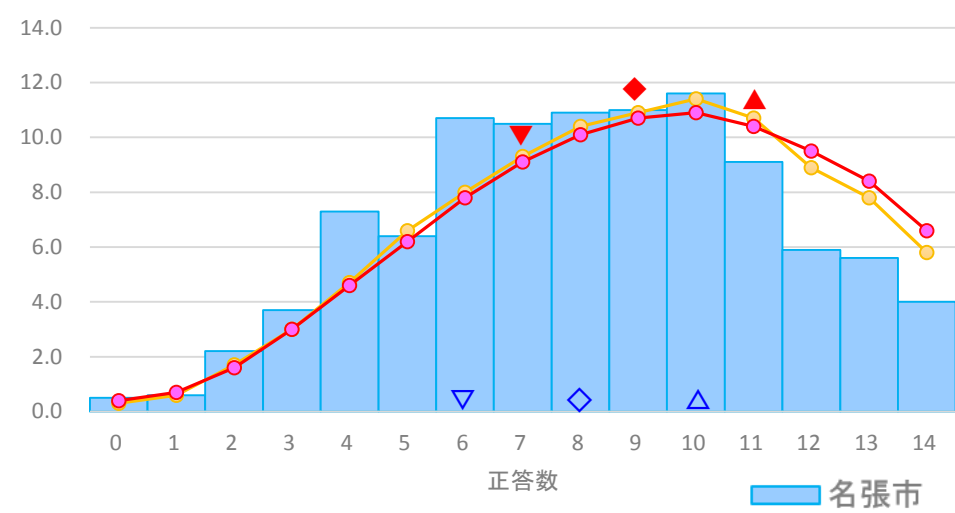
<学習指導に当たって>

- 主語と述語の関係については、表現するときだけではなく、文章を読むときにも強く意識できるように指導することが大切である。また、書くことの学習との関連を図り、児童が自分で書いた文や文章を、主語と述語との関係に注意しながら、丁寧に読み返していく習慣をつけることも大切である。（A 5）
- 漢字の指導に当たっては、日常生活の中で適切に使うことができるようにすることが重要である。そのためには、読み方や字形に注意して繰り返し練習することにとどまらず、同じ音や同じ部分をもつ漢字との違いや、文脈の中での使い分けに着目できるように指導することも大切である。その際には、漢字の成り立ちや部首の意味など、漢字への理解を深める学習につなげていくことも大切である。（A 8）
- 分かりやすい文章を書くためには、相手に伝わるかどうかという観点で、再度検討したり、友達と相互に吟味し合ったりするなどの活動を取り入れることが有効である。（B 2(2)）
- 目的に応じて文章の内容を的確に押さえるためには、何のために、何を知りたいのか、どのような情報が必要なのか、という目的を明確にした上で、全体の構成を把握しながら読むことが大切である。また、自分の考えを明確にするためには、必要な叙述を選び、他の部分に書かれている叙述と比べたり、自分の知識や経験、考えなどと関連付けたりしながら自分の考えをまとめていくことが大切である。（B 3(2)）

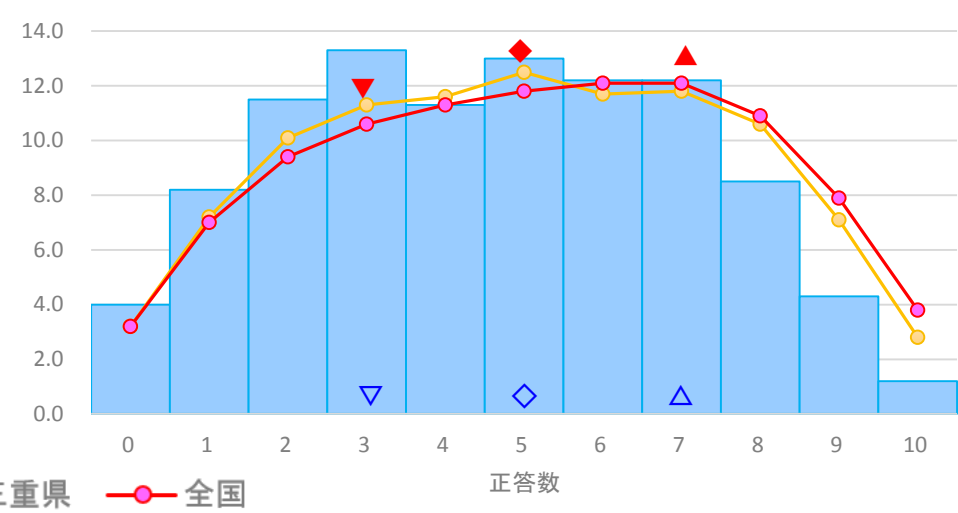
小学校	算数A		
	名張市	全国	差
平均正答率	58.0	63.5	-5.5
無解答率	2.59	2.48	+0.11

小学校	算数B		
	名張市	全国	差
平均正答率	46.0	51.5	-5.5
無解答率	9.48	7.93	+1.55

<平均正答数>

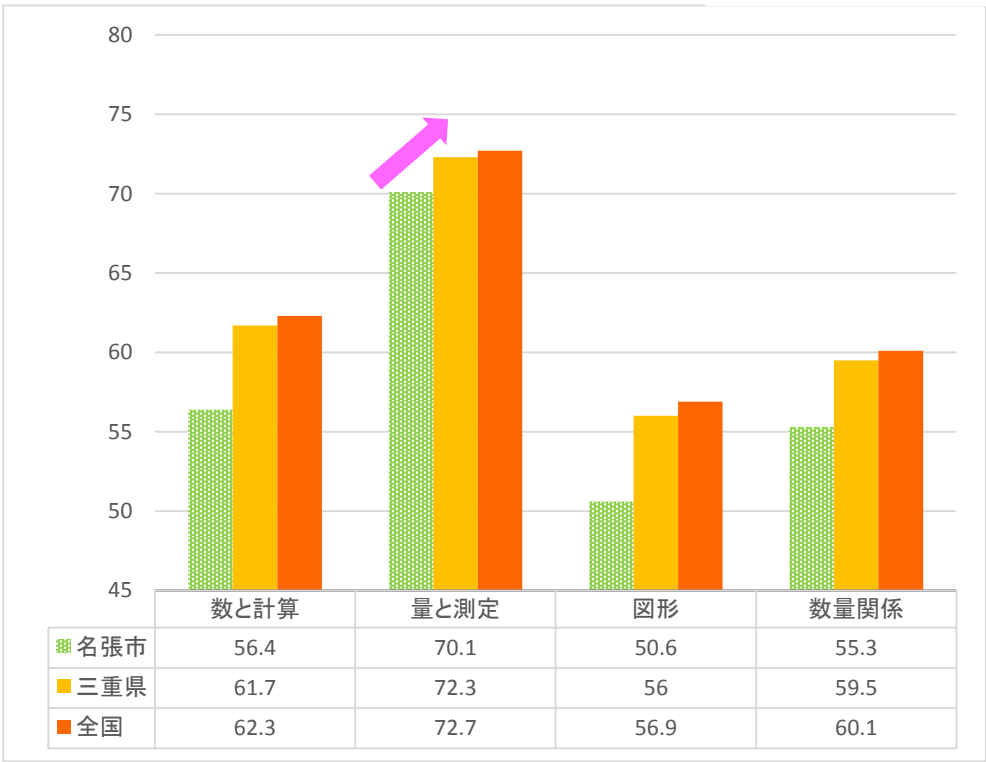


	名張市	三重県	全国
第3四分位	△10.0問	11.0問	▲11.0問
第2四分位	◇ 8.0問	9.0問	◆ 9.0問
第1四分位	▽ 6.0問	7.0問	▼ 7.0問

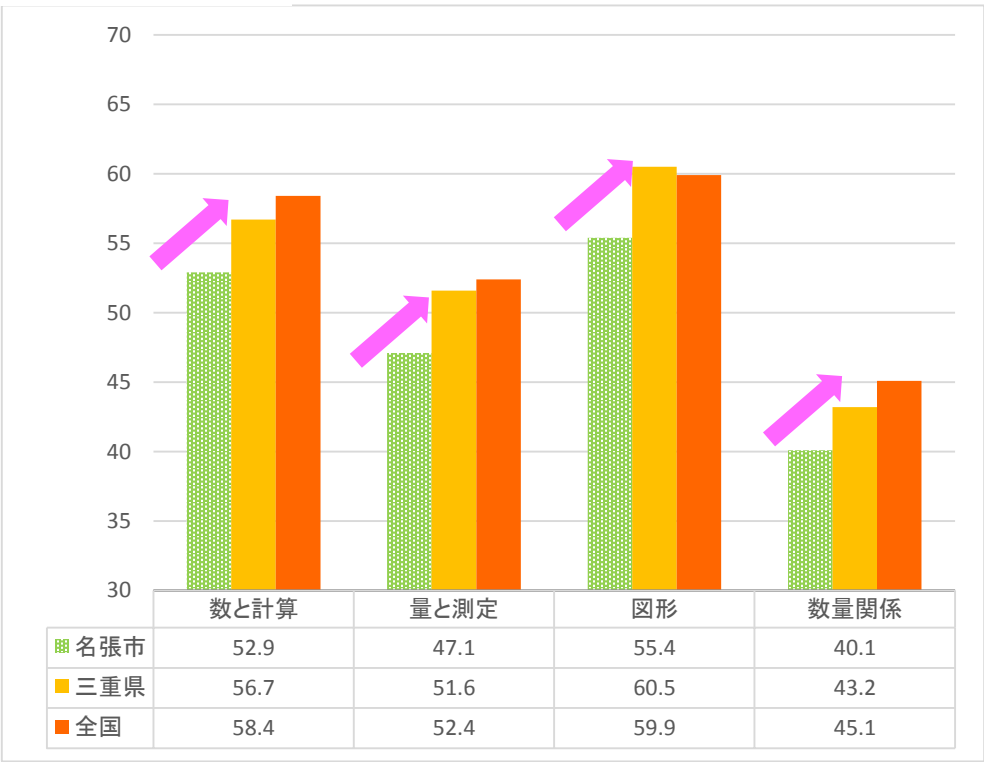


	名張市	三重県	全国
第3四分位	△7.0問	7.0問	▲7.0問
第2四分位	◇5.0問	5.0問	◆5.0問
第1四分位	▽3.0問	3.0問	▼3.0問

<領域別／平均正答率>

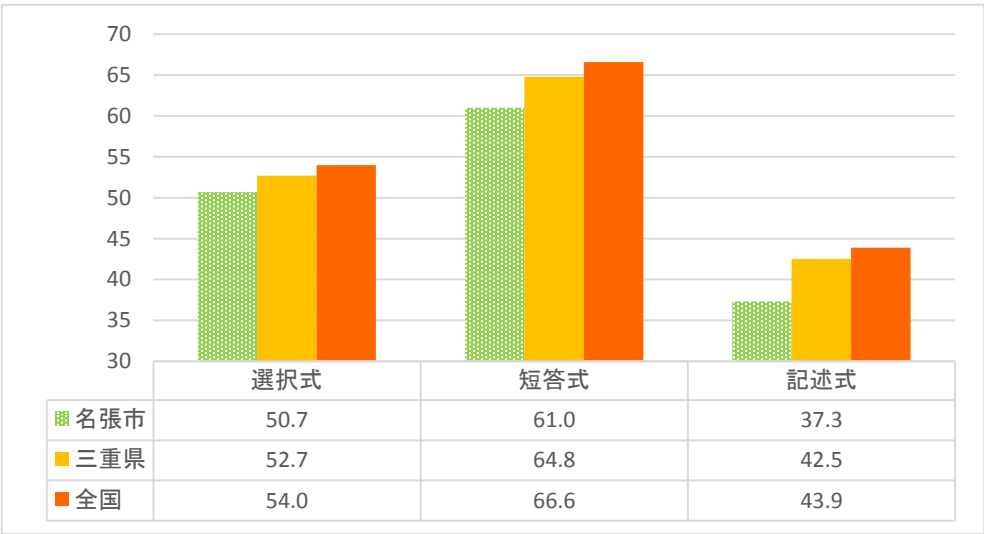
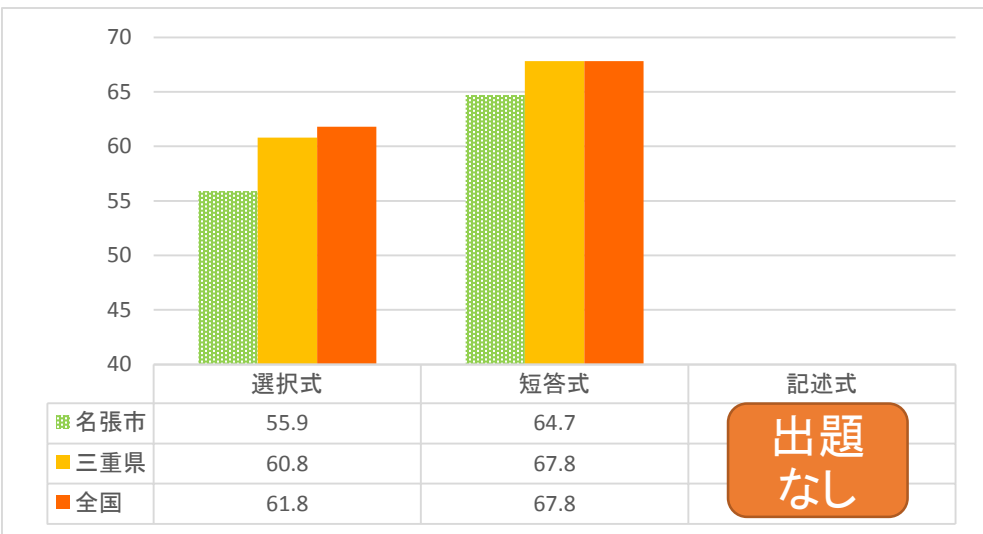


★すべての領域で、全国平均を下回りました。「数と計算」、「図形」、「数量関係」は、ここ5年間、全国平均を下回っています。



★すべての領域で、全国平均を下回りました。「数と計算」、「図形」、「数量関係」は、ここ5年間、全国平均を下回っています。

<問題形式別／平均正答率>



<正答率が低かった問題の概要>

A問題

7(1)	円周率の意味について理解している	30.1% [選択式]
2	小数の除法の意味について理解している (答えが $12 \div 0.8$ の式で求められる問題を選ぶ)	31.5% [選択式]
8	百分率を求めることができる (200人のうち80人が小学生のとき、小学生の人数は全体の人数の何%かを選ぶ)	46.2% [選択式]

B問題

3(1)	メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述できる	12.4% [記述式]
3(2)	棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを、適切に判断することができる	20.0% [選択式]
5(1)	折り紙の枚数が100枚あれば足りる理由を、示された数量を関連付け根拠を明確にして記述できる	35.0% [記述式]
1(2)	図形の構成要素や性質を基に、集まった角の大きさの和が 360° になっていることを記述できる	42.9% [記述式]

<無解答率が高かった問題の概要>

A問題

9	★ 折れ線グラフから変化の特徴を読み取ることができる	7.6% [選択式]
---	----------------------------	------------

B問題

3(1)	メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述できる	20.9% [記述式]
5(1)	折り紙の枚数が100枚あれば足りる理由を、示された数量を関連付け根拠を明確にして記述できる	20.0% [記述式]
1(2)	図形の構成要素や性質を基に、集まった角の大きさの和が 360° になっていることを記述できる	18.1% [記述式]
4(2)	示された考えを解釈し、条件を変更して考察した数量の関係を、表現方法を適用して記述できる	14.6% [記述式]
5(2)	★ 折り紙の輪の色の規則性を解釈し、それを基に条件に合う色を判断することができる	8.1% [選択式]

<学習指導に当たって>

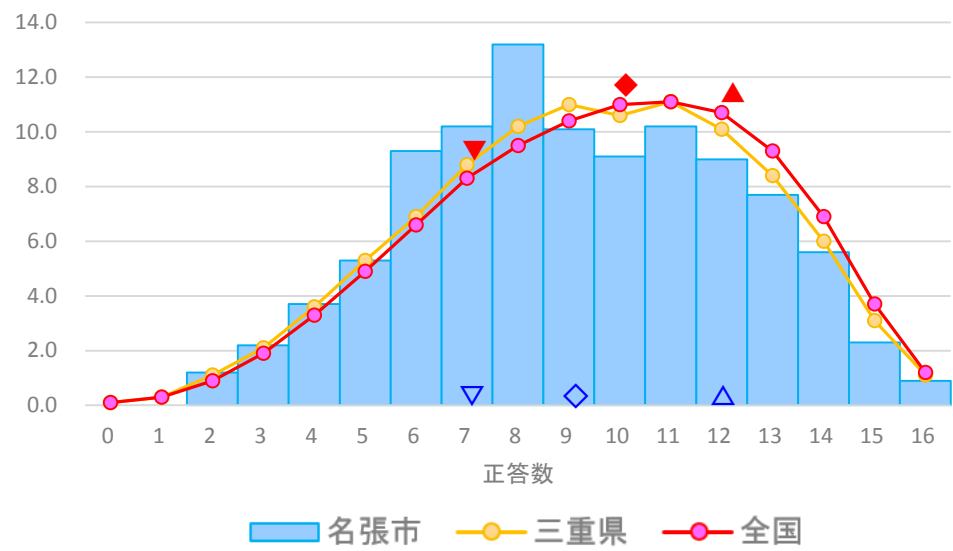
○円周率について学習する際には、作業的・体験的な活動を通して、円周率が円周の直径に対する割合であることを理解できるようにすることが大切である。(A 7)

○図や数直線などを用いて、数量の関係を的確に捉え、立式することができるようにすることが大切である。(A 2)

平成30年度全国学力・学習状況調査「報告書」より

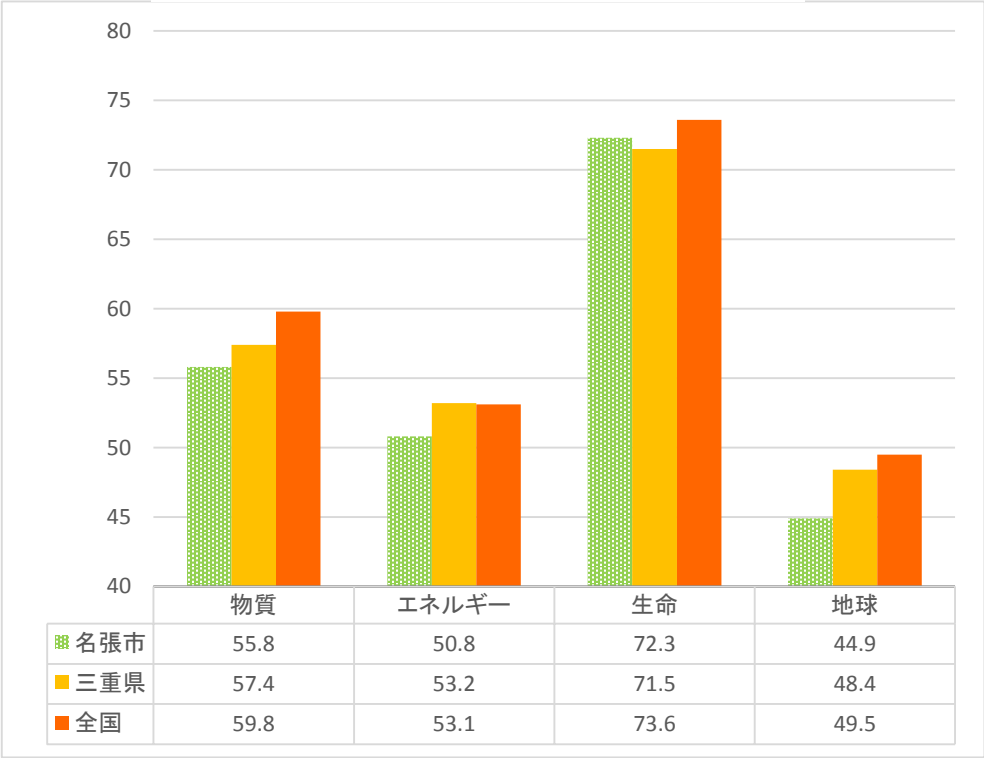
小学校	理科		
	名張市	全国	差
平均正答率	57.0	60.3	−3.3
無解答率	1.46	1.21	+0.25

<平均正答数>



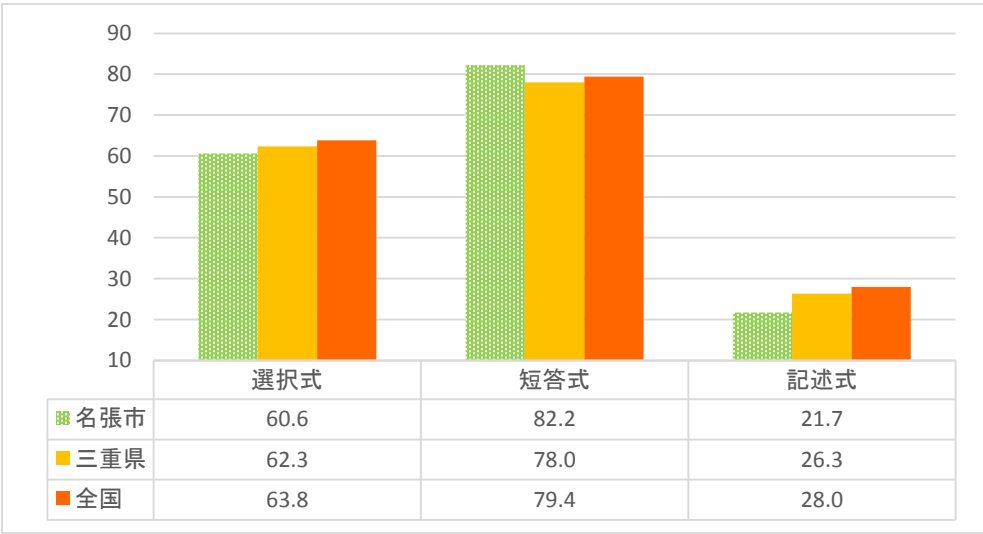
	名張市	三重県	全国
第3四分位	△12.0問	12.0問	▲12.0問
第2四分位	◇ 9.0問	10.0問	◆10.0問
第1四分位	▽ 7.0問	7.0問	▼ 7.0問

<領域別／平均正答率>



★「生命」以外の3領域で、全国平均を下回りました。「地球」の全国比が一番低くなっています。

<問題形式別／平均正答率>



＜正答率が低かった問題の概要＞

- | | |
|--|-------------|
| 2(3) より妥当な考えをつくりだすために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述できる | 17.2% [記述式] |
| 4(4)★ 実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、その内容を記述できる | 26.2% [記述式] |
| 4(3) 物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことを食塩を溶かして体積が増えた食塩水に適用できる | 43.3% [選択式] |
| 3(2) 電流の流れ方について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想できる | 43.8% [選択式] |
| 3(4) 太陽の1日の位置の変化と光電池に生じる電流の変化の関係を目的に合ったものづくりに適用できる | 46.1% [選択式] |
| 2(2) 土地の浸食について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想できる | 46.7% [選択式] |

＜無解答率が高かった問題の概要＞

- | | |
|---|-------------|
| 4(4)★ 実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、その内容を記述できる | 13.2% [記述式] |
|---|-------------|

＜学習指導に当たって＞

○実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述できるようにするためには、観察や実験の結果を基に「事実」と「解釈」の両方を示しながら、説明できるようにすることが大切である。（2(3)）

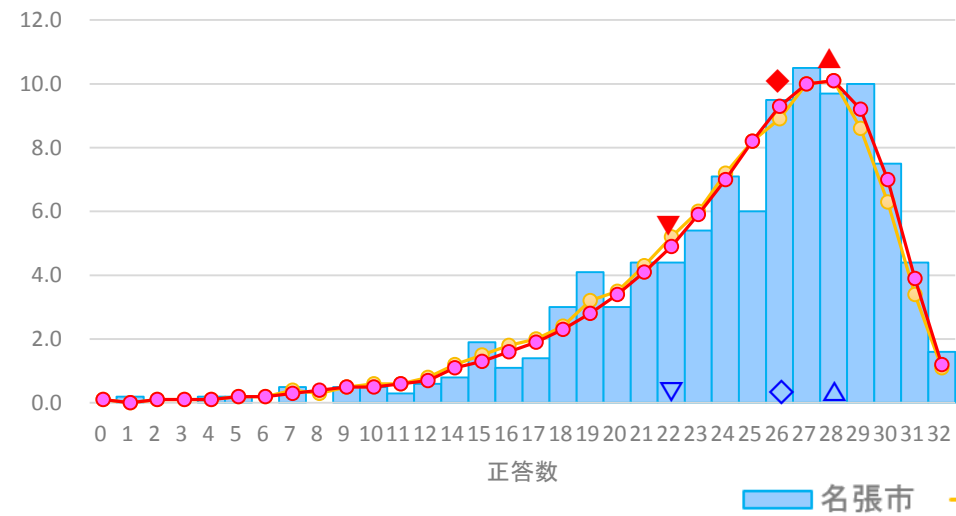
○実験結果を基に分析し、問題に正対したまとめができるようにするためには、問題を確認し、実験などで得られた結果を根拠とした考察を行い、実験結果から言えることだけに言及した内容かどうかについて検討することが大切である。（4(4)）

平成30年度全国学力・学習状況調査「報告書」より

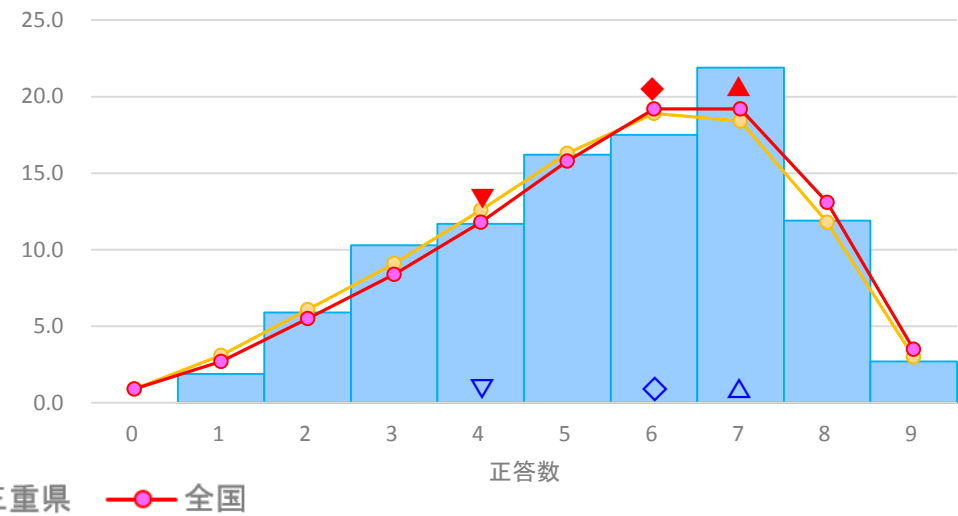
中学校		国語A	
	名張市	全国	差
平均正答率	77.0	76.1	+0.9
無解答率	2.34	3.15	-0.81

中学校		国語B	
	名張市	全国	差
平均正答率	61.0	61.2	-0.2
無解答率	1.96	3.01	-1.05

＜平均正答数＞

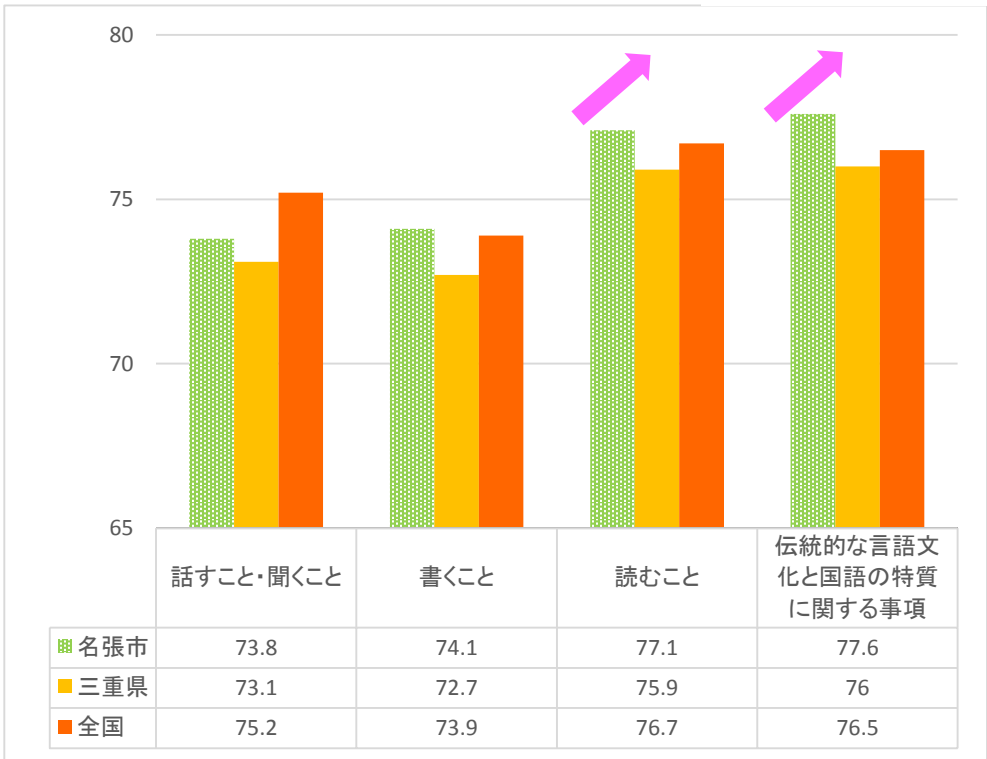


	名張市	三重県	全国
第3四分位	△28.0問	28.0問	▲28.0問
第2四分位	◇26.0問	25.0問	◆26.0問
第1四分位	▽22.0問	22.0問	▼22.0問

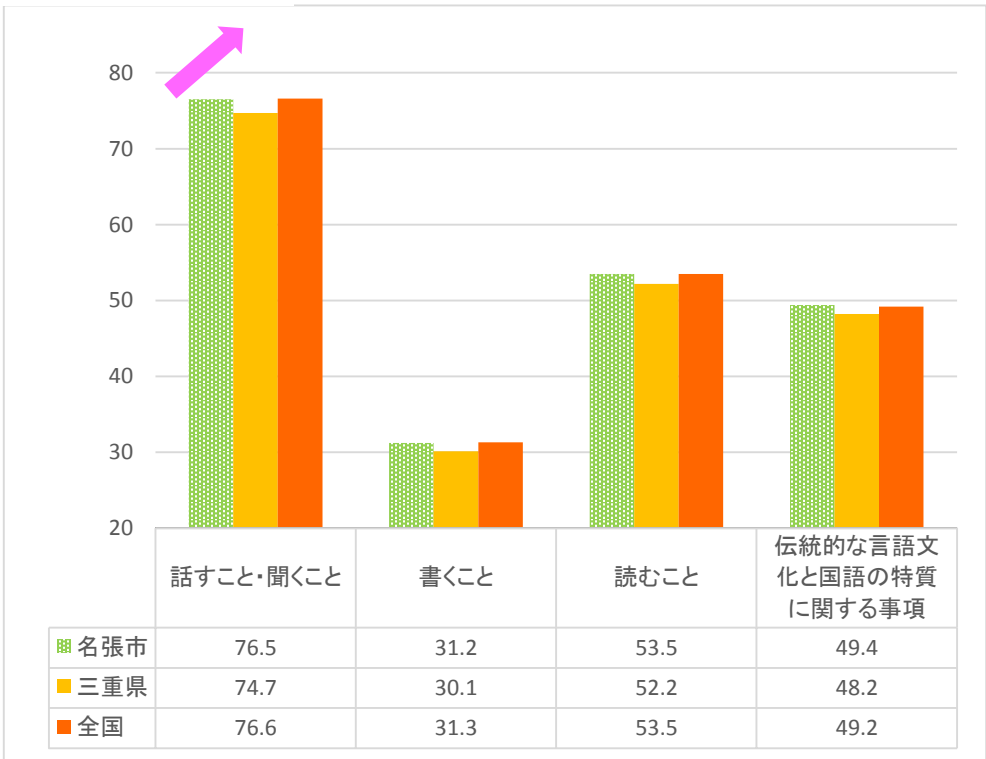


	名張市	三重県	全国
第3四分位	△7.0問	7.0問	▲7.0問
第2四分位	◇6.0問	6.0問	◆6.0問
第1四分位	▽4.0問	4.0問	▼4.0問

＜領域別／平均正答率＞

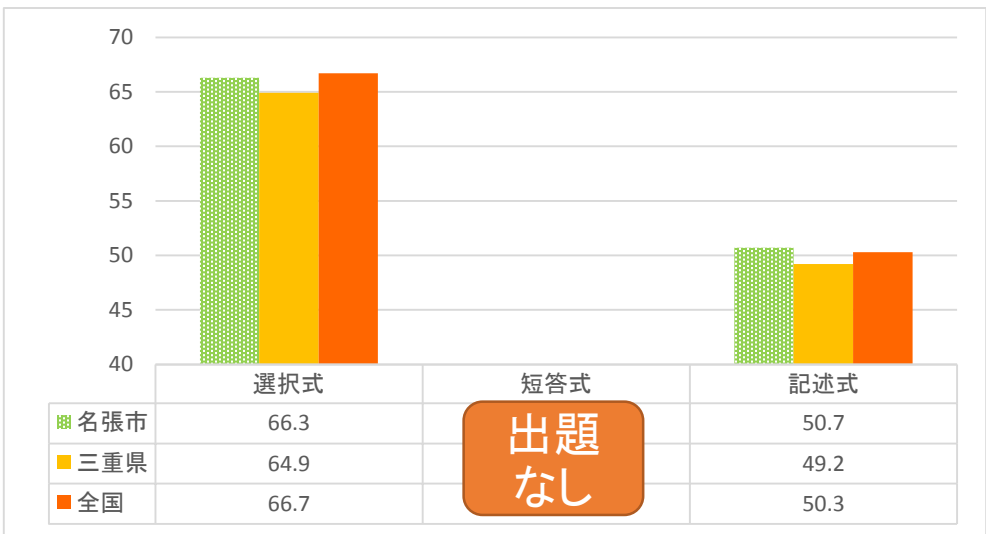
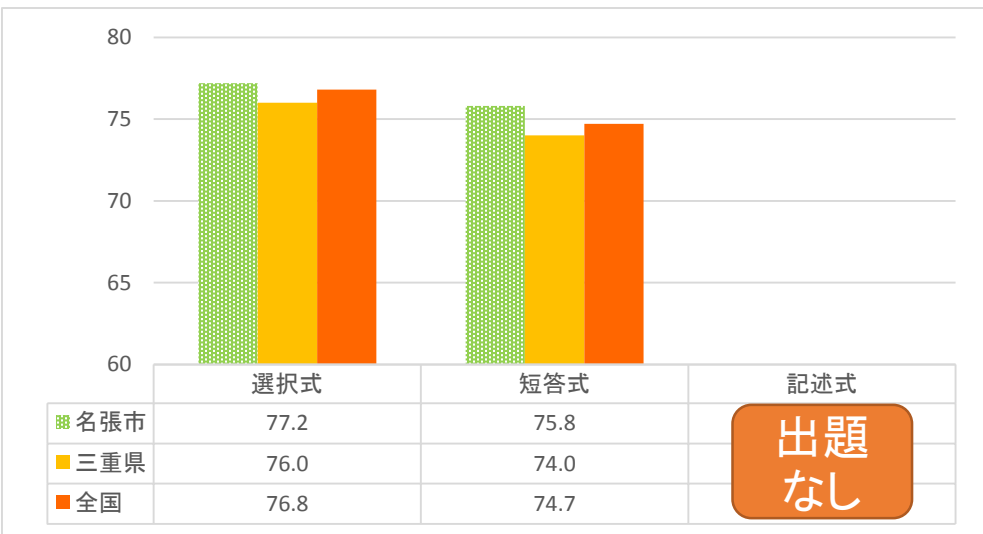


★「話すこと・聞くこと」以外の3領域で、全国平均を上回りました。「話すこと・聞くこと」の全国比が一番低くなっています。



★すべての領域で、全国平均とほぼ同じ結果となりました。「書くこと」の全国比が一番低くなっています。

＜問題形式別／平均正答率＞



＜正答率が低かった問題の概要＞

A問題

- | | | |
|-------|---------------------------------------|-------------|
| 8 四 2 | 目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書く | 22.2% [短答式] |
| 8 三 エ | 適切な語句を選択する（彼は <u>せき</u> を切ったように話し始めた） | 30.6% [選択式] |
| 8 五 | 行書の基礎的な書き方を理解して書く | 54.1% [選択式] |

B問題

- | | | |
|-------|-------------------------|-------------|
| 1 三 | 目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く | 13.0% [記述式] |
| 1 一 | 文章とグラフの関係を考えながら内容を捉える | 46.0% [選択式] |
| 3 三 ★ | 相手に的確に伝わるように、あらすじを捉えて書く | 49.4% [記述式] |

＜無解答率が高かった問題の概要＞

A問題

- | | | |
|-------|---------------------------|-------------|
| 8 一 3 | 漢字を書く（先制点を <u>ユル</u> す） | 16.2% [短答式] |
| 6 二 | 話合いの話題や方向を捉えて的確に話す | 10.5% [短答式] |
| 8 一 2 | 漢字を書く（舞台の <u>マク</u> が上がる） | 10.2% [短答式] |

B問題

- | | | |
|-------|-------------------------|------------|
| 3 三 ★ | 相手に的確に伝わるように、あらすじを捉えて書く | 8.9% [記述式] |
|-------|-------------------------|------------|

＜学習指導に当たって＞

○漢字の指導においては、字体、字形、音訓、意味や用法などの知識を習得し、文脈に即して漢字を読んだり書いたりすることができるように指導することが大切である。また、日常の学習や生活の中でも、必要に応じて辞書などを活用して漢字の意味や用法を確認し、漢字を正しく読んだり書いたりする態度と習慣を養うことが重要である。（A 8）

○文を書く際には、文の成分の順序や主語と述語の照応などを整え、伝えたいことが相手に適切に伝わるよう書くことができているかを常に吟味するように指導することが大切である。（A 8 四 2）

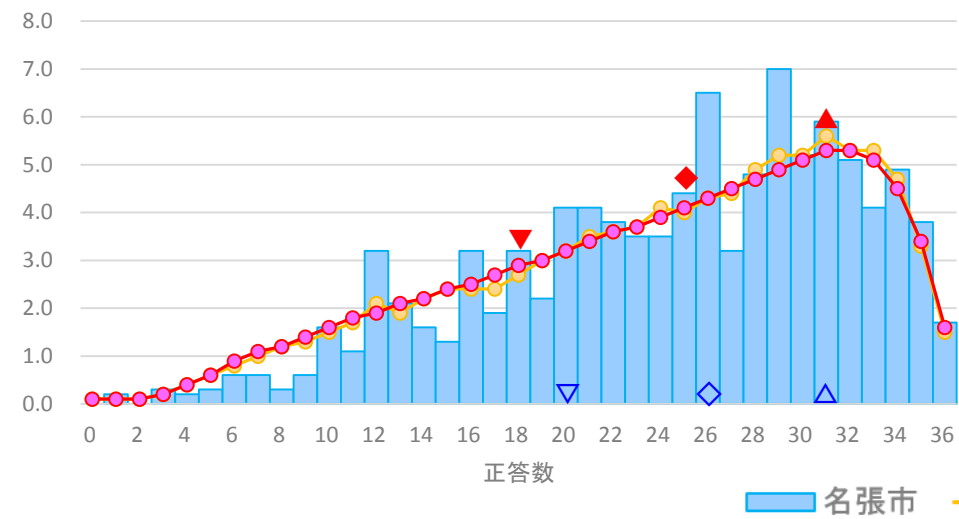
○目的に応じて文章の内容を的確に読み取るためには、文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、文章の構成や展開を捉えて内容を理解するように指導することが大切である。（B 1 三）

平成30年度全国学力・学習状況調査「報告書」より

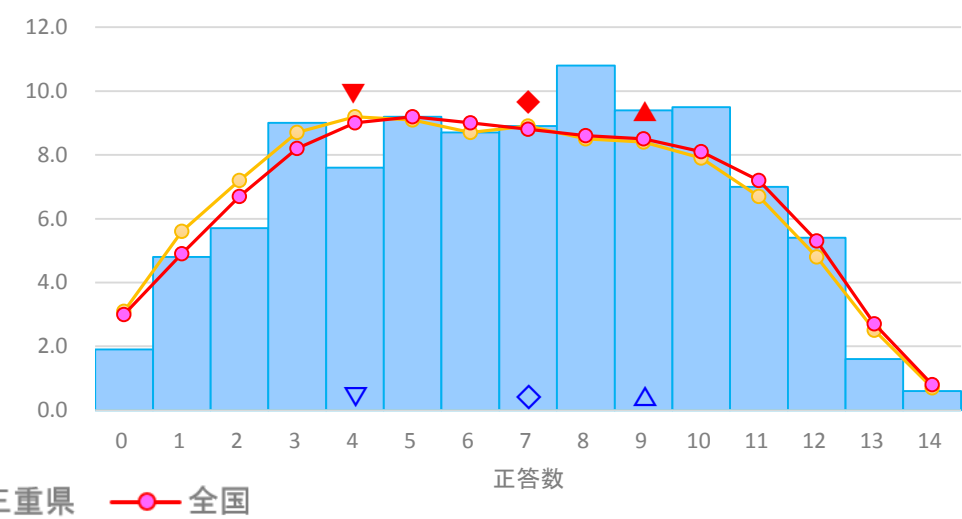
中学校	数学A		
	名張市	全国	差
平均正答率	68.0	66.1	+1.9
無解答率	1.83	3.28	-1.45

中学校	数学B		
	名張市	全国	差
平均正答率	48.0	46.9	+1.1
無解答率	8.33	12.61	-4.28

＜平均正答数＞

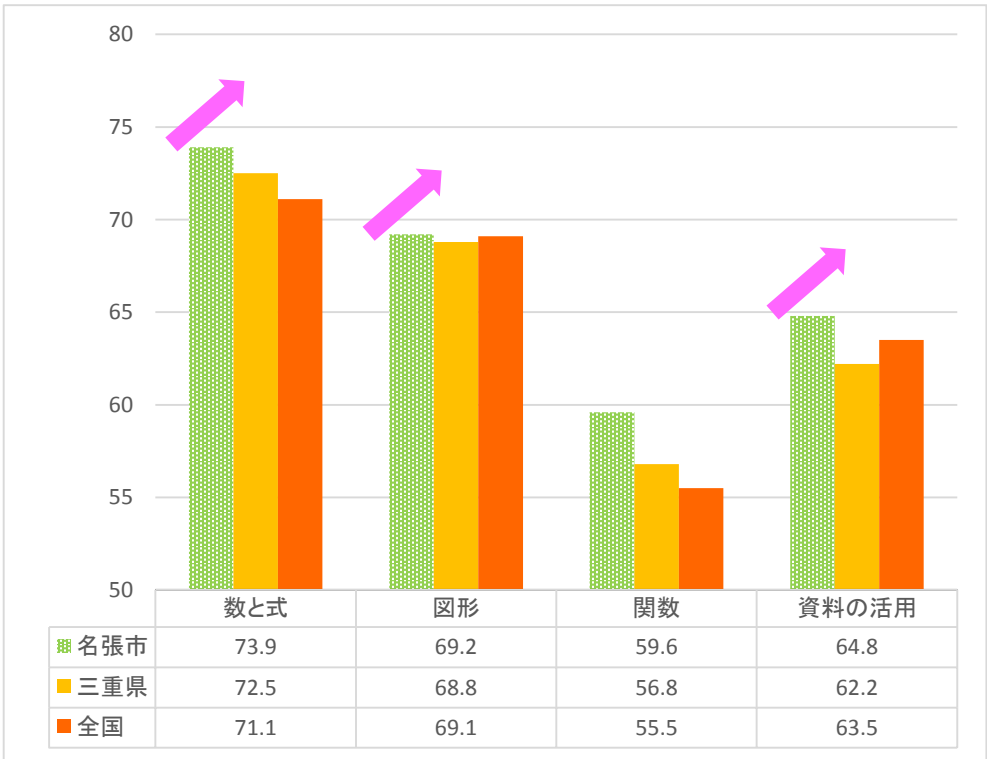


	名張市	三重県	全国
第3四分位	△31.0問	31.0問	▲31.0問
第2四分位	◇26.0問	25.0問	◆25.0問
第1四分位	▽20.0問	18.0問	▼18.0問

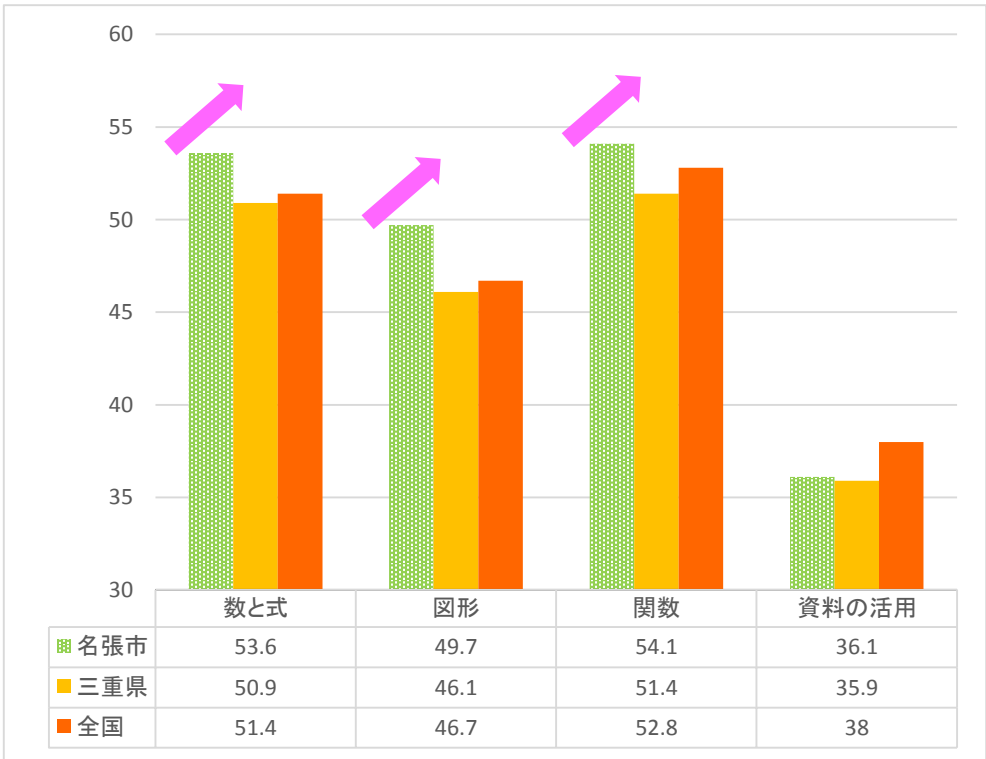


中学校数学B	名張市	三重県	全国
第3四分位	△9.0問	9.0問	▲9.0問
第2四分位	◇7.0問	6.0問	◆7.0問
第1四分位	▽4.0問	4.0問	▼4.0問

＜領域別／平均正答率＞

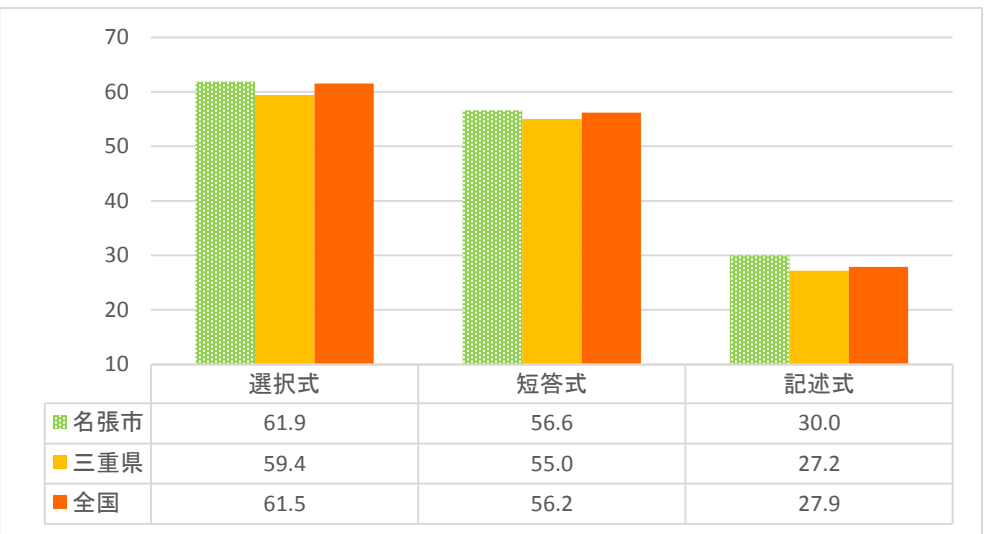
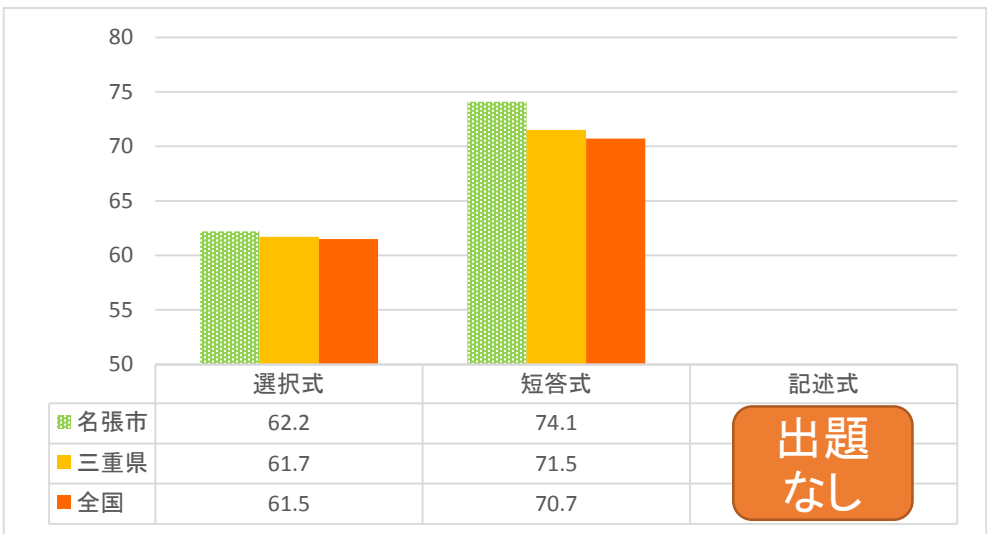


★すべての領域で、全国平均を上回りました。「関数」は、ここ5年間、全国平均を上回っています。「図形」の全国比が一番低くなっています。



★「資料の活用」以外の3領域で、全国平均を上回りました。「資料の活用」の全国比が一番低くなっています。

＜問題形式別／平均正答率＞



＜正答率が低かった問題の概要＞

A問題

15(1)	多数回の試行の結果から得られる確率の意味を理解している	37.7% [選択式]
12	一次関数の意味を理解している	40.7% [選択式]
8	証明の必要性和意味を理解している	41.8% [選択式]

B問題

5(2)★	里奈さんの計算を解釈し、数学的な表現を用いて説明することができる	9.8% [記述式]
5(1)	与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができる	13.0% [短答式]
3(3)	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる	14.4% [記述式]
1(3)	不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を説明することができる	35.2% [記述式]

＜無解答率が高かった問題の概要＞

A問題

2(4)	具体的な場面で関係を表す式を、等式の性質を用いて、目的に応じて変形することができる	9.7% [短答式]
------	---	------------

B問題

3(3)	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる	22.7% [記述式]
1(3)	不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を説明することができる	17.7% [記述式]
5(1)	与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができる	16.2% [短答式]
2(2)	事柄が成り立つ理由を、構想を立てて説明することができる	16.0% [記述式]
4(3)	付加された条件の下で、新たな事柄を見だし、説明することができる	15.8% [記述式]

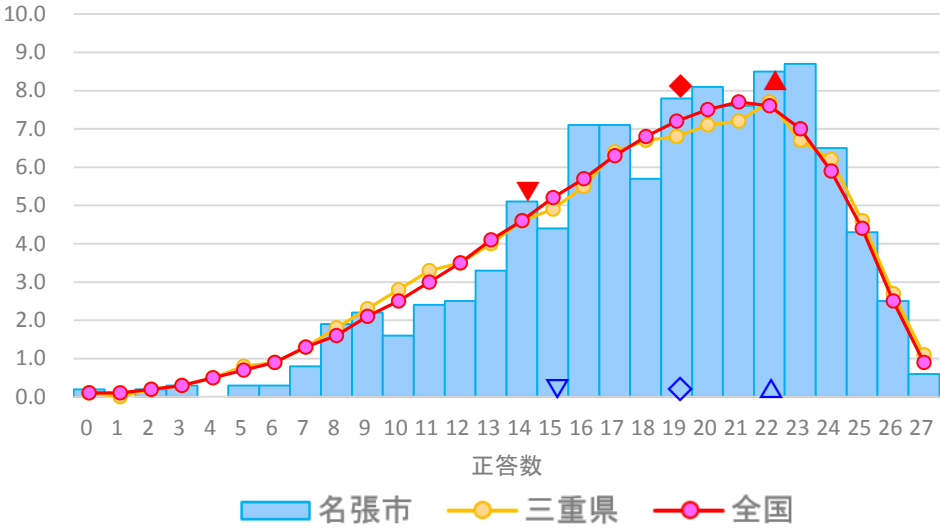
＜学習指導に当たって＞

○実生活の場面で、事象を目的に応じて数値化して判断する場面を設定し、与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理できるように指導することが大切である。（B 5(1)）

○日常的な事象の考察において、表、式、グラフなどから得られた数学的な結果を事象に即して解釈することができるように指導することが大切である。（B 5(3)）

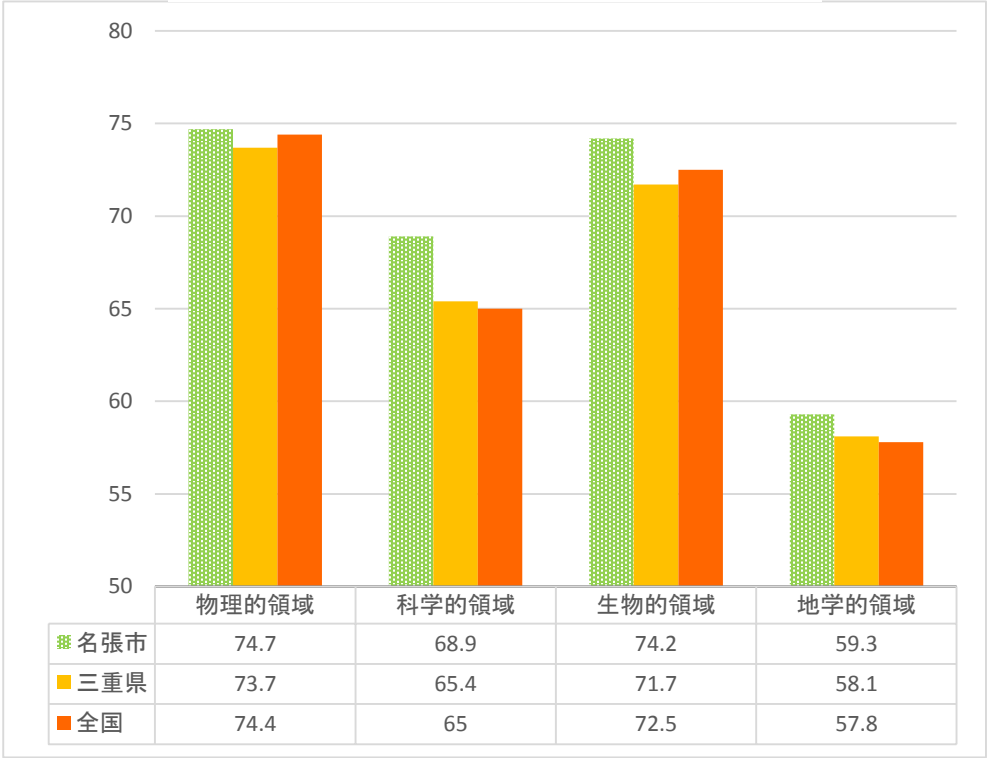
中学校	理科		
	名張市	全国	差
平均正答率	68. 0	66. 1	+1. 9
無 解 答 率	3. 36	5. 04	－1. 68

＜平均正答数＞



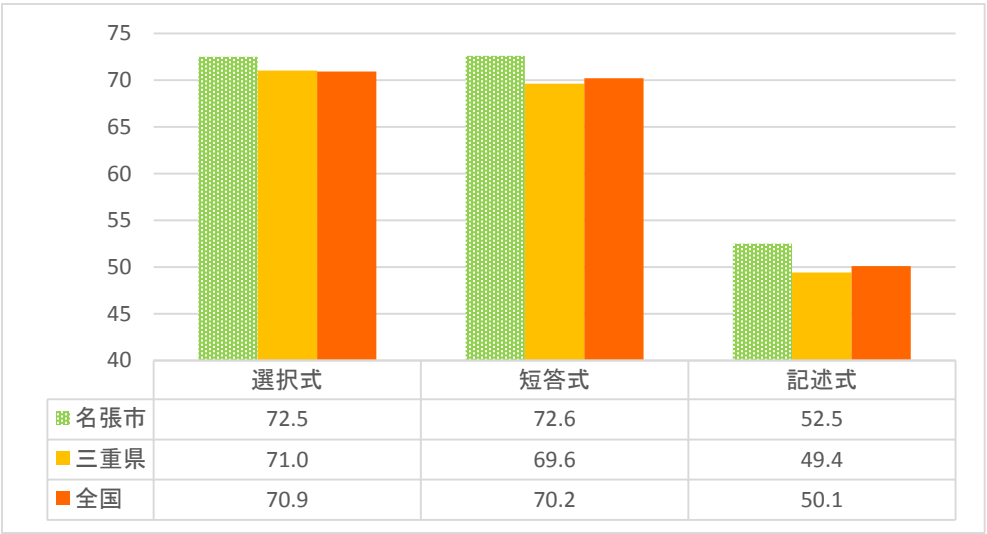
中学校理科	名張市	三重県	全国
第3四分位	△22.0問	22.0問	▲22.0問
第2四分位	◇19.0問	19.0問	◆19.0問
第1四分位	▽15.0問	14.0問	▼14.0問

＜領域別／平均正答率＞



★すべての領域で、全国平均を上回りました。「物理的領域」の全国比が一番低くなっています。

＜問題形式別／平均正答率＞



＜正答率が低かった問題の概要＞

- | | |
|--|-------------|
| 9(2)★ 植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘できる | 19.5% [記述式] |
| 3(1) 風向の観測方法や記録の仕方に関する知識・技能を活用できる | 35.4% [選択式] |
| 4(2) 炎の色と金網に付くススの量を調べる実験を計画する際に、「変えない条件」を指摘できる | 47.3% [記述式] |
| 6(2) オームの法則を使って、抵抗の値を求めることができる | 49.5% [短答式] |

＜無解答率が高かった問題の概要＞

- | | |
|---|-------------|
| 9(2)★ 植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘できる | 14.6% [記述式] |
| 8(3) 探究の過程を振り返り、新たな疑問をもち問題を見いだし探究を深めようとしている。アルミニウムは水の温度変化に関係していることについての新たな問題を見いだすことができる | 14.4% [記述式] |
| 6(2) オームの法則を使って、抵抗の値を求めることができる | 11.2% [短答式] |
| 4(2) 炎の色と金網に付くススの量を調べる実験を計画する際に、「変えない条件」を指摘できる | 10.1% [記述式] |

＜学習指導に当たって＞

○実験を計画して科学的に探究する上で、「変化すること」とその「原因として考えられる要因」及び「変える条件」と「変えない条件」を指摘することが大切である。（4(2)）

○自然の事象・現象への関心・意欲・態度を育成し、主体的に探究する活動を促す上で、探究の過程を振り返って新たな疑問をもち、探究を深めるようにすることは大切である。（8(3)）

平成30年度全国学力・学習状況調査「報告書」より

3 児童生徒質問紙調査結果の特徴的な傾向及び教科の平均正答率との関係

「児童生徒質問紙調査」とは、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査です。
ここでは、「児童生徒質問紙調査」のうち、特徴的な資料をいくつか示し、その傾向と分析を記載しています。

<例示>

質問事項

グラフの見方

○学校の規則を守っていますか。

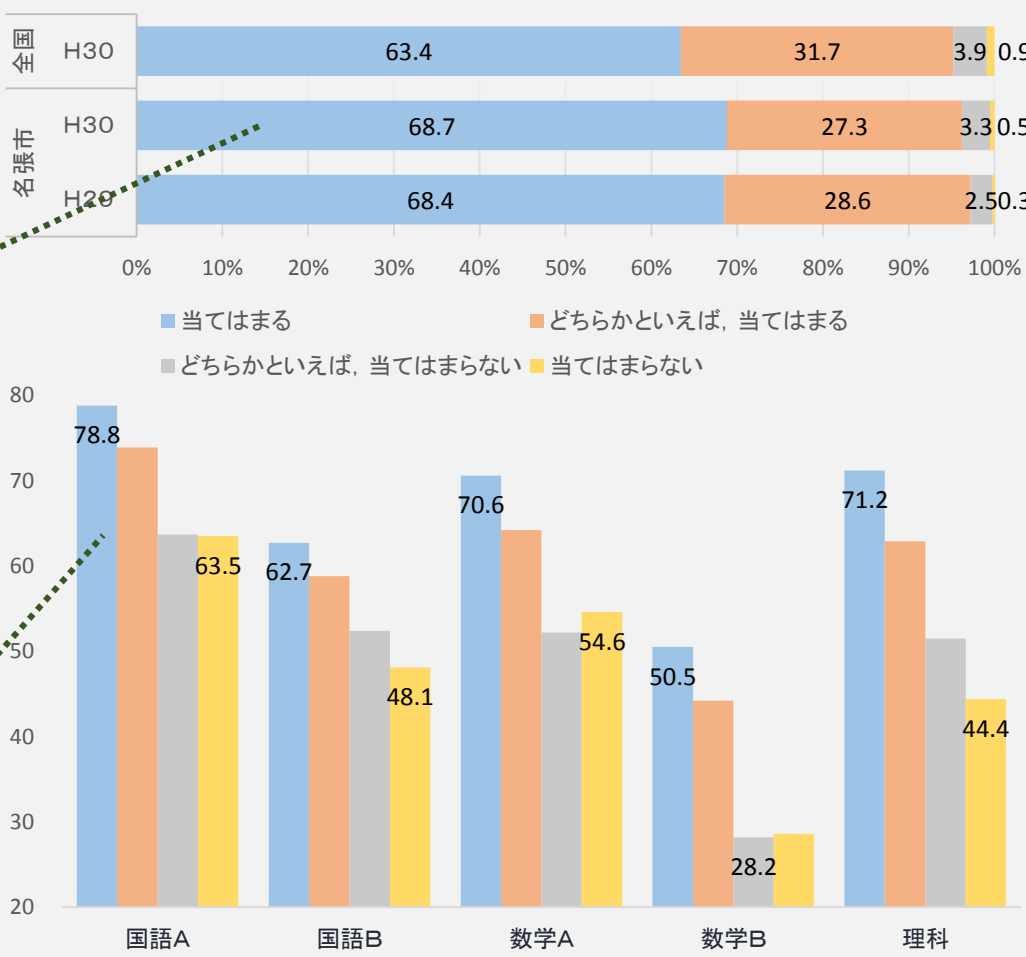
<グラフ内の数値は(%)です>

同じ質問に対し、
ページの左半分は小学校
右半分は中学校のグラフです。

中学校

このグラフでは、児童生徒が回答した選択肢別の割合を、そのまま表しています。
H30名張市平均（中段）を、全国平均（上段）、H29名張市平均（下段）とそれぞれ比較することができます。
「学校の規則を守っていますか」（当てはまる）と回答した児童は、
名張市で 68.7%
全国で 63.4%です。

このグラフでは、児童生徒が回答した選択肢と、平均正答率との関係を、クロス集計しています。
左のグラフで、「当てはまる」と回答した児童の、国語Aの平均正答率は、
名張市で 78.8%です。



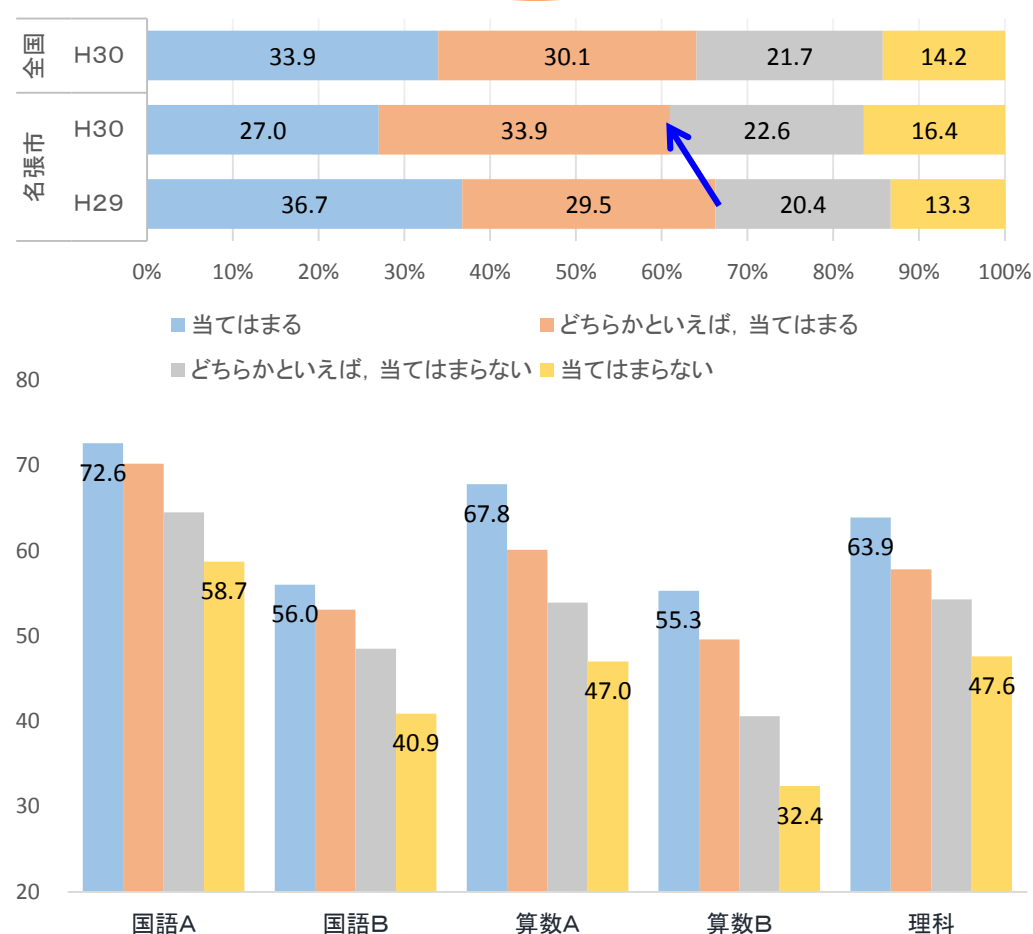
「学校の規則を守っていますか」という質問に対して、「国語A」で見ると、
「当てはまる」と回答した名張市の生徒の平均正答率は、78.8%、
「当てはまらない」と回答した名張市の生徒の平均正答率は、63.5%で
15.3%の開きがあり、
「学校の規則を守っている」と回答している生徒ほど、
「国語A」の調査問題の正答率も高いということがわかります。
同様に他の調査問題も見ると、
「国語B」では、14.6%、
「数学A」では、18.4%
「数学B」では、22.3%
「理科」では、26.8%の開きがあり、
「肯定的な回答をしている生徒ほど、平均正答率が高い」という傾向が、顕著に表れています。

※いずれのグラフにも無回答率は掲載していません。
また、質問によっては、回答項目（時間帯等）が多いため、傾向がわかる回答項目（時間帯）に関してのみ、掲載しています。そのため、合計数値が100%になっていない場合があります。

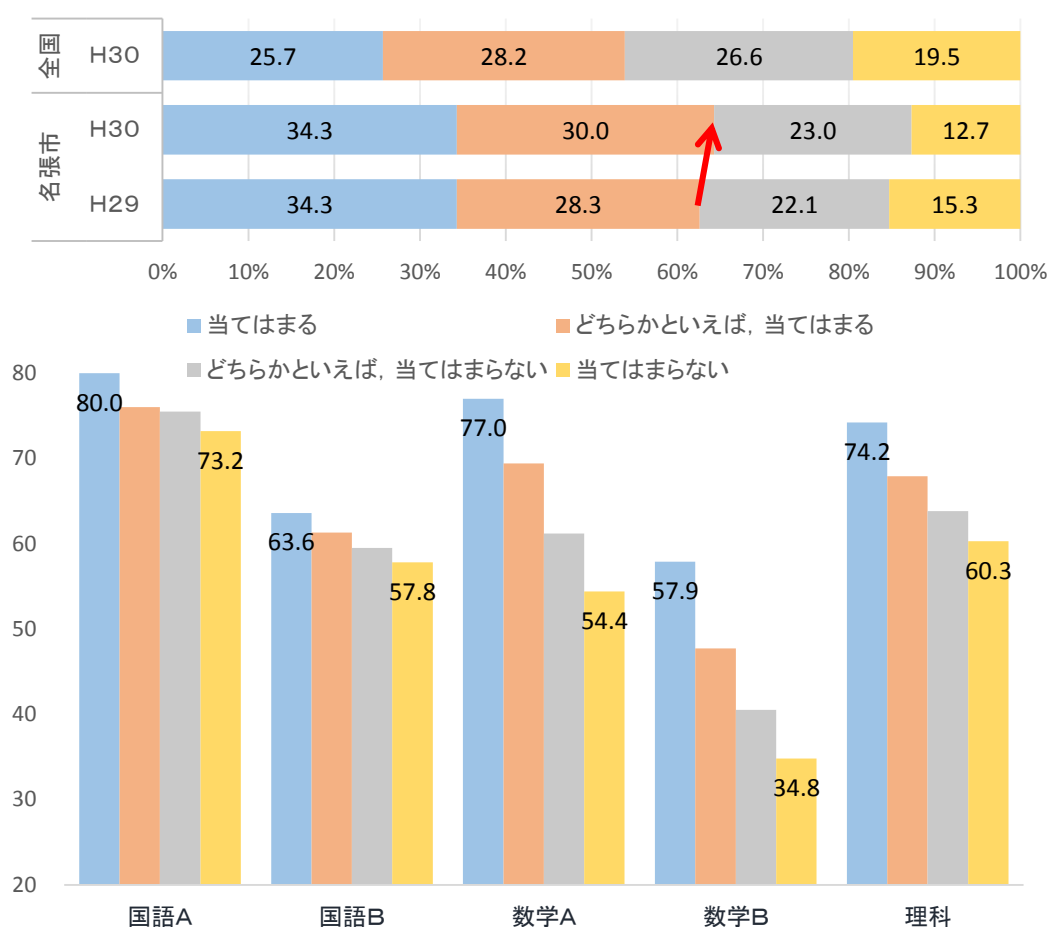
(1) 学校教育に関すること

①算数・数学の勉強は好きですか。

小学校



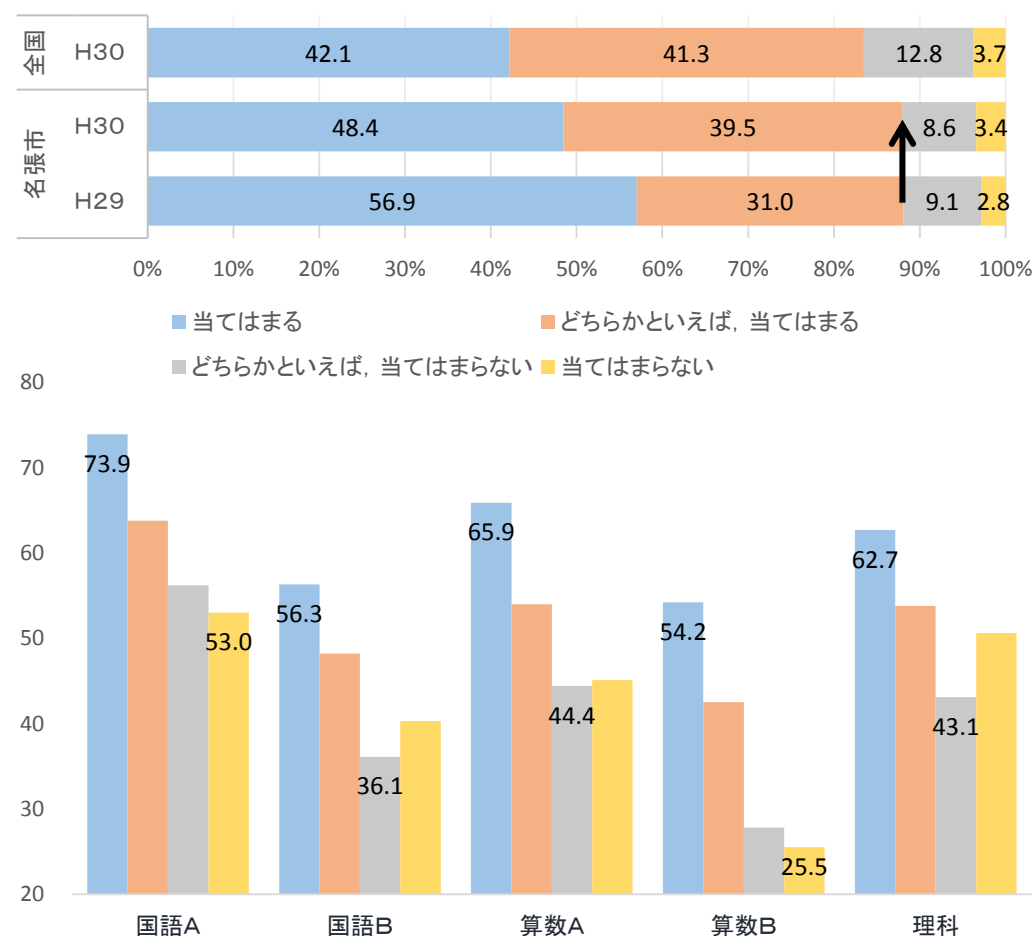
中学校



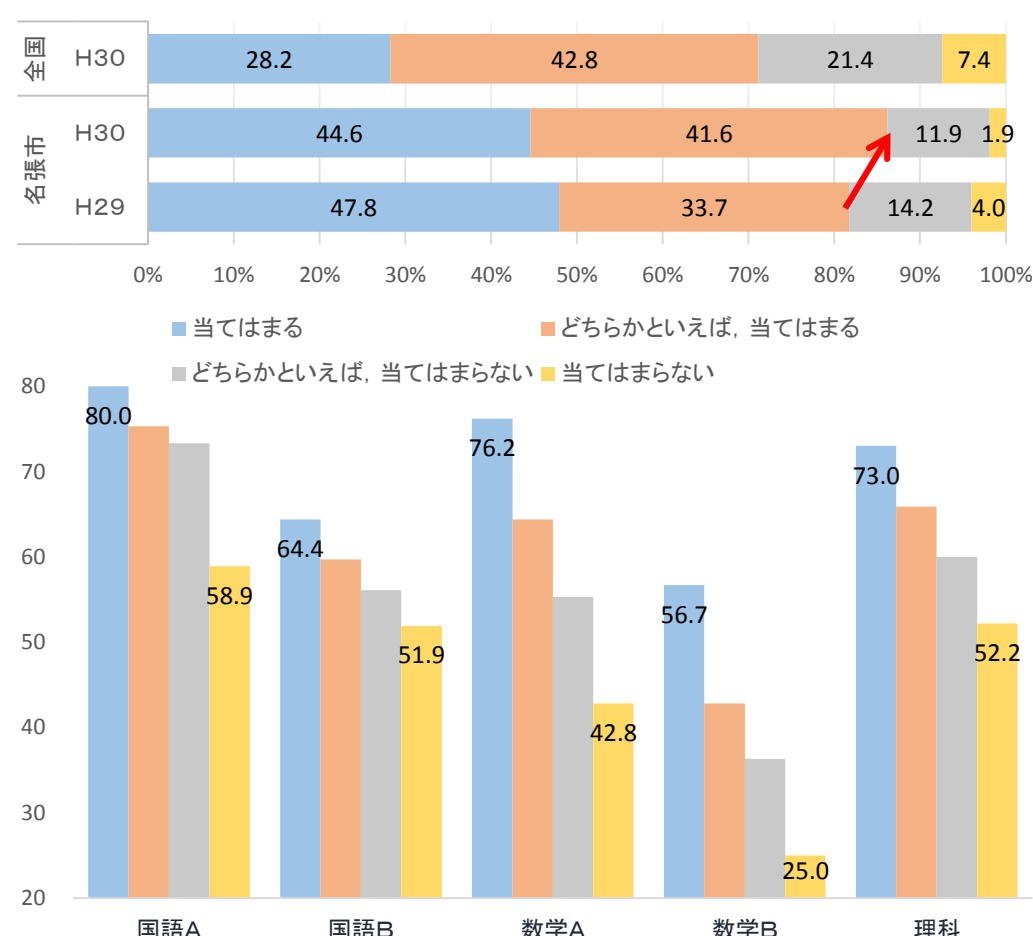
肯定的回答が、小学校では全国よりやや低く、昨年度より減少しました。中学校では全国より高く、昨年度より増加しました。

②算数・数学の授業の内容はよく分かりますか。

小学校



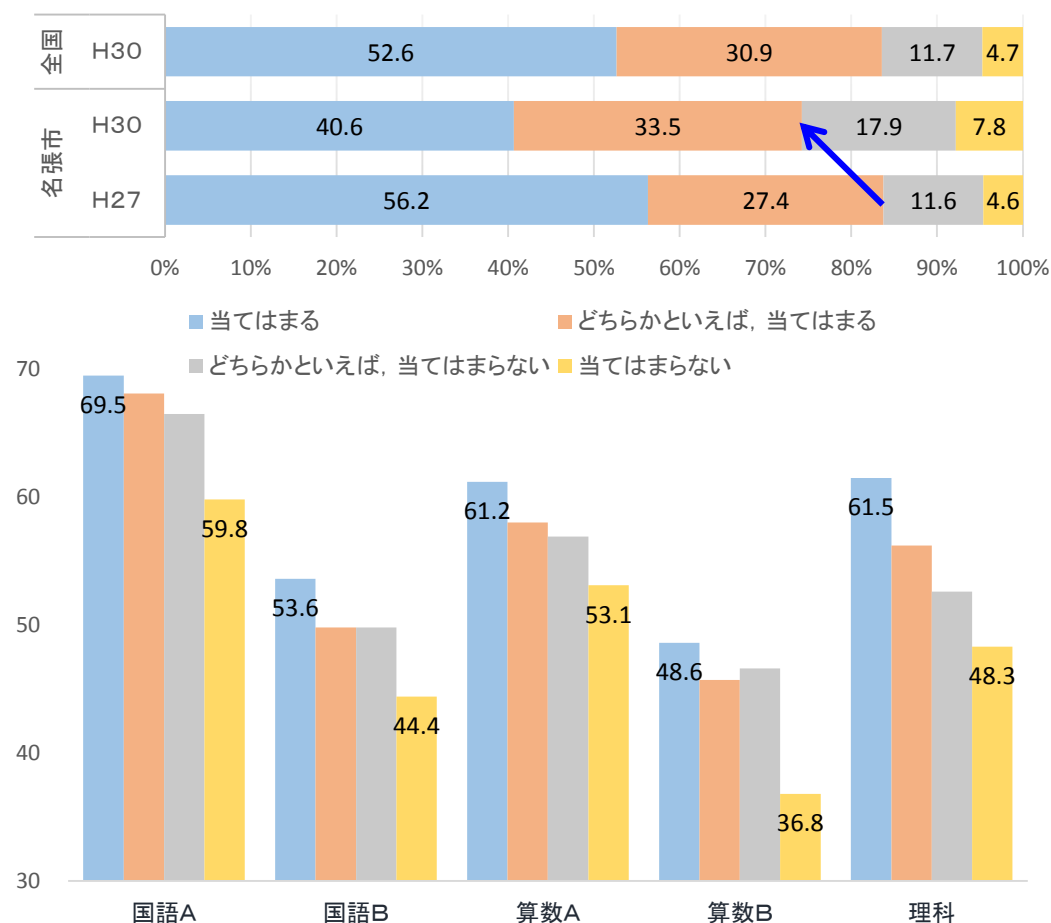
中学校



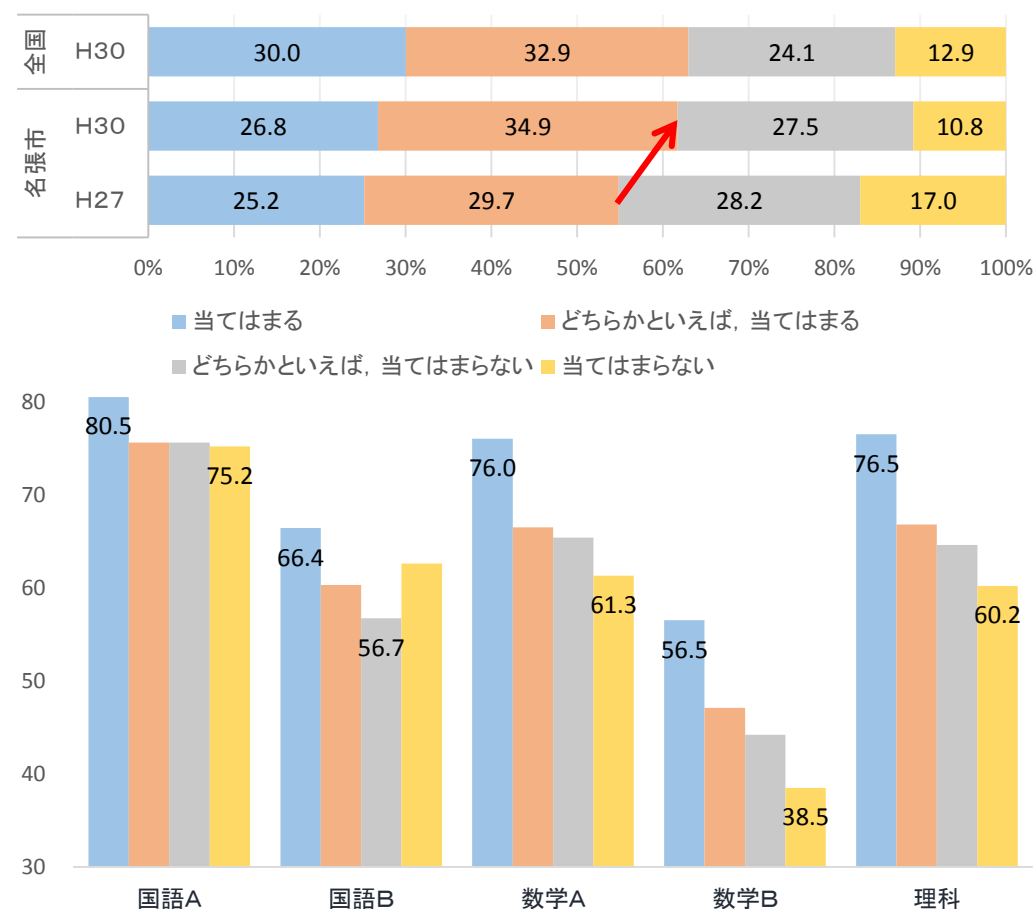
肯定的回答が、小・中学校ともに全国より高い、よい傾向が続いています。昨年度と比べると、中学校で増加しました。

③理科の勉強は好きですか。

小学校



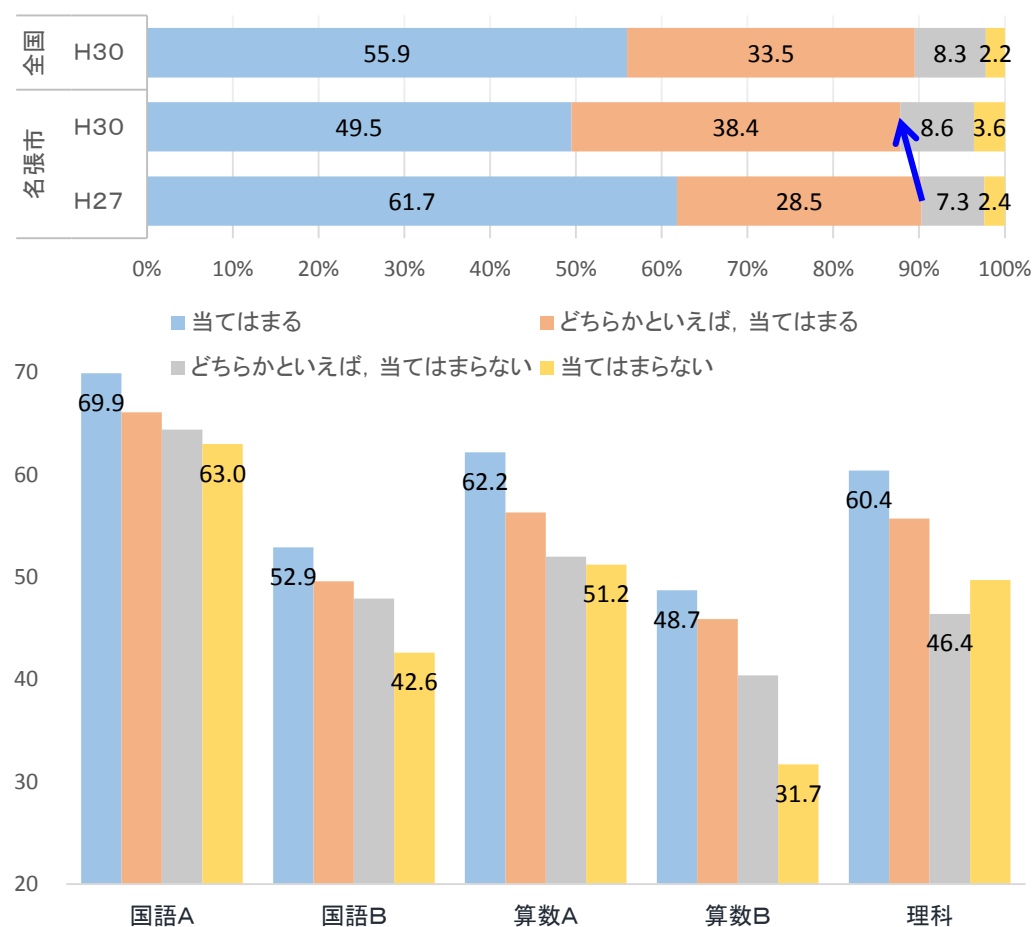
中学校



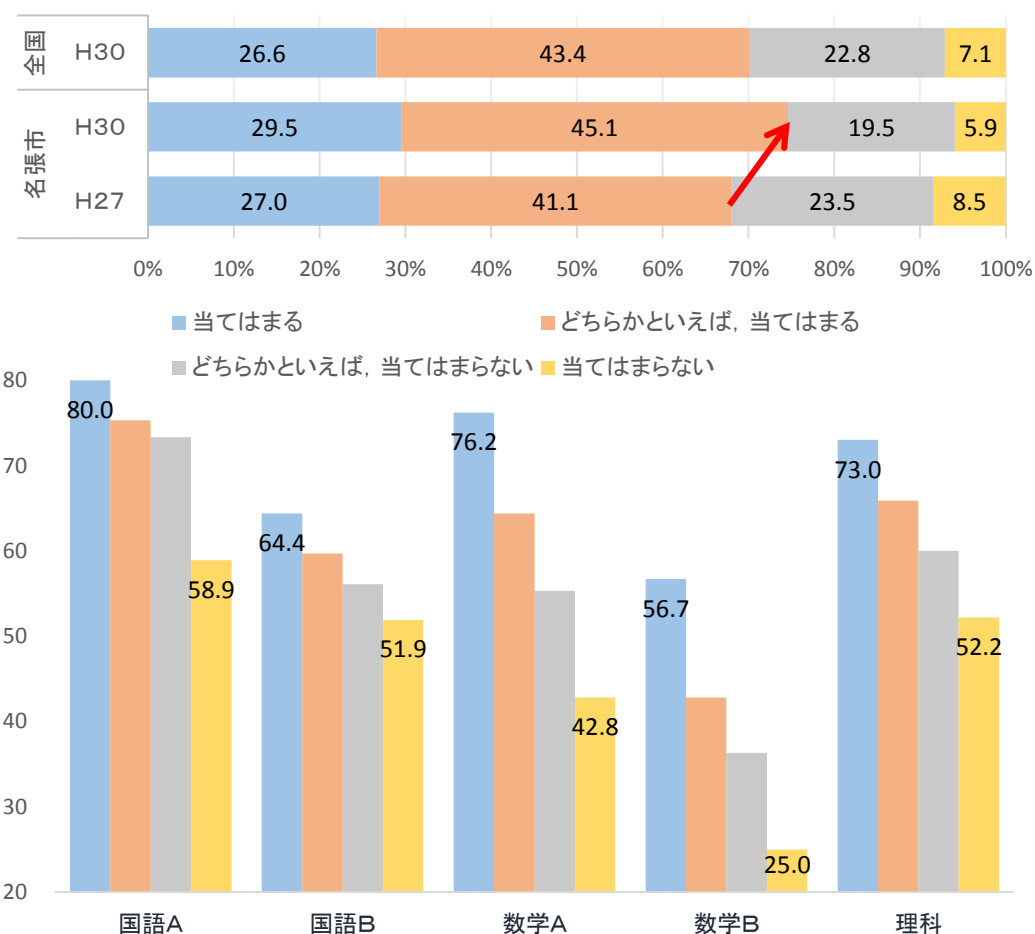
肯定的回答が、小・中学校ともに全国より低い結果です。前回調査（平成27年度）と比べると、中学校で増加しました。

④理科の授業の内容はよく分かりますか。

小学校



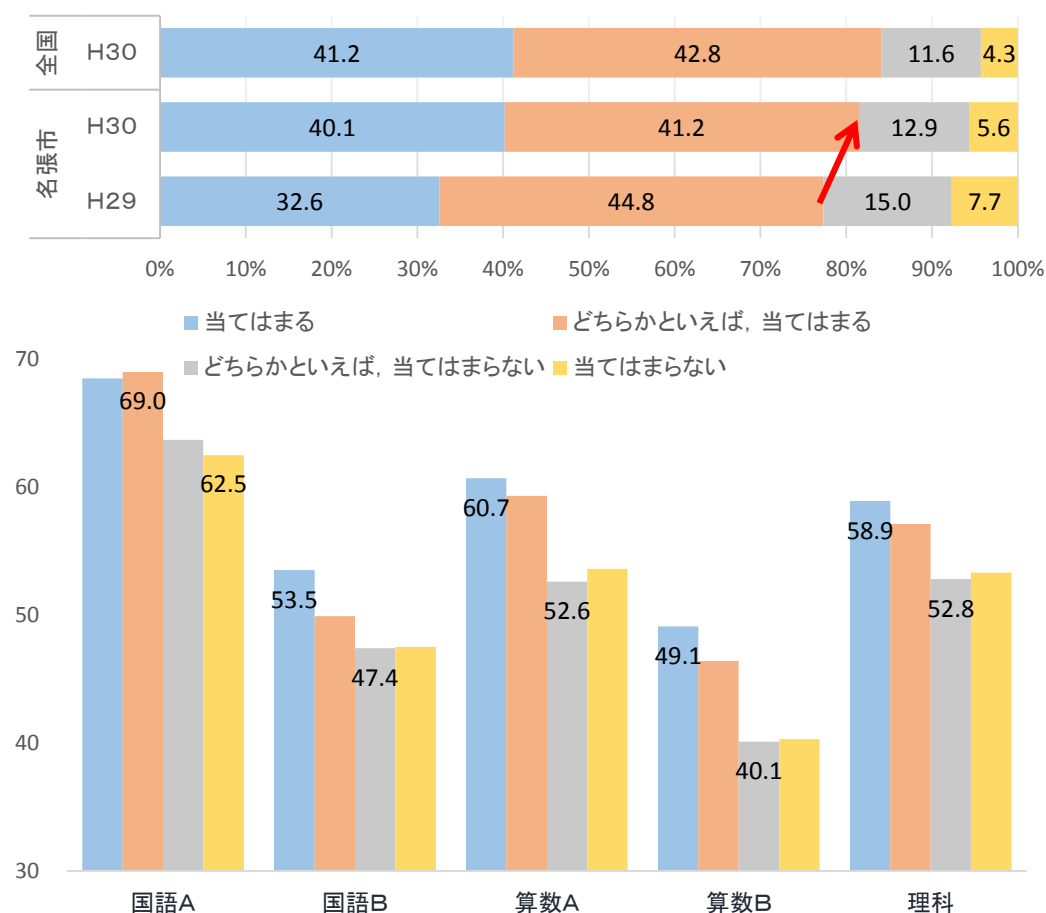
中学校



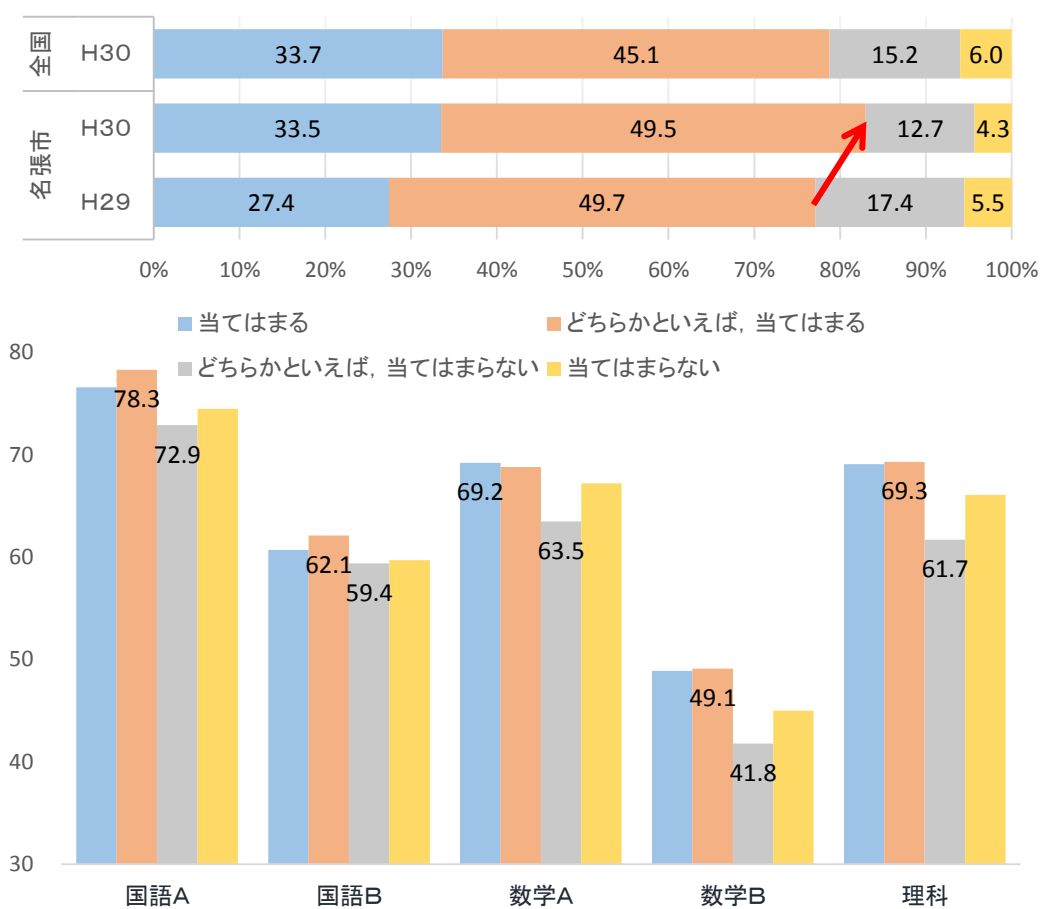
肯定的回答が、小学校では全国よりやや低く、中学校では全国より高い結果です。前回調査（平成27年度）と比べると、中学校で増加しました。

⑤自分には、よいところがあると思いますか。

小学校



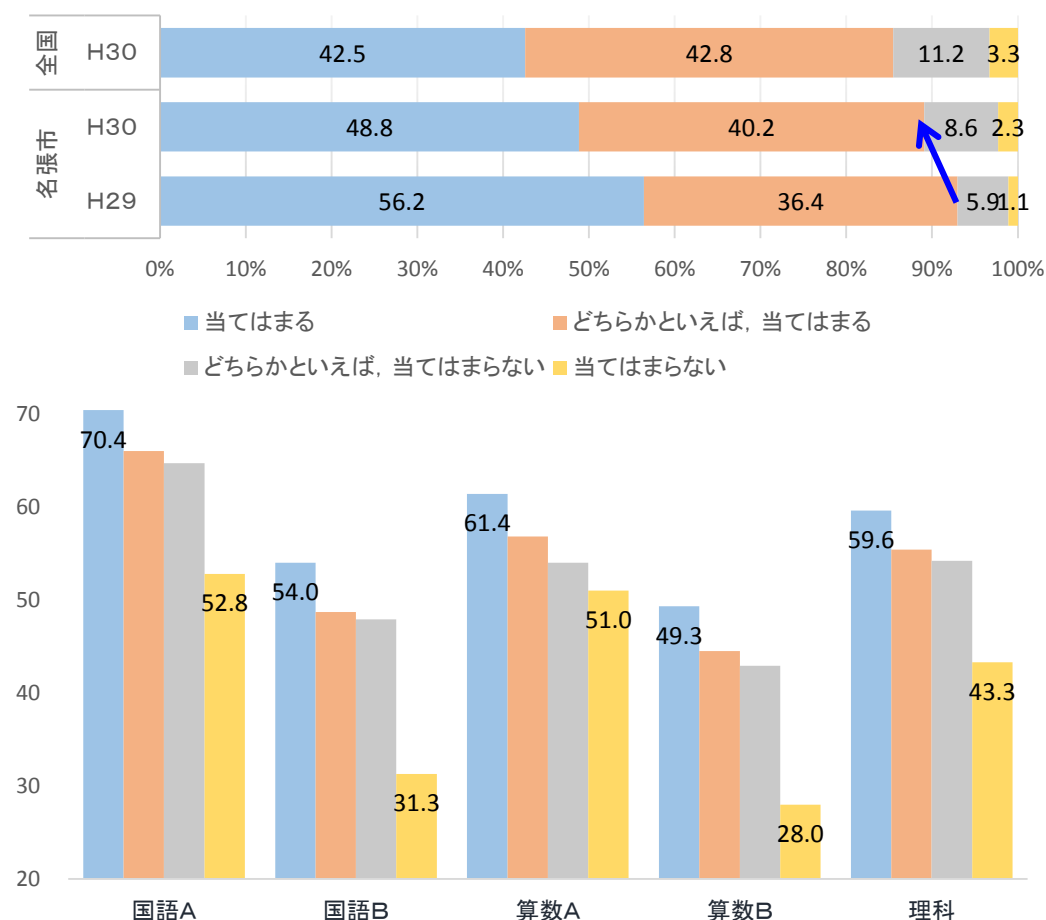
中学校



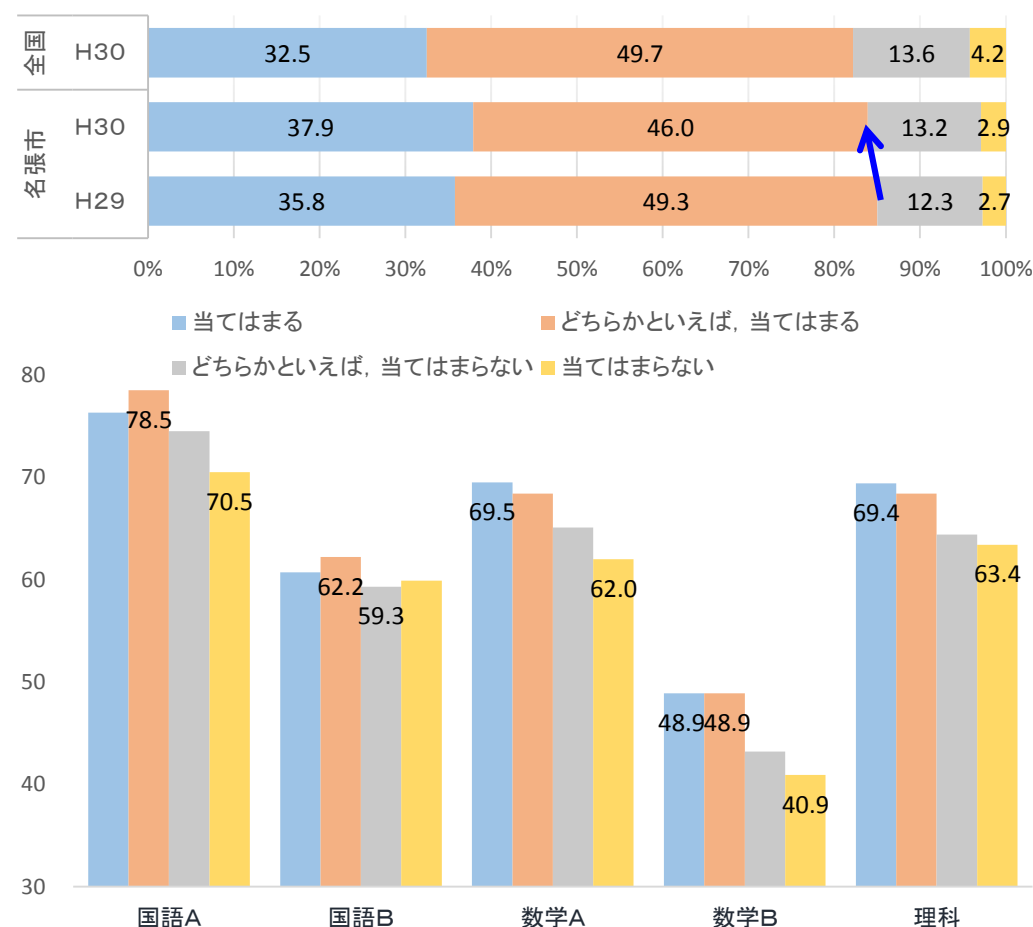
小・中学校ともに、肯定的回答が昨年度より増加し、中学校では全国より高くなりました。自己肯定感も正答率と相関があります。

⑥先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。

小学校



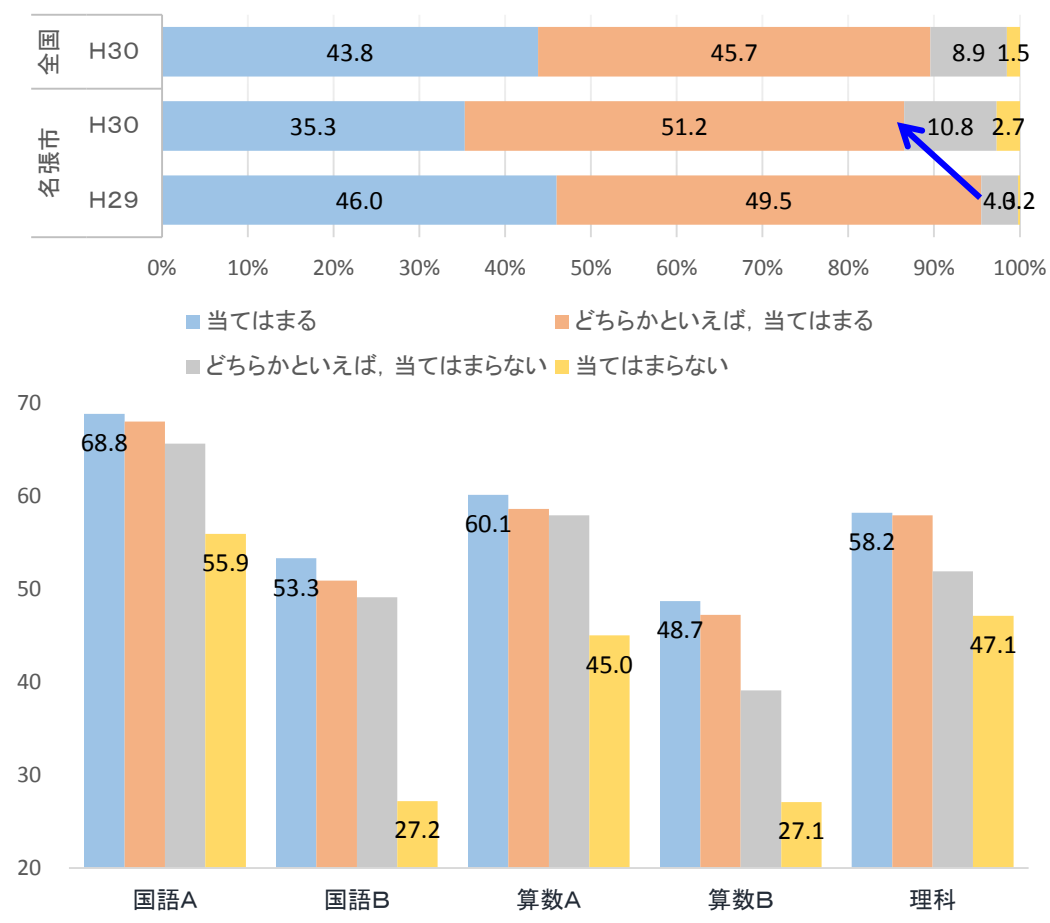
中学校



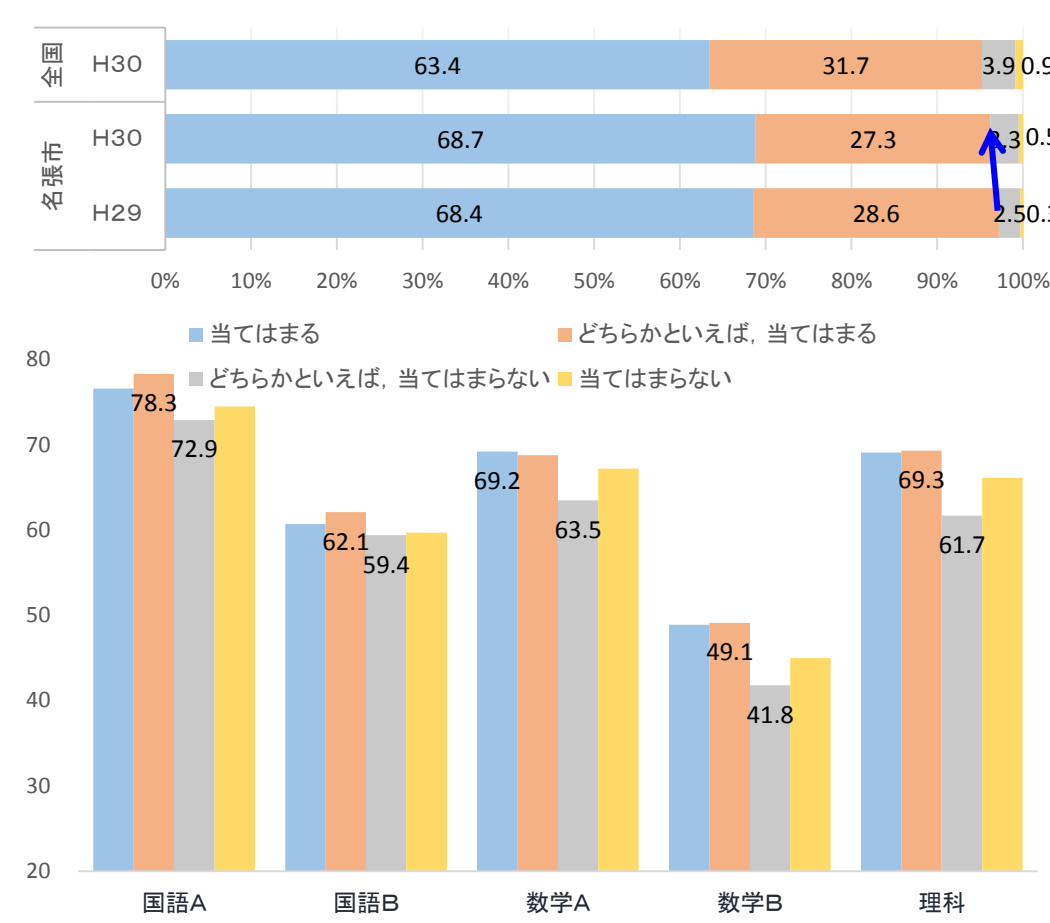
小・中学校ともに、昨年度よりはやや減少しましたが、教職員からの承認感が全国より高い結果です。

⑦学校のきまり（規則）を守っていますか。

小学校



中学校



☞ 肯定的回答が、小学校は昨年度より減少し、全国よりやや低くなりました。中学校は、全国よりやや高い結果です。規範意識についても、正答率との相関があります。

【学校教育に関する特徴的なこと】

- ・「算数・数学の勉強は好きですか。」の質問に対して、肯定的な回答割合が中学校では全国平均より高く、小学校ではやや低い。「算数・数学の授業の内容はよく分かりますか。」の質問に対して、小・中学校とも、肯定的な回答割合が全国平均より高い、よい傾向が続いている。
- ・「理科」に関する質問においては、肯定的な回答割合が、中学校で前回調査（平成27年度）より増加したが、小学校では減少し、全国平均より低い。
- ・「自分にはよいところがある」と感じている児童生徒の割合が、小・中学校とも昨年度より増加し、中学校では全国より高く、自己肯定感の高い、よい傾向である。
- ・「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」の質問に対して、小・中学校とも、肯定的な回答割合が全国平均より高い。
- ・「学校のきまり（規則）を守っている」と回答した割合が、中学校で全国平均より高く、小学校で全国より低い。

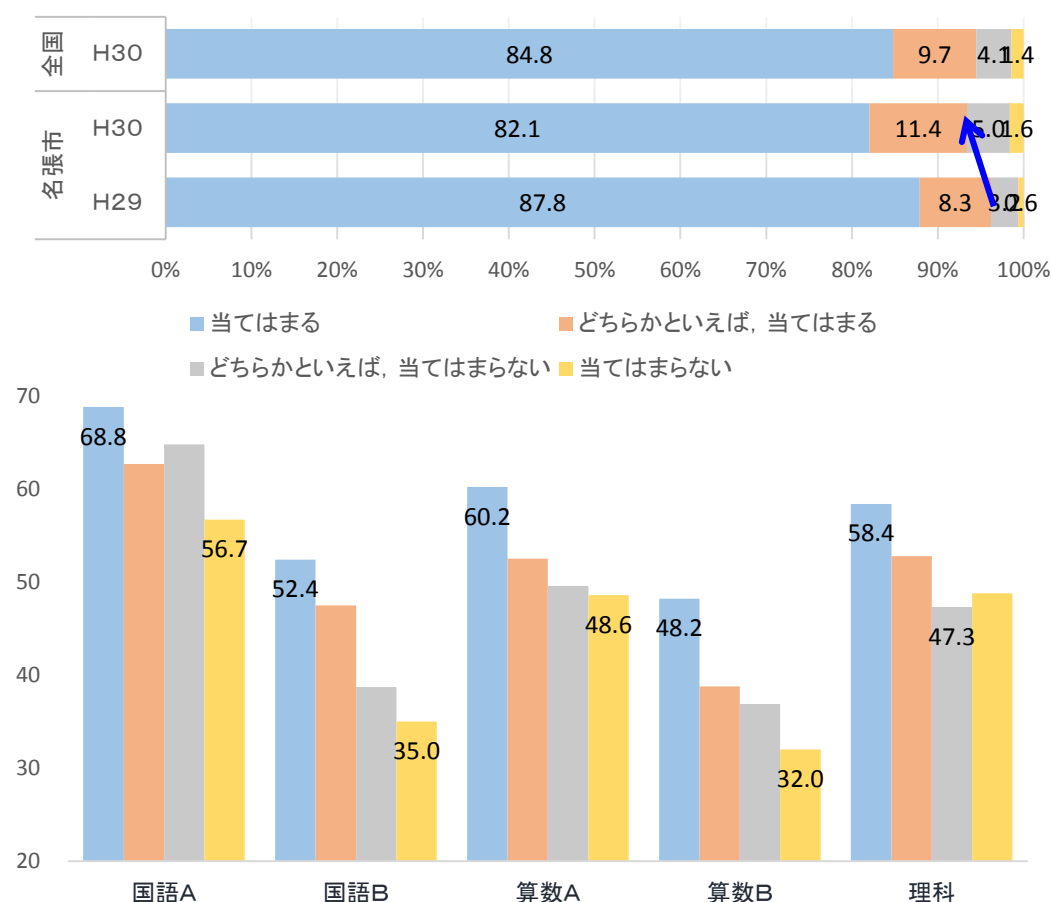
☞ 各教科について、「好きですか」、「授業の内容はよく分かりますか」という質問に対する回答と、各調査項目の平均正答率との間には相関関係があります。しかし、本市の調査結果からは、「好きだ」「よく分かる」という答えが全国を上回っていても、平均正答率は全国より低い調査項目もありました。このことから、今後は、児童生徒の習熟度に応じた指導方法、学習内容の定着に結びつく指導方法の研究や授業で取り扱う学習内容の吟味等をすすめ、さらなる学力の向上を目指していく必要があります。

また、教師の「よいところを認めていく姿勢」は全国より高い傾向が見られ、そのことが子どもたちの自己肯定感や規範意識にも好結果として現れており、今後さらに伸ばしていきたいところです。

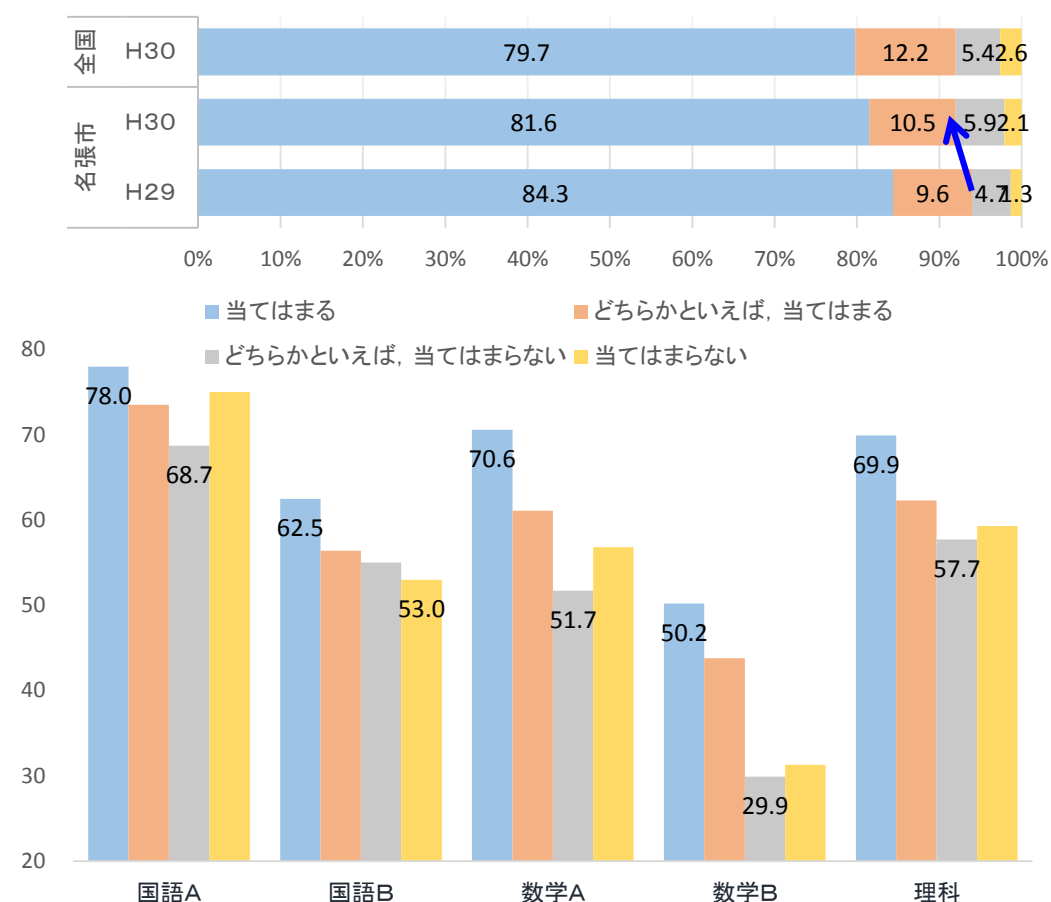
(2) 生活習慣に関すること

①朝食を毎日食べていますか。

小学校



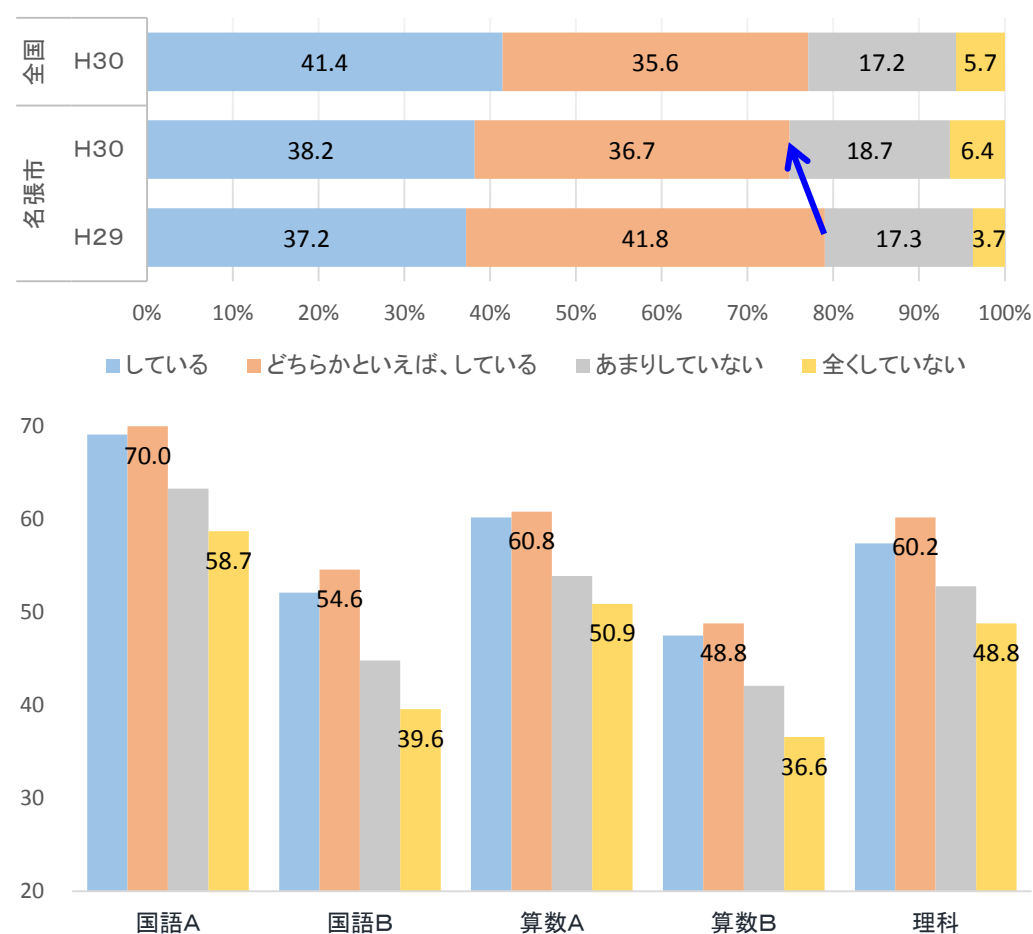
中学校



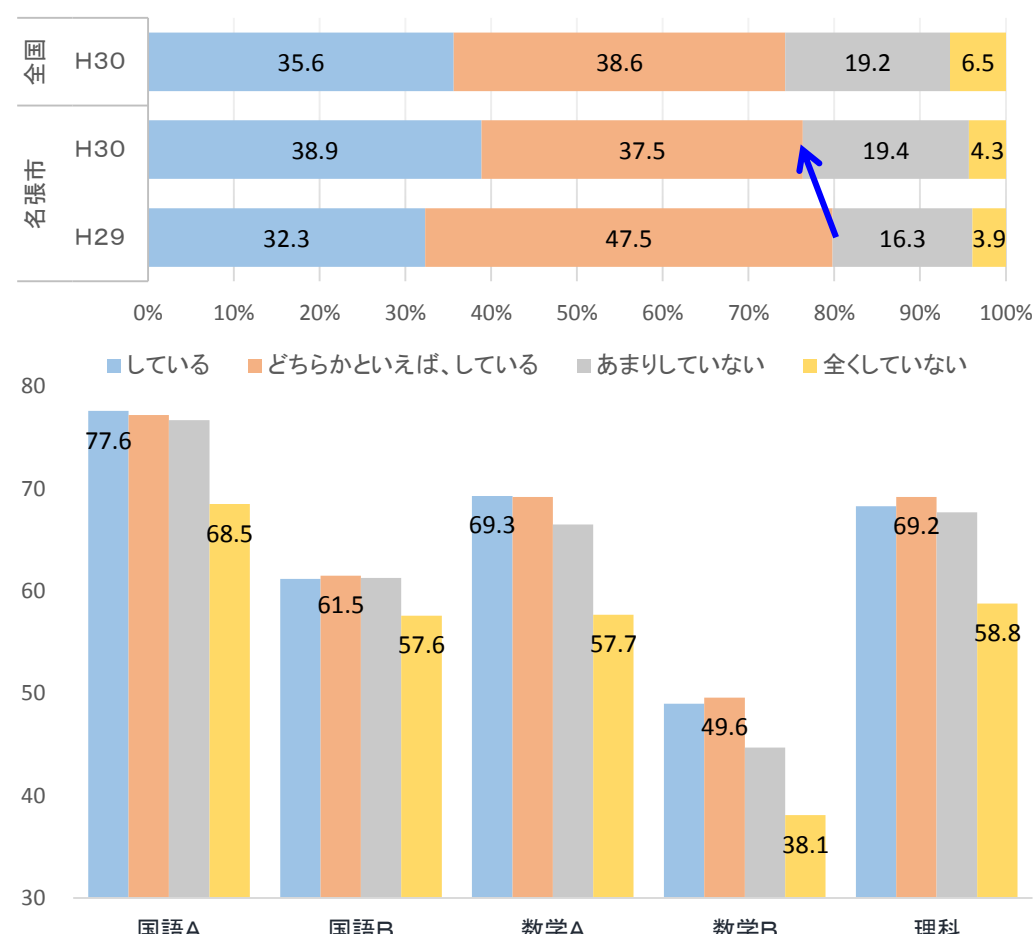
肯定的回答が、小・中学校ともに昨年度よりやや減少しましたが、中学校で全国よりやや高い結果となっています。

②毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。

小学校



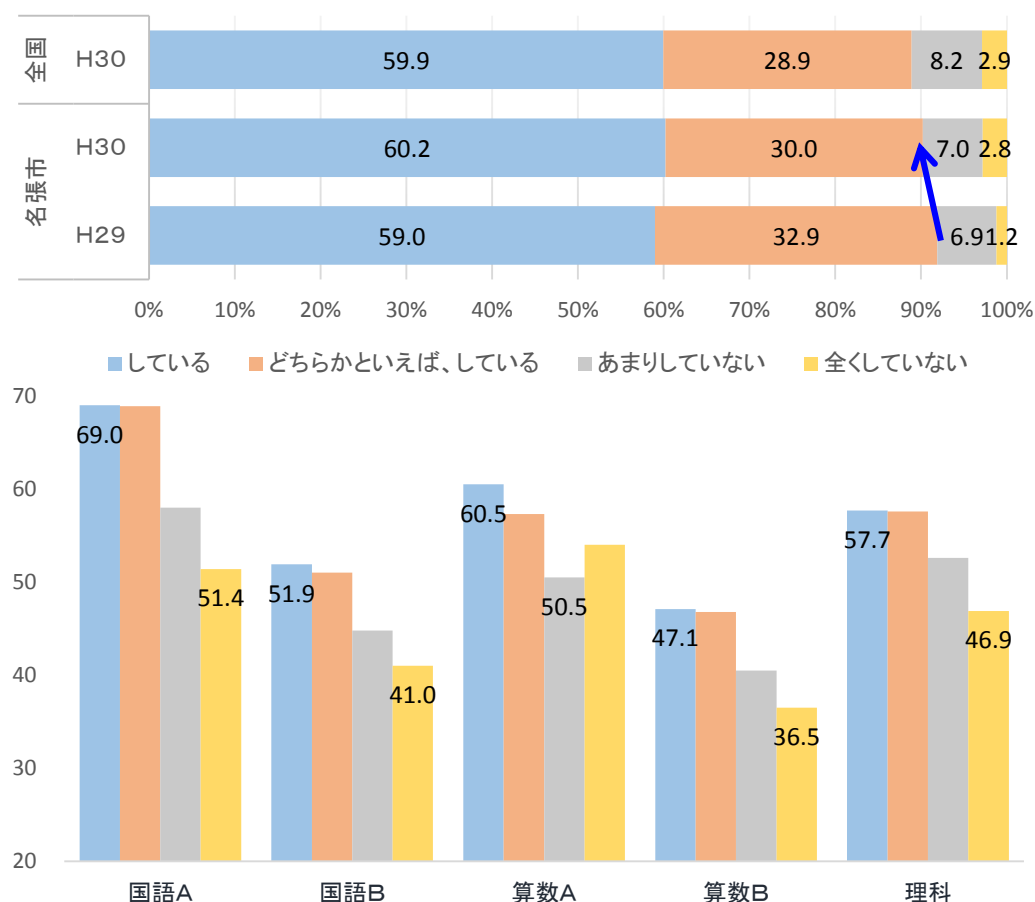
中学校



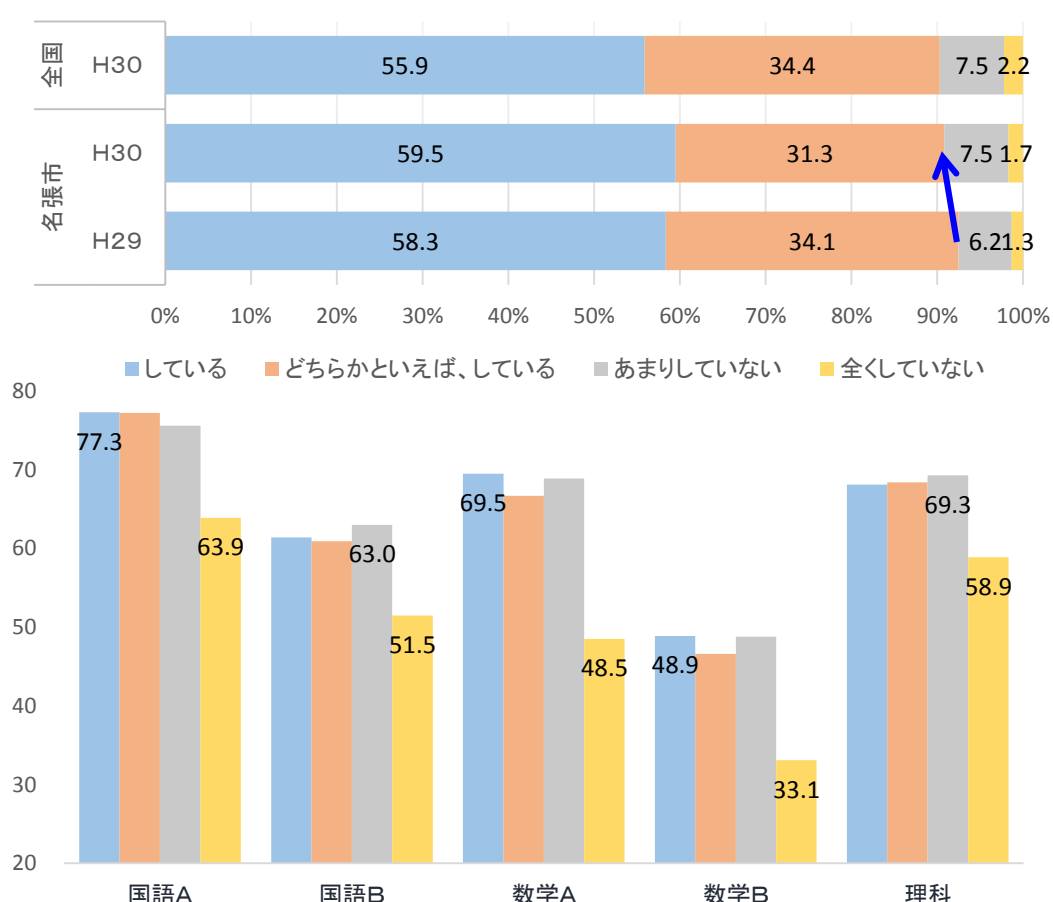
肯定的回答が、小・中学校ともに昨年度よりやや減少しましたが、中学校で全国よりやや高い結果となっています。

③毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。

小学校



中学校



肯定的回答が、小・中学校ともに昨年度よりやや減少しましたが、全国よりやや高い結果となっています。

【生活習慣で特徴的なこと】

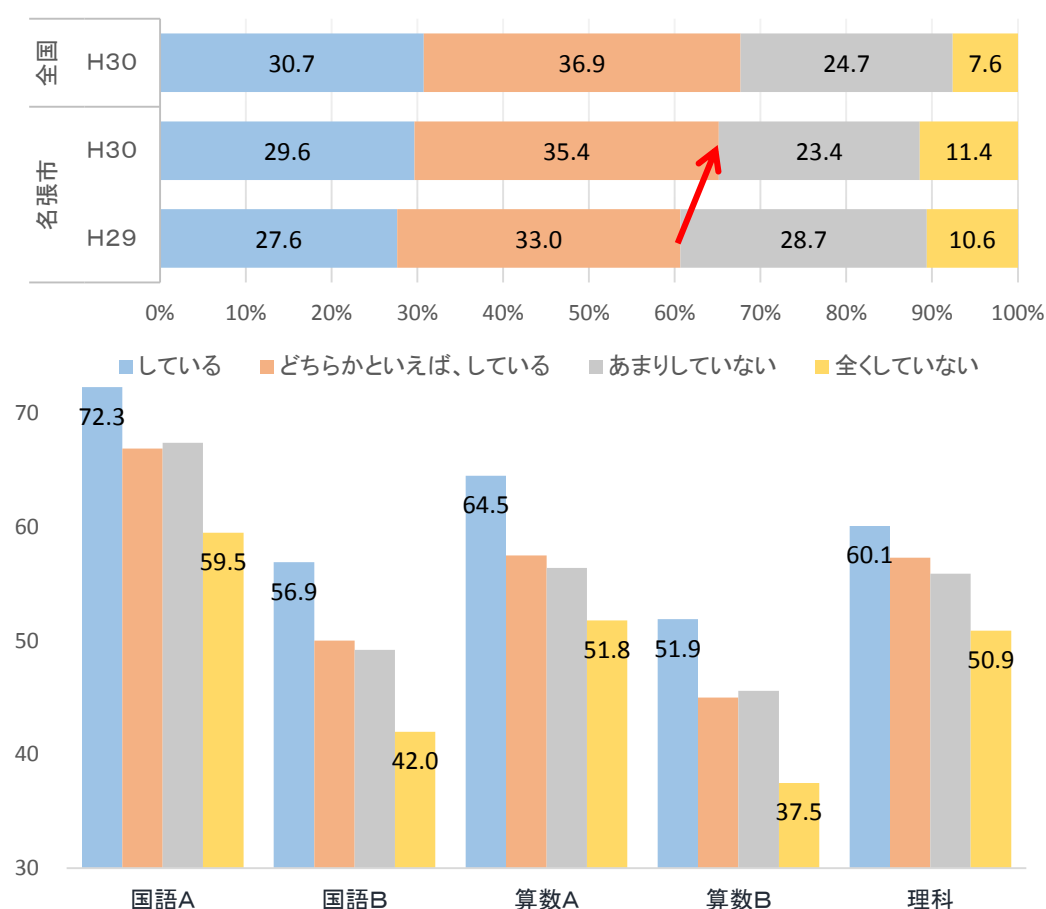
- ・「朝食を毎日食べていますか。」の質問に対して、「当てはまる」と回答した割合は、小学校で全国平均よりやや低く、中学校でやや高い。
- ・「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。」「毎日、同じくらの時刻に起きていますか。」という質問に対する肯定的回答は、小・中学校ともに、昨年度より減少した。

上記のクロス集計から分かりますが、家庭での生活習慣と、学力には強い相関関係があります。子どもたちの健やかな成長のためには、適切な運動、調和のとれた食事、十分な休養・睡眠が大切です。子どもがこうした生活習慣を身に付けていくためには家庭の果たすべき役割は大きいところですが、本市の子どもたちは、必要不可欠な基本的な生活習慣が十分に身に付いているとは言えません。家庭との連携を強化し、生活習慣の確立や生活リズムの向上を学習意欲の向上につなげる必要があります。

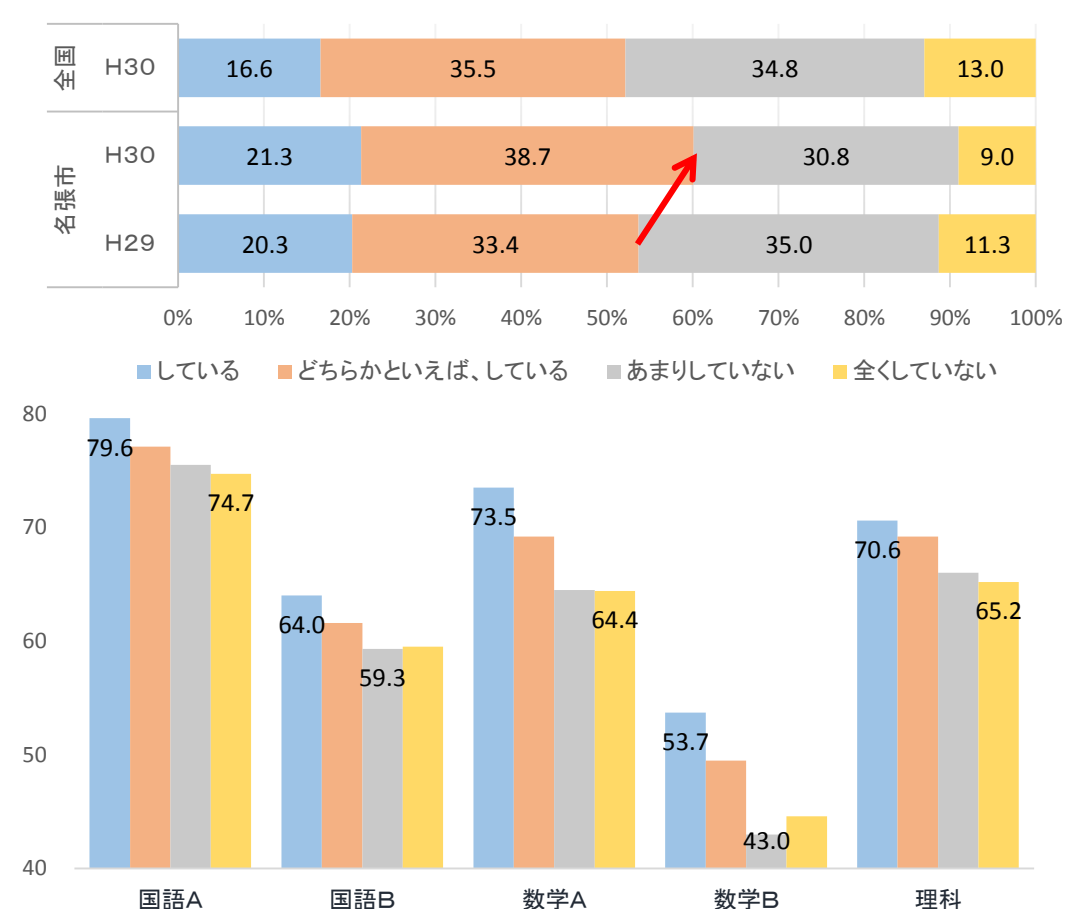
(3) 家庭学習に関すること

①家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。

小学校



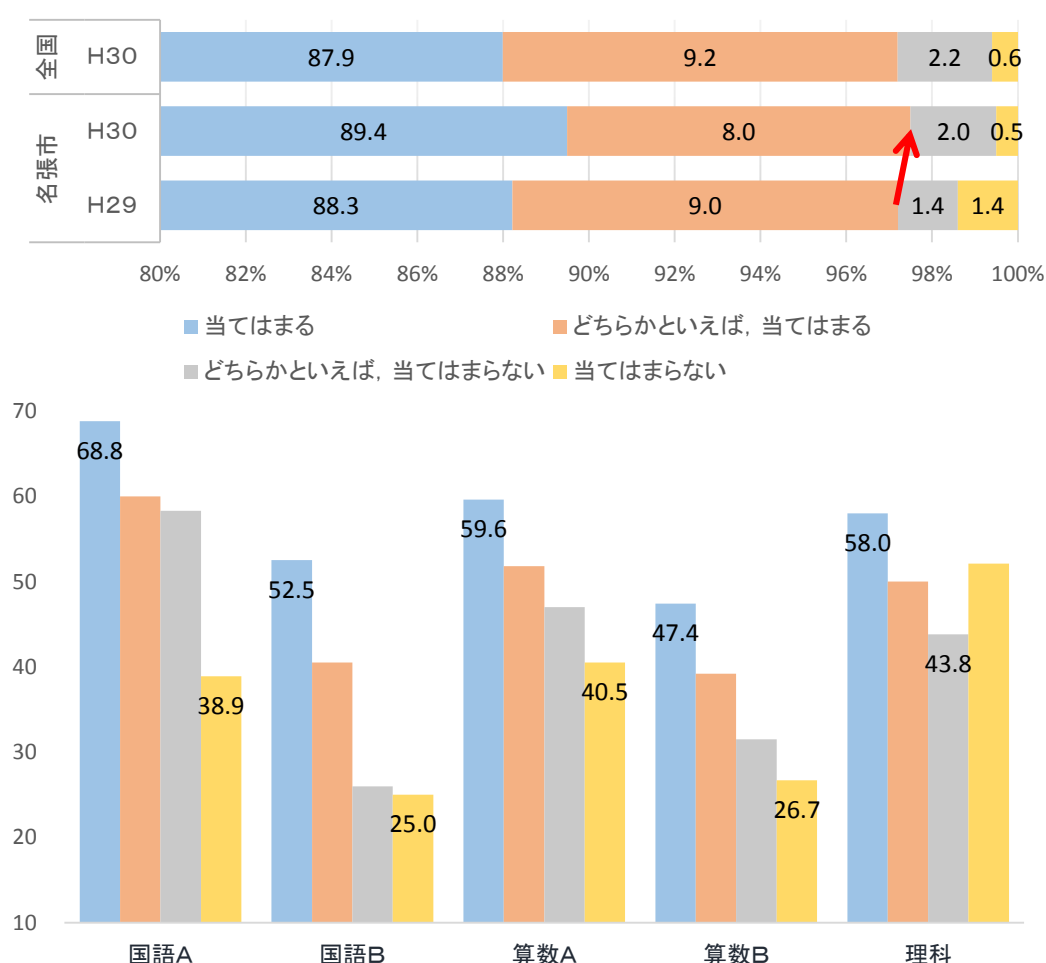
中学校



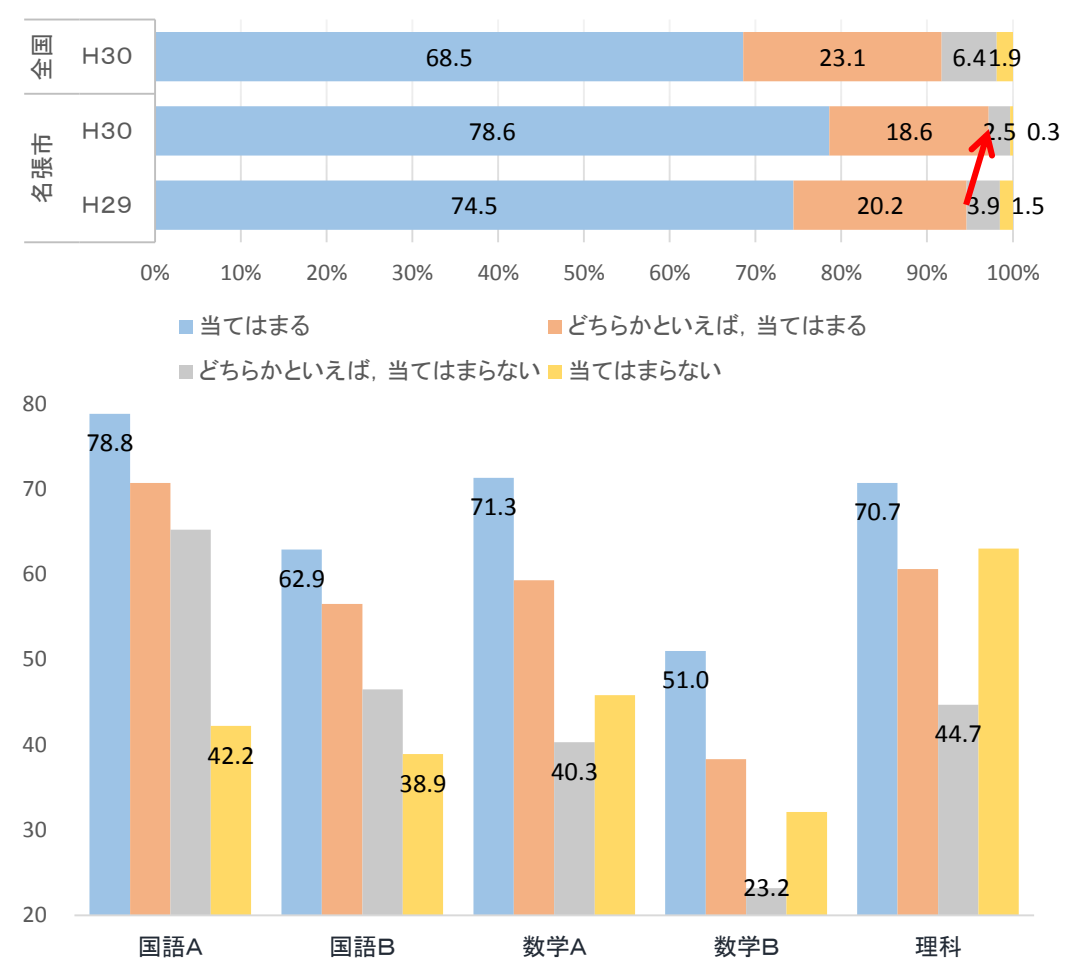
肯定的回答が、小・中学校ともに昨年度より増加しました。中学校では、全国より高い結果となっています。

②家で、学校の宿題をしていますか。

小学校



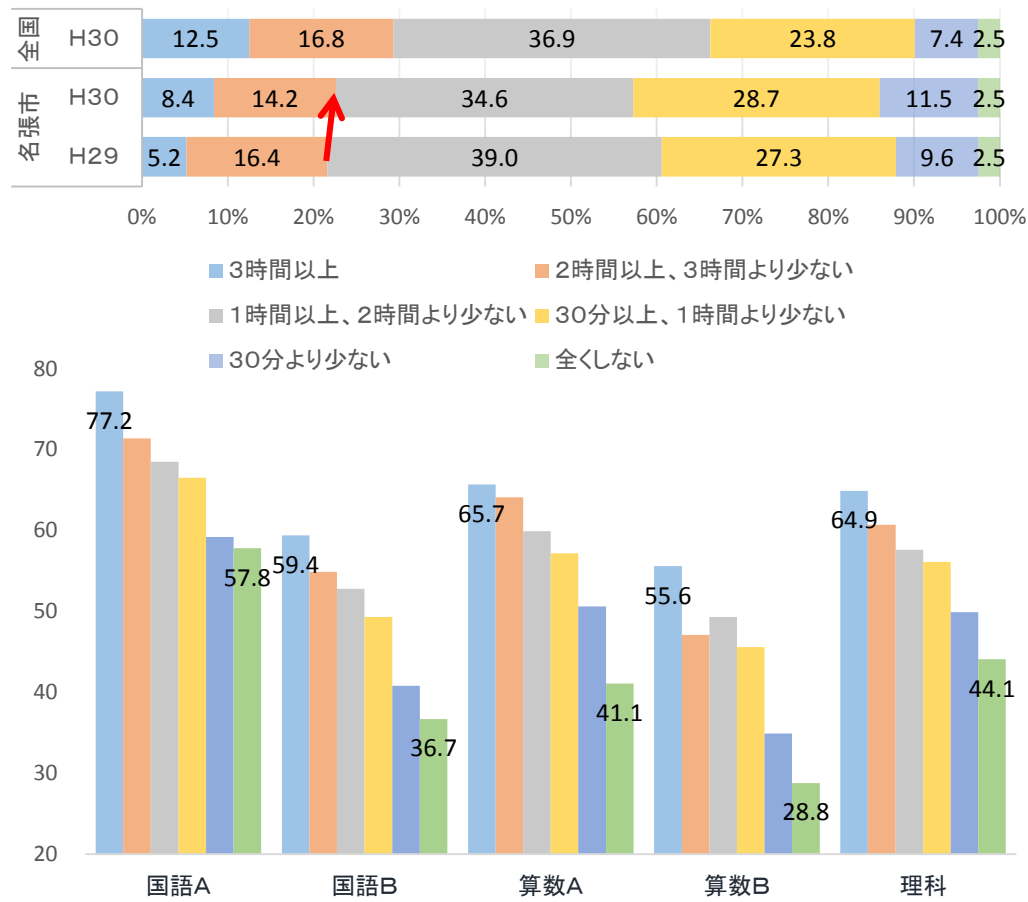
中学校



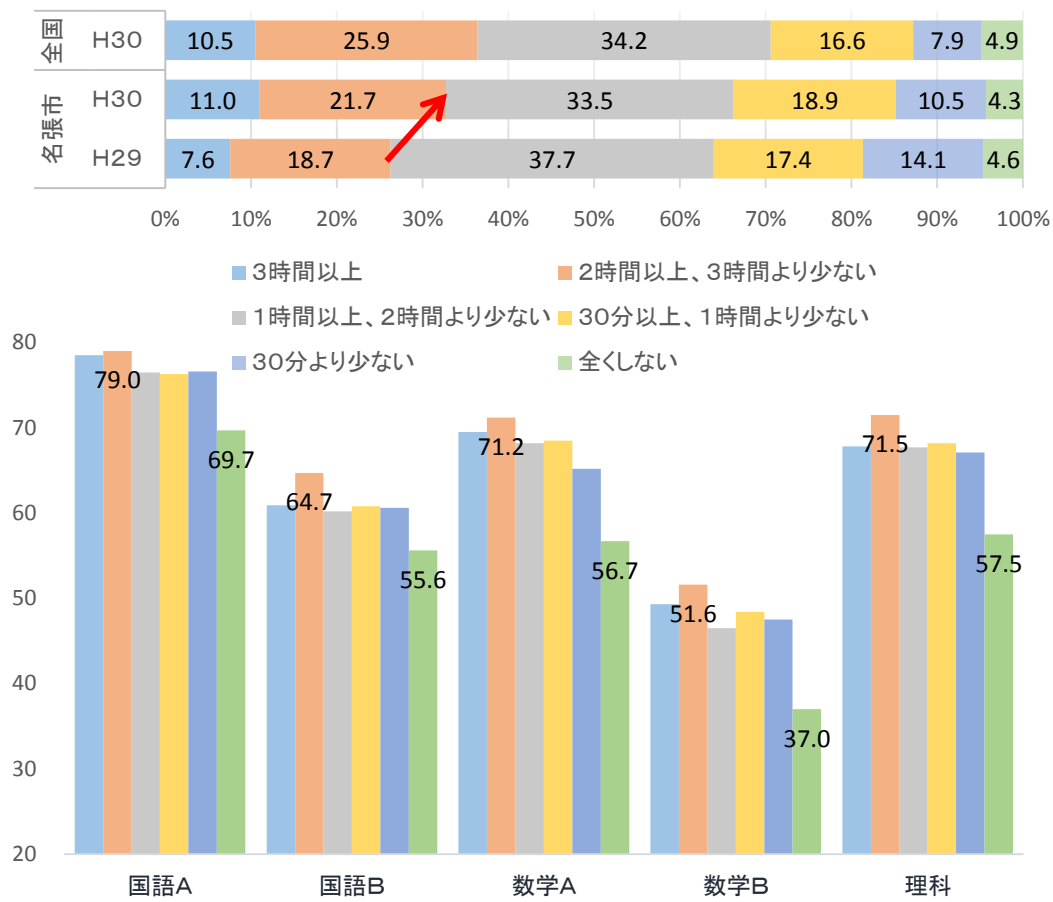
肯定的回答が、小・中学校ともに昨年よりやや増加し、全国より高い傾向が続いています。

③学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）

小学校



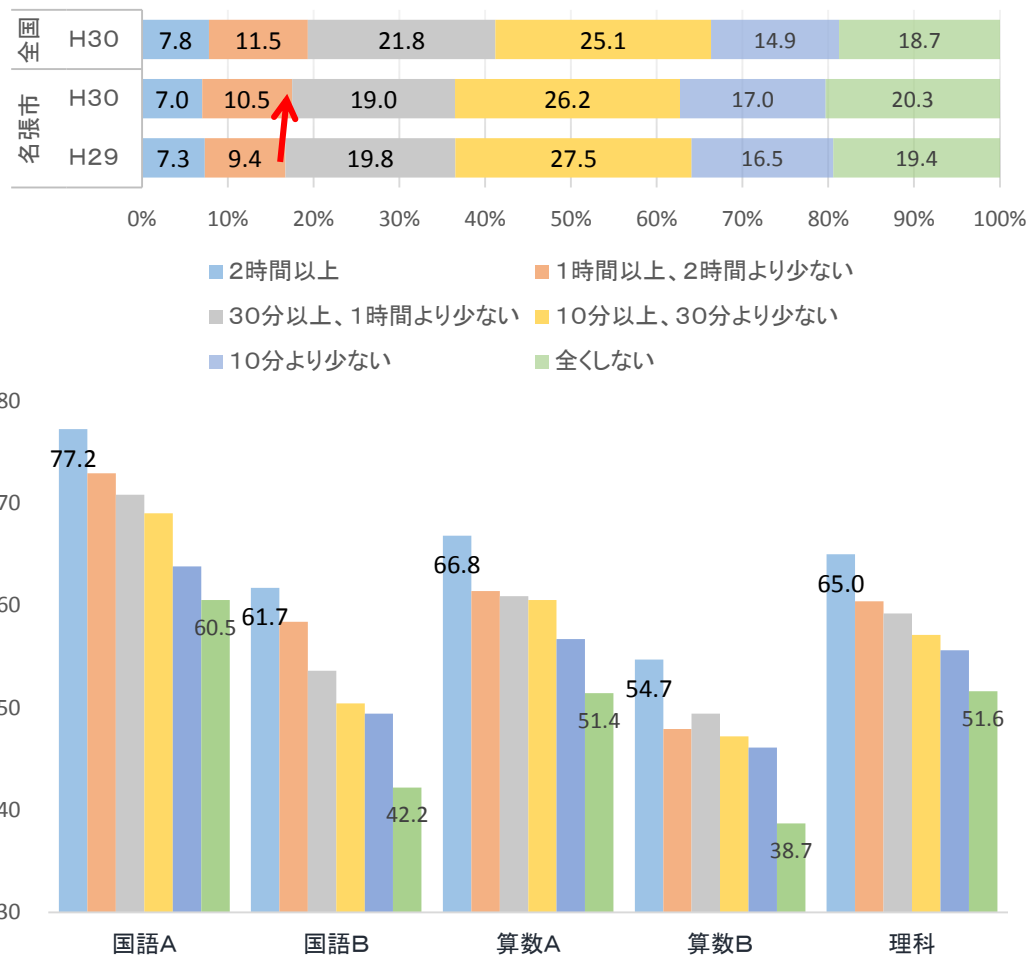
中学校



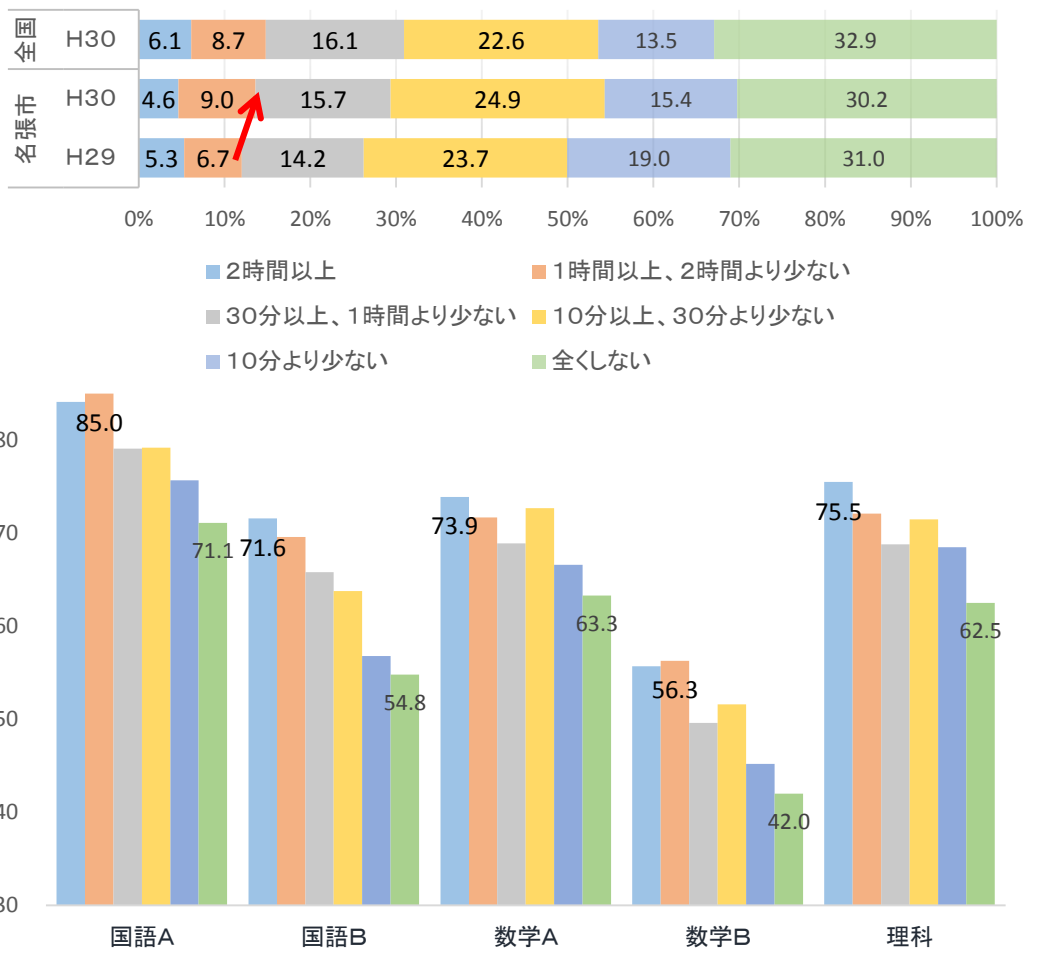
👉 学習時間が長い児童生徒（2時間以上と回答）の割合が、小・中学校とも昨年度より増加しましたが、全国より低い傾向が続いています。

④学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）

小学校



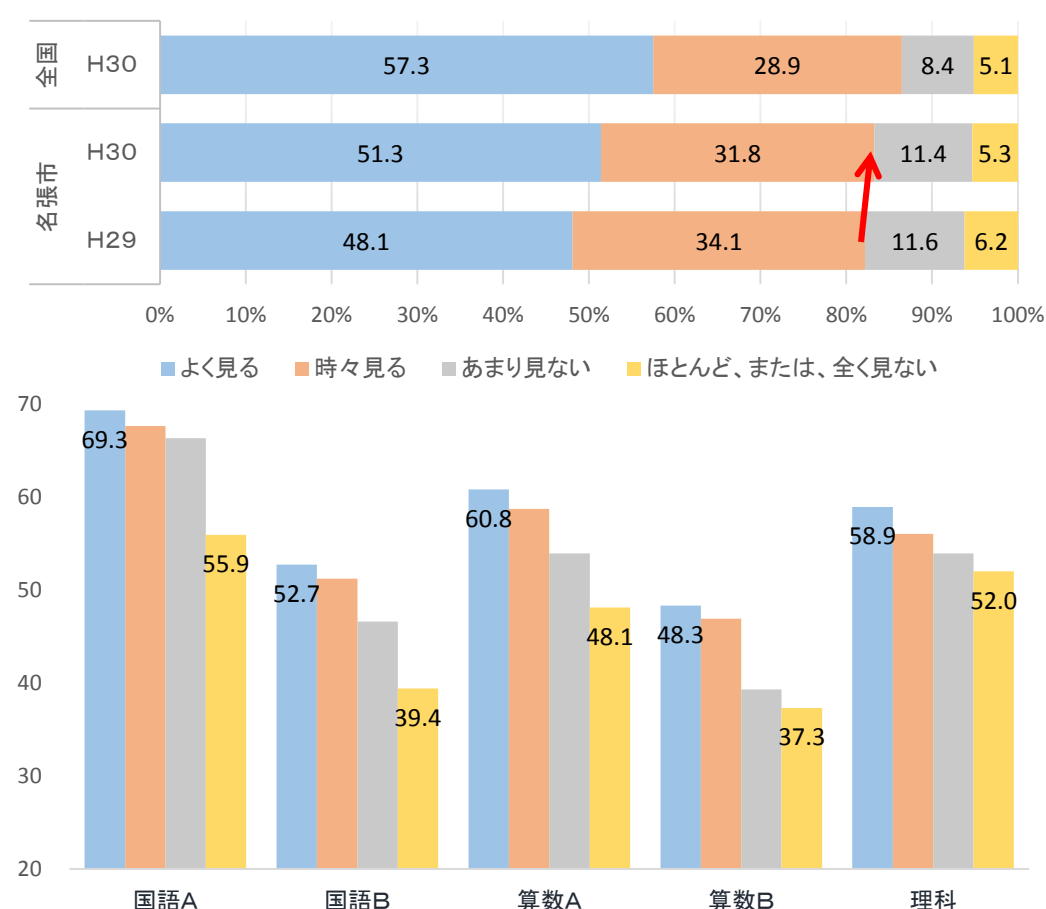
中学校



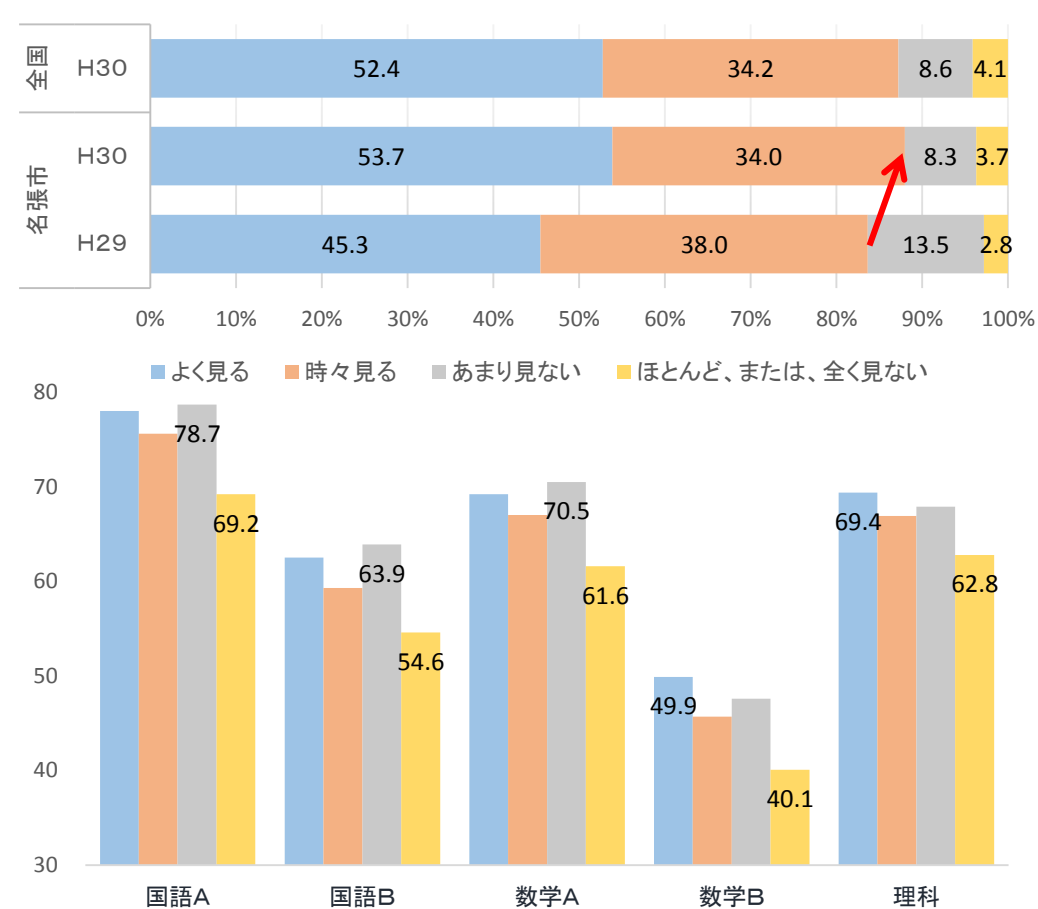
👉 読書時間が長い児童生徒（1時間以上と回答）の割合が、小・中学校とも昨年度より増加しましたが、全国より低い傾向が続いています。

⑤テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか。

小学校



中学校



肯定的回答が、小・中学校ともに昨年度よりやや増加しました。

【家庭学習について特徴的なこと】

- ・「自分で計画を立てて勉強をしていますか。」という質問に対する肯定的な回答が、小・中学校ともに昨年度より増加し、中学校では全国平均より高い。
- ・「家で、学校の宿題をしていますか。」という質問に対する肯定的な回答が、小・中学校ともに昨年度より増加し、全国平均より高い傾向が続いている。
- ・平日の家庭学習の時間について、小・中学校ともに、長時間（2時間以上）学習をする割合が昨年度より増加したが、短時間（1時間以内）しかしない割合が全国より高い傾向が続いている。
- ・読書する時間について、小・中学校ともに、全国に比べて、長時間読書をする割合が低く、短時間読書をする割合が高い。読書を全くしないと回答した児童生徒の割合は、小学校で2割、中学校で3割程度である。
- ・テレビやインターネットのニュースを見る時間からわかる、社会的な関心が高い児童生徒の割合は、小・中学校とも全国よりやや低い。

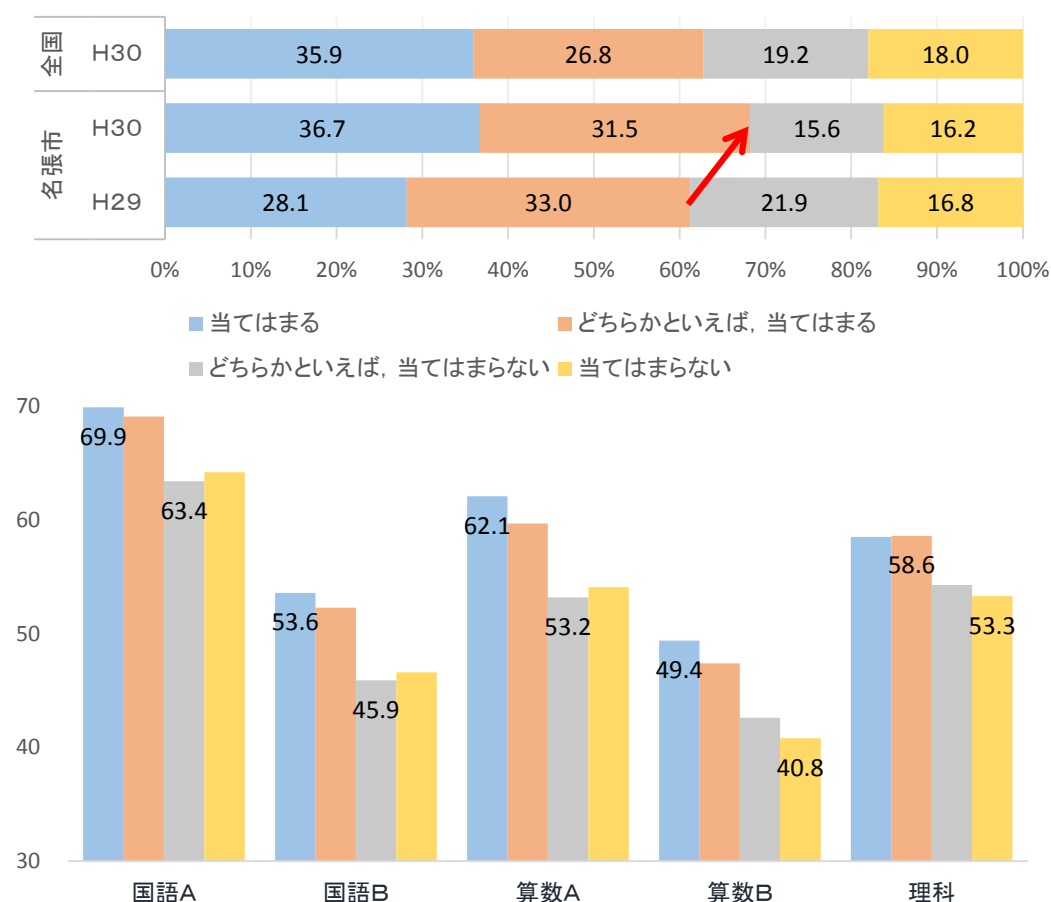
本市の子どもたちの、家庭における学習時間が、全国平均に比べてやや短い、という結果でした。調査結果には、学習塾での学習時間が含まれている為、正確な家庭における学習時間ではありませんが、トータルではやや短いということです。また、読書の時間も全国平均より総じて短いという結果です。既に取り組んでいる学校も多いのですが、今後、学校からの宿題等含め、家庭学習の時間や内容について見直し、家庭での学習習慣・読書習慣の定着に向けて、家庭と連携して取り組んでいく必要があります。

また、社会的な関心については、昨年度の結果より課題が見られます。ニュースへの関心を高め、家族と話し合うなど、家族とのコミュニケーションに期待するところが大きいです。

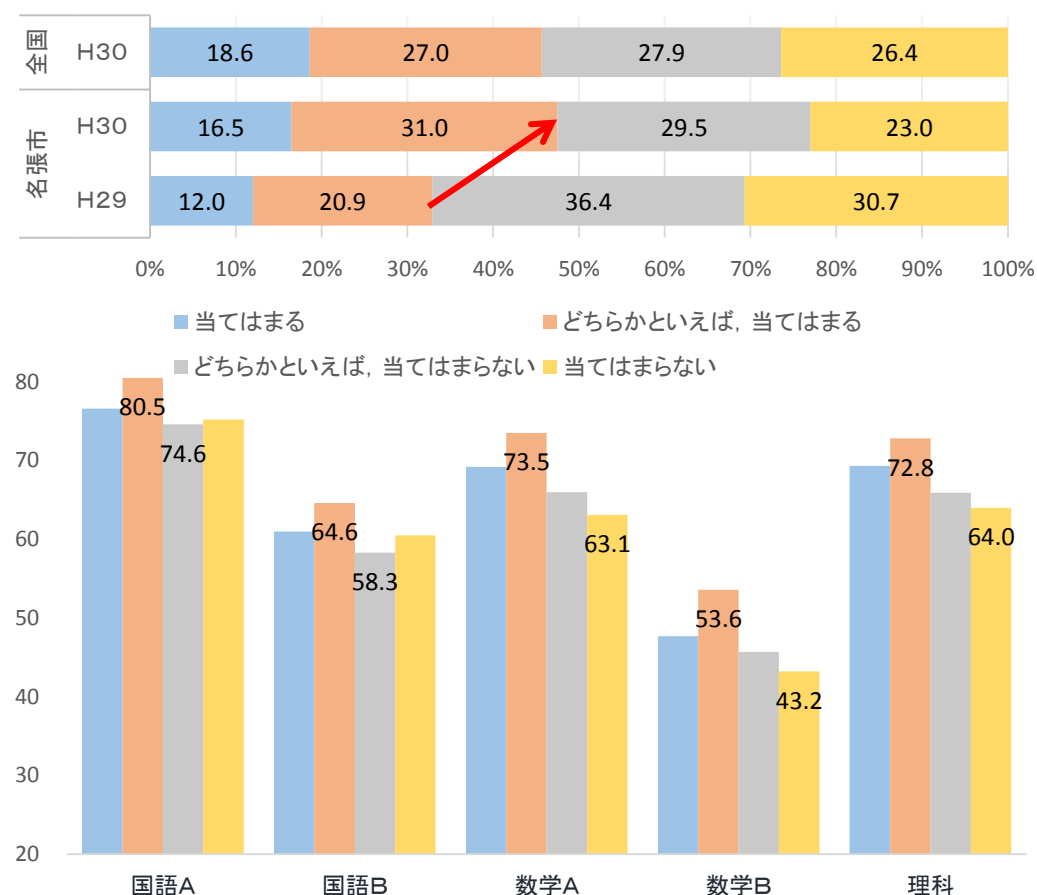
(4) 地域貢献・社会貢献に関すること

①今住んでいる地域の行事に参加していますか。

小学校



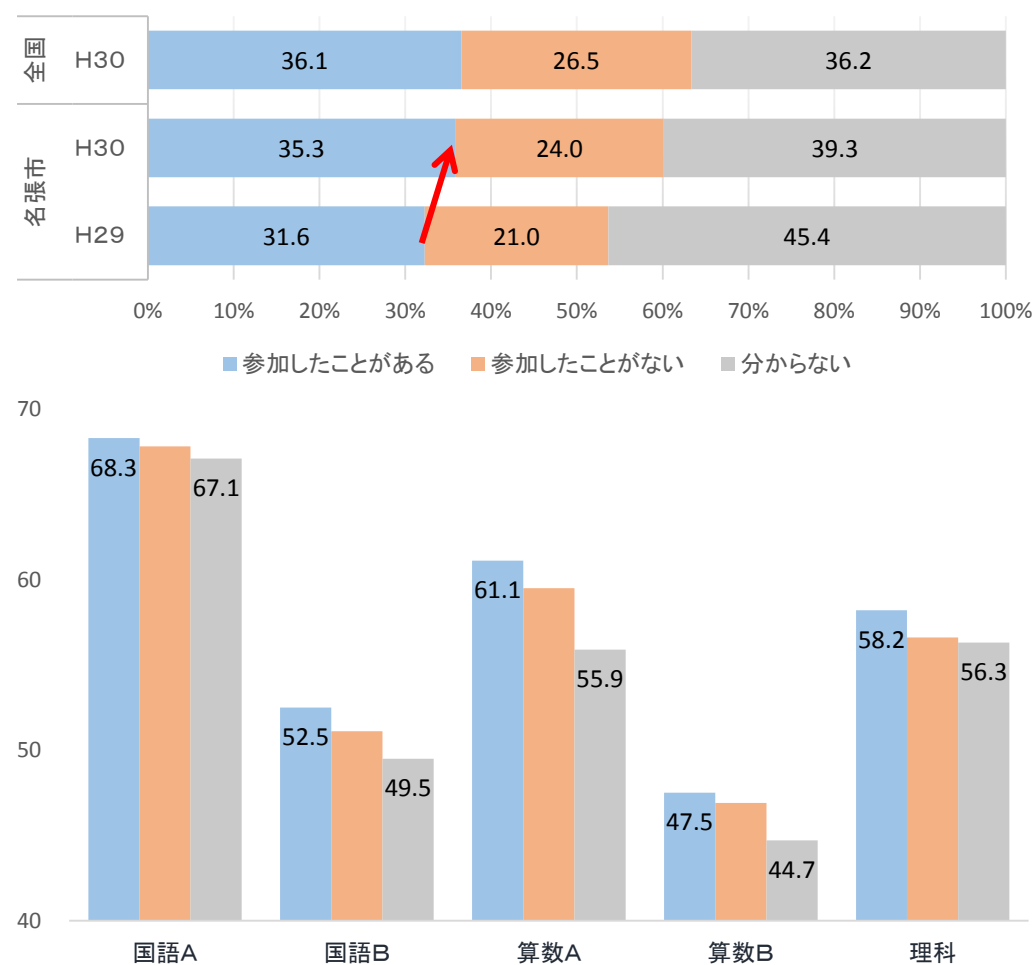
中学校



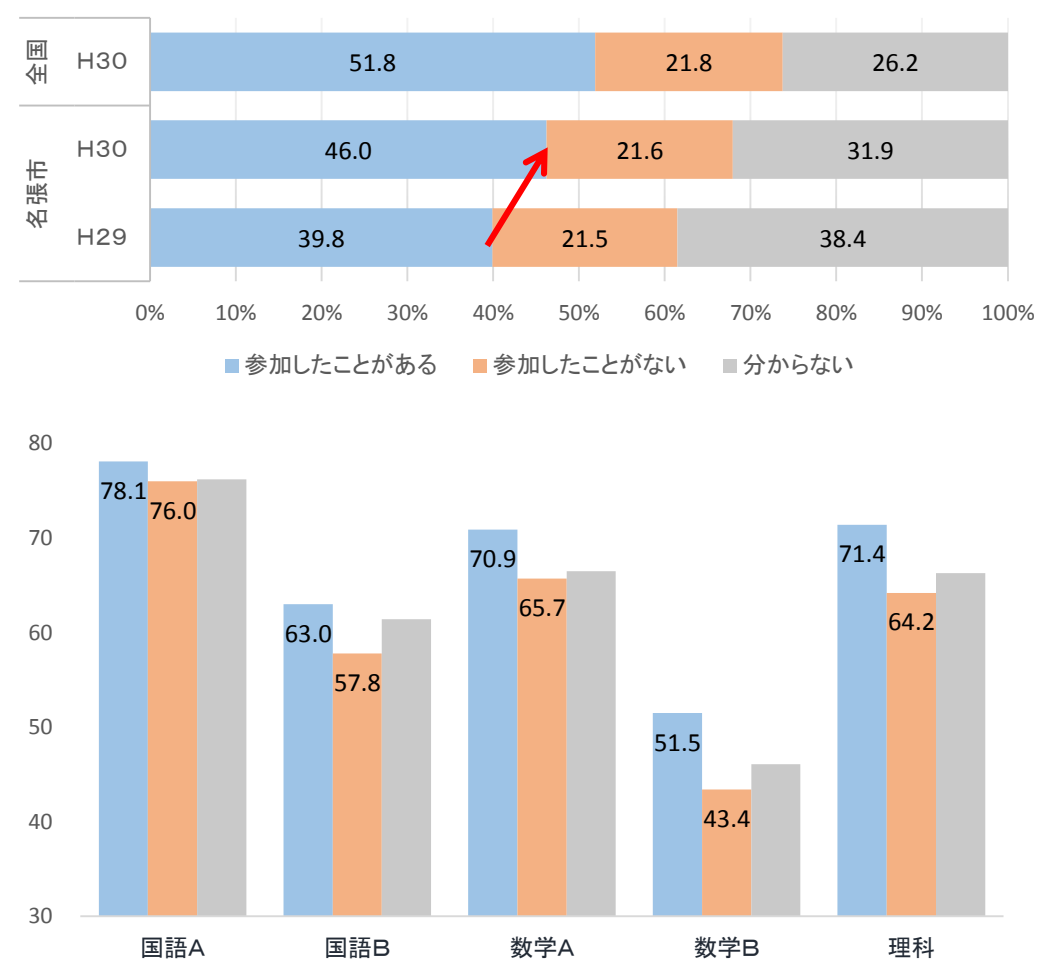
肯定的回答が、小・中学校ともに昨年度より大幅に増加し、全国より高い結果となりました。

②地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか。

小学校



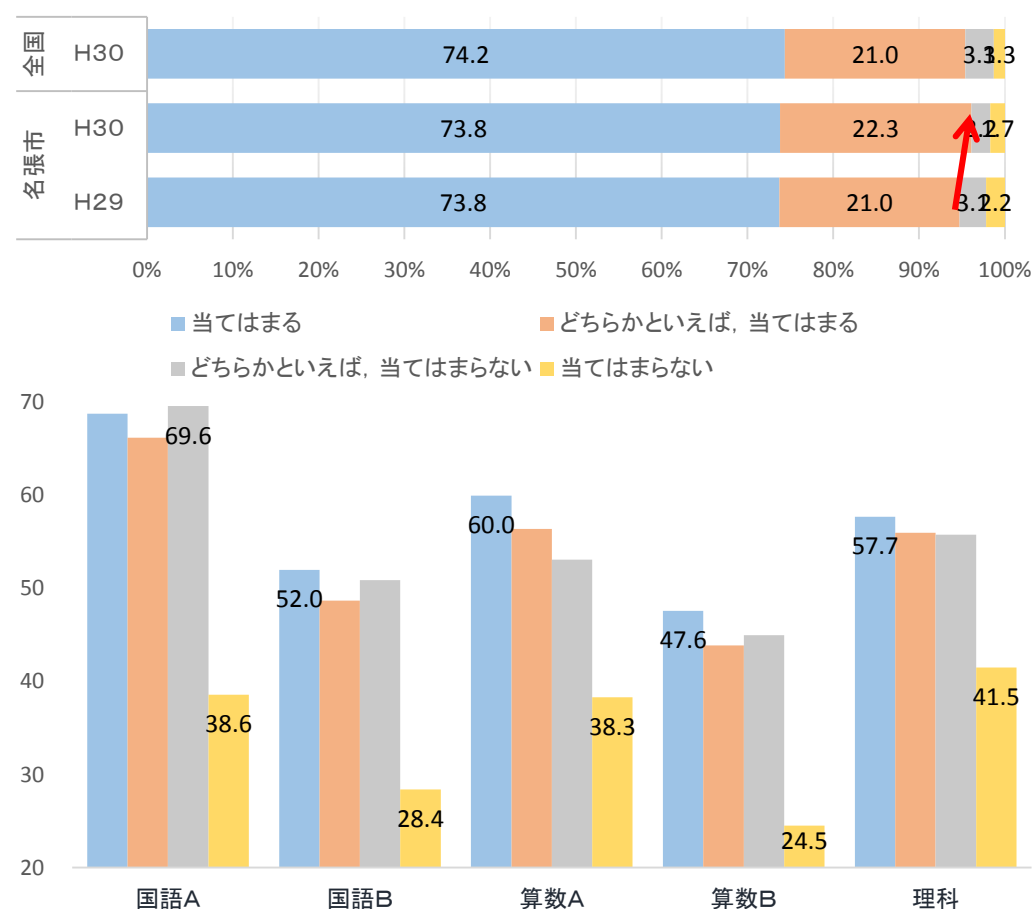
中学校



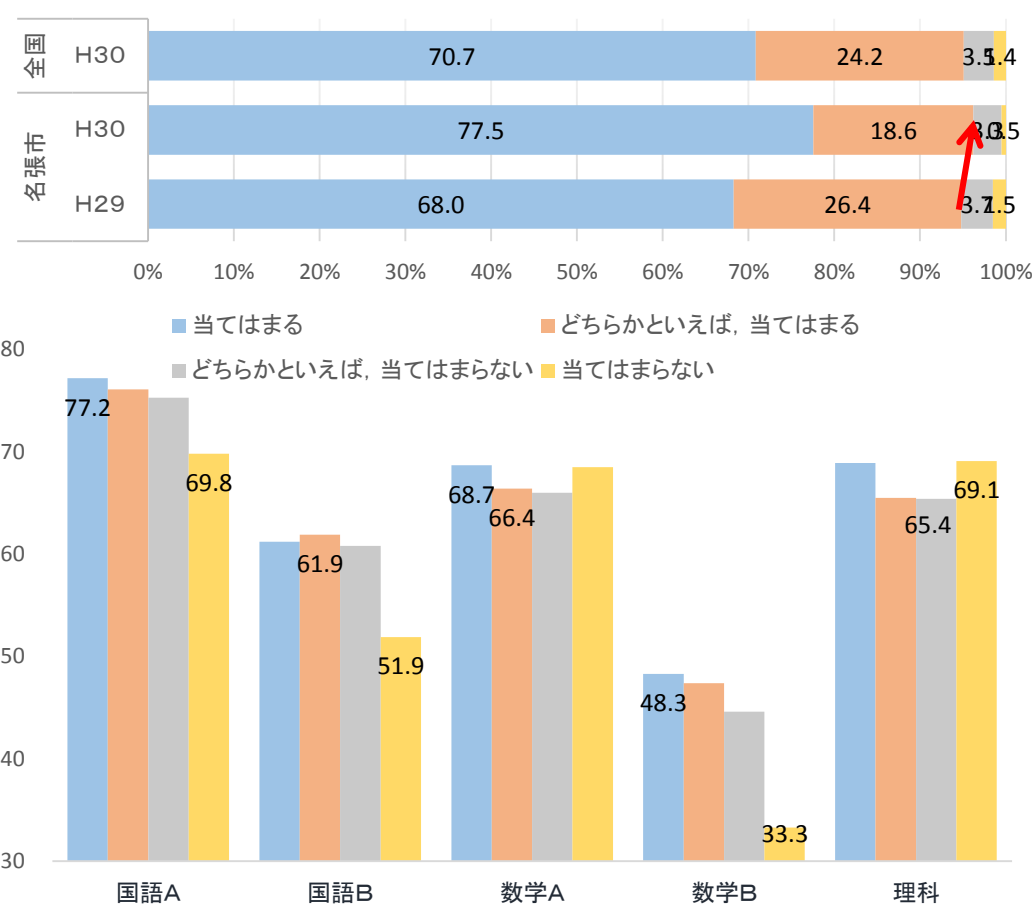
肯定的回答が、小・中学校ともに昨年より増加しましたが、全国よりやや低い結果となりました。また、わからないと回答した児童生徒の割合が、全国より高いです。

③人の役に立つ人間になりたいと思いますか。

小学校



中学校



肯定的回答が、小・中学校ともに昨年よりやや増加し、全国よりも高い結果となりました。

【地域貢献・社会貢献について特徴的なこと】

- ・「今住んでいる地域の行事に参加していますか。」という質問に対する肯定的回答の割合は、小・中学校ともに、昨年度より大幅に増加し、全国平均を初めて上回った。
- ・地域社会などでボランティア活動に参加したことがあると回答した割合は、小・中学校ともに、昨年度より増加し、全国平均との差が縮まった。
- ・人の役に立つ人間になりたいと考えている児童生徒の割合が、小・中学校ともに、昨年度よりやや増加し、全国平均より高く、貢献心が高い。

地域への関心について、昨年度より高くなり、全国平均も上回る結果となりました。一方で、地域でのボランティア活動への参加については、全国平均に比べると低いことに加えて、わからないと回答する割合も高く、地域貢献・社会貢献に対しての関心を高める必要があります。

また、本市の子どもたちの貢献心は、小・中学校ともに全国平均より高いという、よい傾向が続いています。

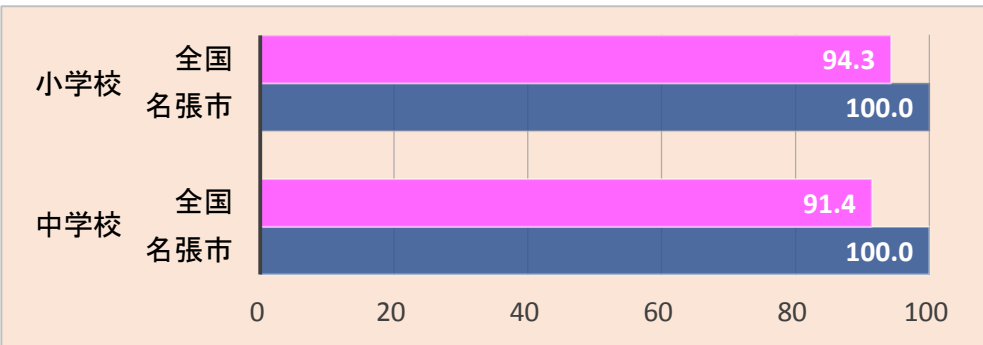
4 学校質問紙調査結果の特徴的な傾向と分析

「学校質問紙調査」とは、学校における指導方法に関する取組や、学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査です。

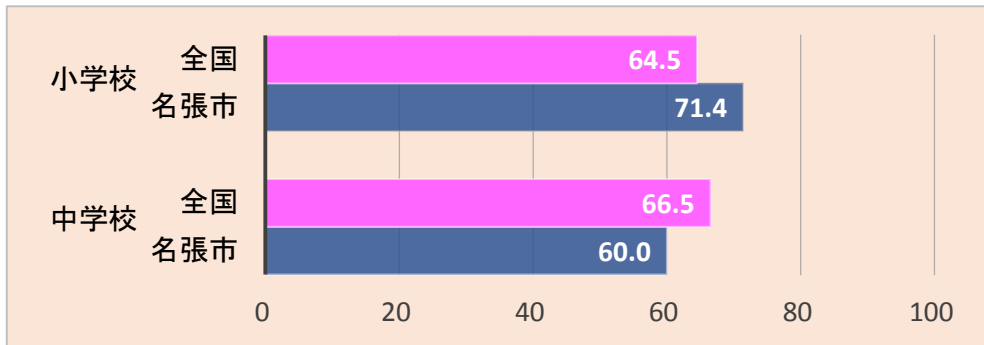
ここでは、「学校質問紙調査」のうち、特徴的な資料をいくつか示し、その傾向と分析を記載しています。

※質問項目の後に（ ）のない場合、グラフの数値は、学校が「よく行った」「どちらかといえば行った」と回答した割合（%）

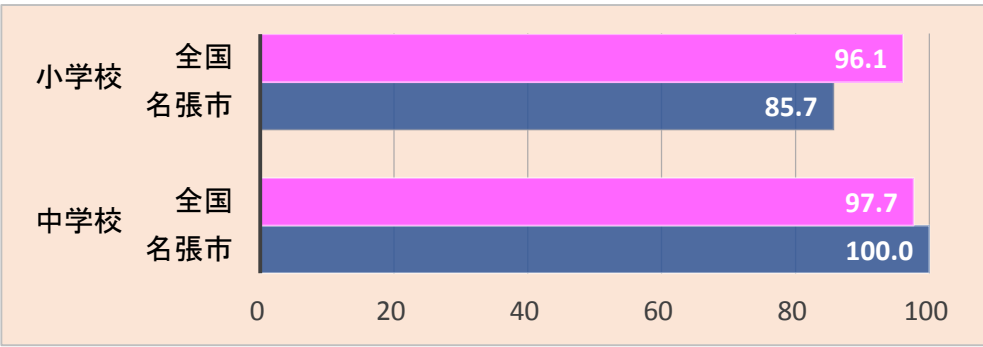
①調査対象学年の児童（生徒）に対する算数（数学）の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか。



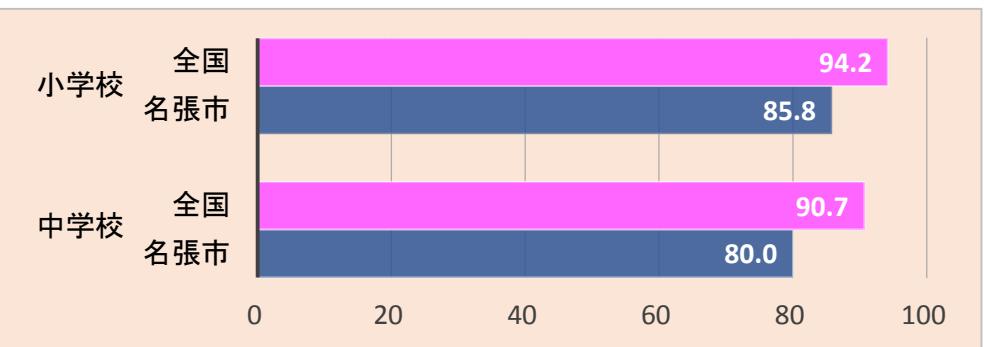
②調査対象学年の児童（生徒）に対する算数（数学）の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか。



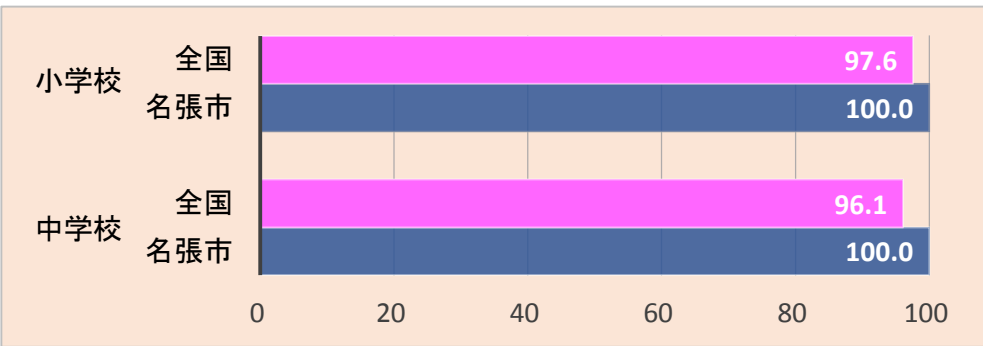
③調査対象学年の児童（生徒）に対する理科の授業において、前年度に、児童（生徒）の好奇心や意欲が喚起されるよう、工夫していましたか。



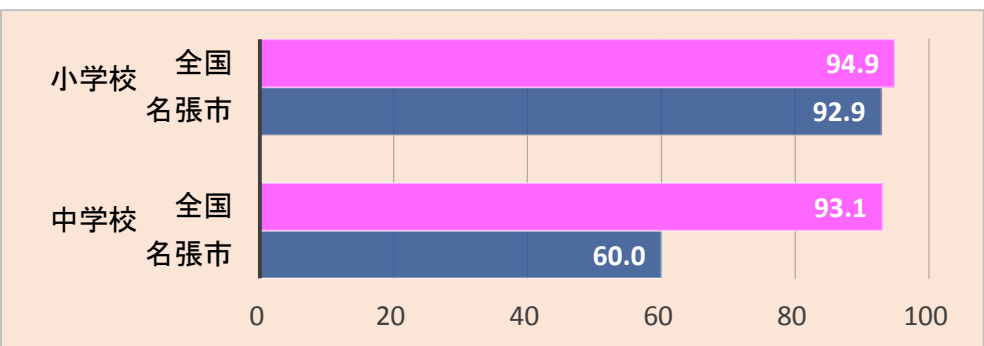
④言語活動について、国語科だけでなく、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか。



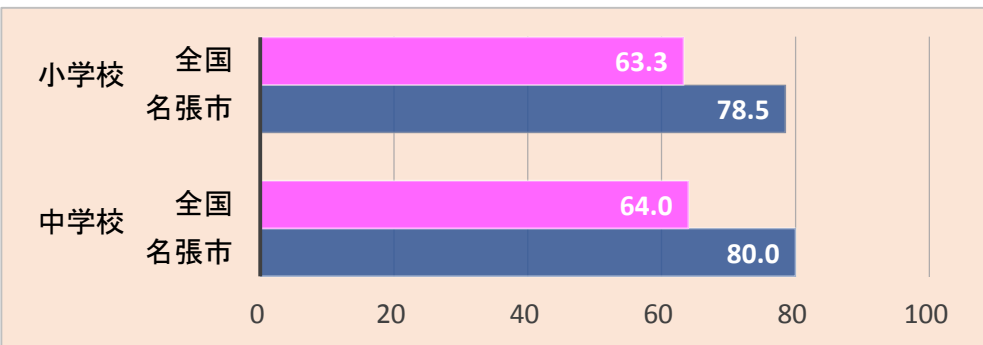
⑤平成29年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか。



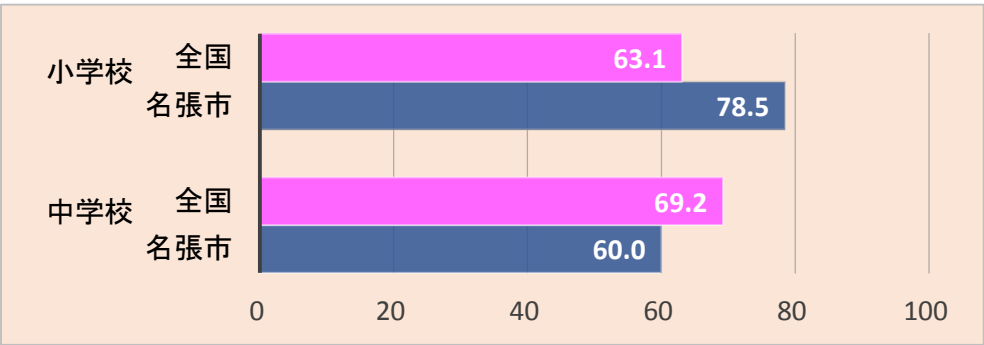
⑥児童（生徒）の姿や地域の現状等に関する調査や各種データに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか。



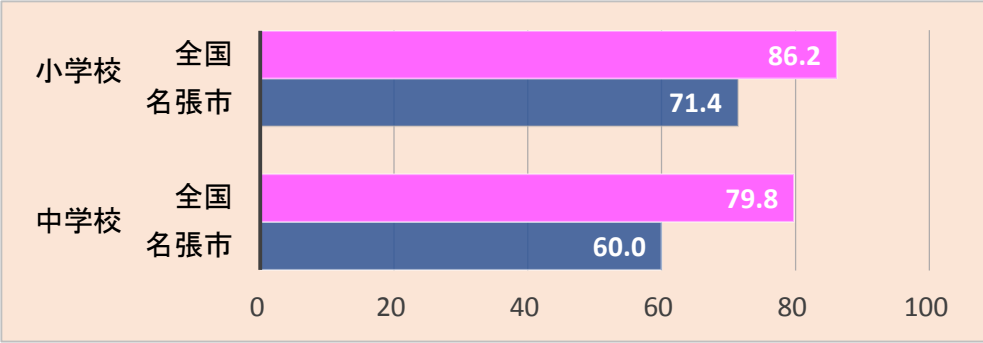
⑦平成29年度全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校（小学校）と成果や課題を共有しましたか。



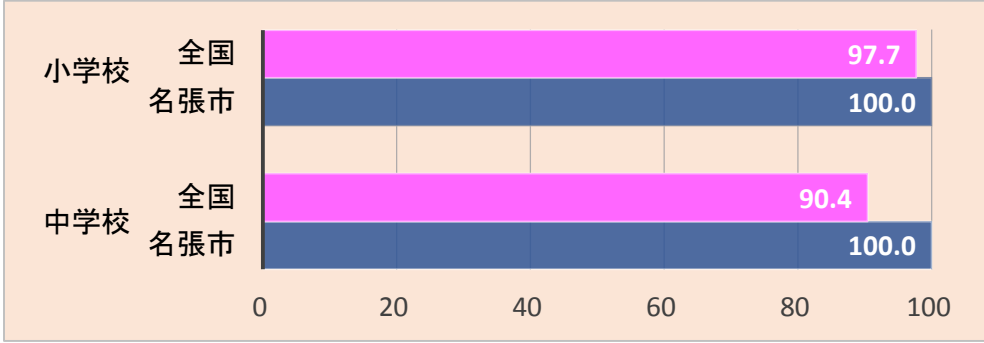
⑧前年度までに、近隣等の中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行いましたか。



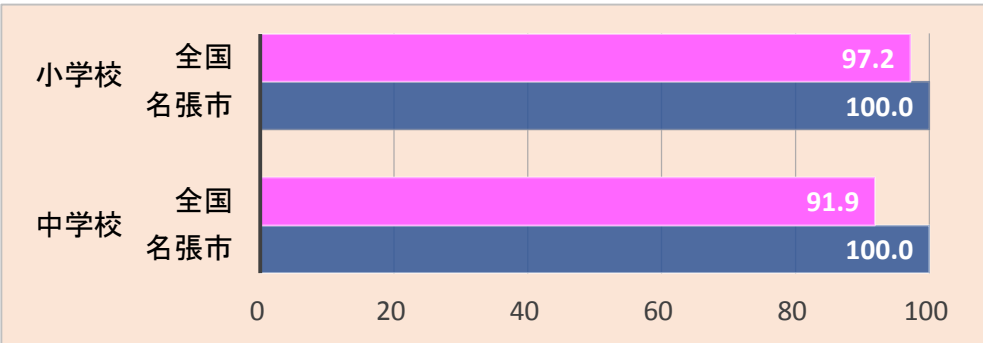
⑨調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会の設定を行いましたか。



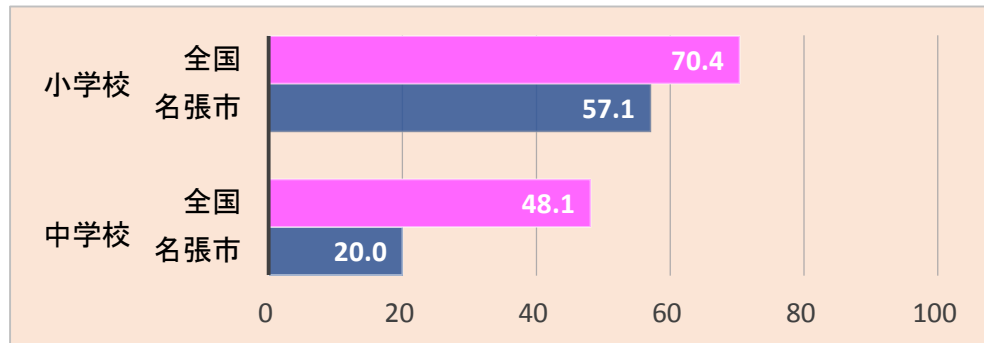
⑩保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動に参加していますか。



⑪調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、保護者に対して児童（生徒）の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか。



⑫校長は校内の授業をどの程度見て回っていますか。（ほぼ毎日）



※質問項目の後に（ ）のない場合、グラフの数値は、学校が「よく行った」「どちらかといえば行った」と回答した割合（％）

【学校質問紙調査について特徴的なこと】

・授業の冒頭でのめあての提示や振り返りについては、児童生徒質問紙、学校質問紙の質問項目から本年度削除された。昨年度までの結果においては、実施を示す数値は上がっているが、今後は、効果的な実施となっているか等研究・検証しながら、その質を高めていく必要がある。

・国語の指導に関しては、児童生徒質問紙、学校質問紙の質問項目から本年度削除された。名張市として「書くこと」を中心とした言語活動の充実に取り組んでいるため、書く機会は増えてきているが、書くことへの苦手意識を払拭しつつ、ただ書くのではなく、根拠に基づいて書く、条件を満たすように書く等、工夫して指導していく必要がある。

・算数・数学では、補充的な学習の実施については小中学校ともに１００％、発展的な学習の実施については、小学校において昨年度に続き全国平均を上回った。今後も、補充的な学習を適宜実施し、基礎的な知識・技能を確実に身に付けさせ、定着を図りながら、児童生徒の実態に応じ、発展的な内容の取扱いを増やしていく必要がある。

・理科では、児童生徒の好奇心や意欲を喚起するため、観察・実験の機会を増やすことはもちろん、自ら考えた仮説をもとに観察・実験の計画を立てたり、観察・実験の結果を整理・分析・考察・解釈したりする等、思考を働かせて能動的に取り組ませる工夫が必要である。

・全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、学校全体で教育活動を改善するための活用については小中学校ともに１００％となっているが、PDCAサイクルの確立については、全国平均を下回っている。実施した取組が効果的であったかを常に評価・改善することで、学力向上につなげるとともに、新学習指導要領も視野に入れ、主体的・対話的で深い学びが各教科等で展開されるよう改善していく必要がある。

・各小中学校は、本調査の結果等を積極的に保護者や地域に発信しており、学校生活ボランティア等、保護者、地域の方々が様々な活動に参加し、充実した教育活動が展開されている。

・小中一貫教育をめざし、近隣の小学校（中学校）と教育目標を共有する取組が、全国より進んでいる。

・校長が校内の授業を見回る割合は、小・中学校ともに全国より低い結果となっており、今後も校長のリーダーシップのもと、全校体制で授業改善に取り組んでいく必要がある。

5 成果、課題と今後の取組について

名張市教育委員会では、平成28年度からは、第二次名張市子ども教育ビジョン（平成28年3月策定）に基づき、「夢をはぐくみ 心豊かで 元気な 『ばりっ子』」を目指す子ども像に、さまざまな取組を進めているところです。

子どもたちの確かな学力の向上をめざし、数年来取り組んできた『学力向上3本の矢』（①めあての提示と振り返りのある授業、②日常的な言語活動の充実、③充実した家庭学習）は、各学校・教職員にもかなり浸透し、一定の成果が見られます。

また、すべての中学校区で取り組んできた『魅力ある学校づくり』（わかる授業づくり、心の居場所づくり・絆づくり）についても、安心して学べる親和的な人間関係、学習環境づくりにおいては成果が上がってきました。

さらに、昨年度からは、平成29年3月に告示された（本年度は移行期間の）新学習指導要領も見据えた新たな視点も加え、『主体的・対話的で深い学び』の3つの視点から学習過程の質的改善をすることによる授業改善に取り組んでいます。

このように、子どもたちにとってわかる授業づくりを進めることにより、子どもたちの学習意欲と学力の向上をめざすとともに、子どもたちの生きる力を育て、中学校卒業時には十分な学力をつけて卒業できるよう取り組んできました。

これまでの取組の結果、本年度の調査で以下のような成果が現われています。

○ 小学校では、本年度、すべての教科で全国平均を下回りましたが、中学校では、国語B以外で全国平均を上回り、数学で全国平均を上回るか同等程度となるいい結果がここ数年続いています。また、過去2回、小中学校ともに全国平均を下回っていた理科で、今回、中学校において全国平均を上回りました。

本年度の中学校3年生生徒が小学校6年生時の結果と比較してみると、国語B以外の教科で、全国比3ポイント以上の伸びが見られました。

○ 各教科の無解答率は、10教科中6教科で昨年度（前回調査）より改善され、同じく中学校5教科で全国平均より良い結果となりました。最後まで諦めず粘り強く取り組むよう指導している成果と考えられます。

○ 児童生徒質問紙調査において、「授業の内容はよく分かりますか」という質問に対し「当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、中学校理科で昨年度より高くなり、小学校算数、中学校数学・理科で全国平均を上回りました。授業改善と児童生徒の学習意欲の向上が進んでいる結果と言えます。

地域貢献・社会貢献に関するほとんどの質問項目において、小中学校とも、昨年度より高くなりました。小学校1年生から4年生において本年度から試行している（小学校5年生から中学校3年生は来年度から試行）、ふるさと学習「なばり学」の実施により、さらなる向上が期待されます。

「人の役に立つ人間になりたい」等、貢献心において、本年度も全国平均を上回るよい傾向が見られます。

しかし、同時に以下のような課題もあります。

○ 国語では、小・中学校ともに、学年別配当漢字表に示されている漢字を使う（選択する）、書く基本的な問題で、無解答率が高い問題があり、定着に向けた指導法の工夫が必要です。また、小学校では、主語と述語との関係に注意して書く、目的や意図に応じて書く等、中学校では、構成を考えて文を書く、内容を整理して書く等、記述式問題に弱みが見られ、本市においても経年の課題となっています。

小学校算数では、小数の除法の意味、円周率の意味の理解を問う問題、百分率を求める問題、等、基本的な学習事項とともに、複数の情報から判断する問題等、記述式問題に弱みが見られました。中学校数学では、一次関数の意味、確率の意味の理解を問う問題等、基本的な学習事項とともに、数学的な表現を用いて説明する問題等、記述式問題に弱みが見られました。

小学校理科では、実験結果をもとに分析・考察内容を記述する問題等、中学校理科では、風向の観察方法や記録の仕方に関する問題、オームの法則を使って抵抗を求める問題、実験結果が得られた原因を記述する問題等に弱みが見られました。

- 最終問題の無解答率が一番高くなった教科が、小学校で4教科、中学校で2教科ありました。特にB問題が該当することから、学校で普段行っているテストとの形式の違いや、長い文章を短時間で読み解く力、問題に取り組むペース配分等の課題が要因であると考えられます。
- 家庭生活では、学習時間が短く、読書習慣も定着していない現状が本年度も見られます。家で学校の宿題をしますかという質問の肯定的回答が全国より高い傾向が続いていることから、自ら意欲的に家庭学習に取り組もうとする態度にまで高め、家庭学習を充実させ、学力向上に結び付けるための工夫した手立て・支援が求められます。

このような課題克服のため、「第二次名張市子ども教育ビジョン」の方針に基づき、さらなる学力の向上に向けた以下の取組をすすめます。

＜教職員の指導力の向上とたゆまぬ授業改善＞

これまでに引き続き、学力向上に向けた効果的な指導方法を全教職員で共有し、『魅力ある学校づくり』をベースにして、『学力向上3本の矢』（めあてと振り返りのある授業、言語活動の充実、充実した家庭学習）の取組を推進していきます。

また、平成32年度から小学校で、平成33年度から中学校で全面実施される新学習指導要領も見据えた新たな視点（『主体的・対話的で深い学び』の視点）も加え、学習過程の質的改善をすすめることにより、授業改善を図り、学校長のリーダーシップのもと、全校体制で学力向上に取り組んでいきます。

さらに、教育委員会の指導主事が積極的に学校を訪問し、学力向上のための各学校の今後の取組の聞き取りや授業参観等を実施し、具体的な指導助言をする等、直接的な学校支援を行います。さらに、教育センターの研修講座では、社会の情勢や学校の教育課題を考慮した満足度・活用度の高い研修を実施し、教職員の能力、指導力等を高めていきます。

＜PDCAサイクルの確立＞

全国学力・学習状況調査の結果提供が早期化されたことを受け、該当学年・教科担当者だけでなく、全校体制での分析によって自校の強みと弱みの把握に努めるとともに、弱みを克服するための学習指導・学習支援を早い段階から積極的に行います。

どの学校・どの学年・どの教科の担当者も、子どもたちにその学年で身につけるべき学力をきちんと身につけさせて進級・進学させるため、学力向上のため学校体制での系統的・継続的な取組、教職員の意欲的かつ主体的な取組を行い、全国学力・学習状況調査やみえスタディ・チェックを活用して年度内に取組を検証し、次なる授業改善に生かします。

＜小中一貫教育の推進＞

本市では、小・中学校が目指す子ども像を共有し、義務教育9年間を通して系統的な教育課程を展開することにより、小・中学校の円滑な接続とともに、安定して質の高い学力を保障していきます。また、子どもの心理的・身体的な発達段階に応じたきめ細やかな指導・支援を行うことにより、基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力をはじめとする子どもの学力向上はもとより、さまざまな子どものデータを小中学校で共有しながら、教職員が小中の枠を越えて子どもと関わり、これからの厳しい時代を主体的に生き抜く力の育成等をめざす、第二次名張市子ども教育ビジョンに掲げた、「夢を実現する力」、「社会を拓く力」を育てていくよう取組をすすめていきます。

＜コミュニティ・スクールの推進＞

これまでの家庭学習定着の取組はもとより、ファミリー読書の推進、スマホ等使用時間の抑制、食生活の改善、あいさつの習慣化等々、学校と家庭がより一層連携・協働を深め、取組をすすめていく必要があります。

学校が地域コミュニティの絆・生きがいの核となり、学校、家庭、地域がともに知恵を出し合い、子どもの豊かな成長を支えていけるよう取り組むコミュニティ・スクールの実現は、子どもの生活習慣改善をすすめる、学力の向上も果たしていくための大きな推進力となります。本市では、すべての学校でのコミュニティ・スクール実現をめざして取り組んでいきます。



夢をはぐくみ 心豊かで 元気な「ばりっ子」育成のために



将来の担い手となる
子どもたちのために

学校、家庭、地域、
教育行政が一丸となって

夢を実現する力
社会を拓く力

を育む教育を推進します！！

